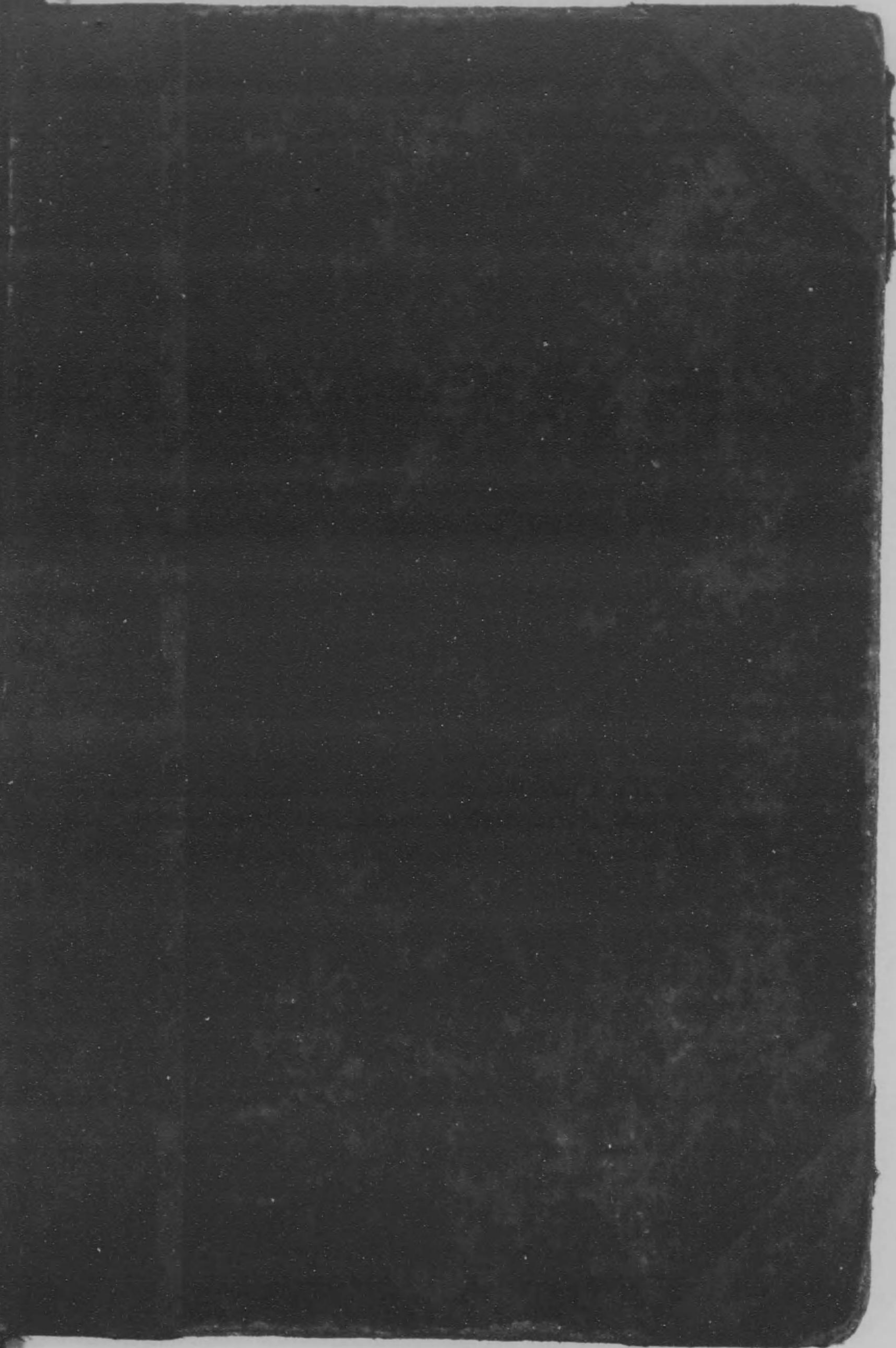




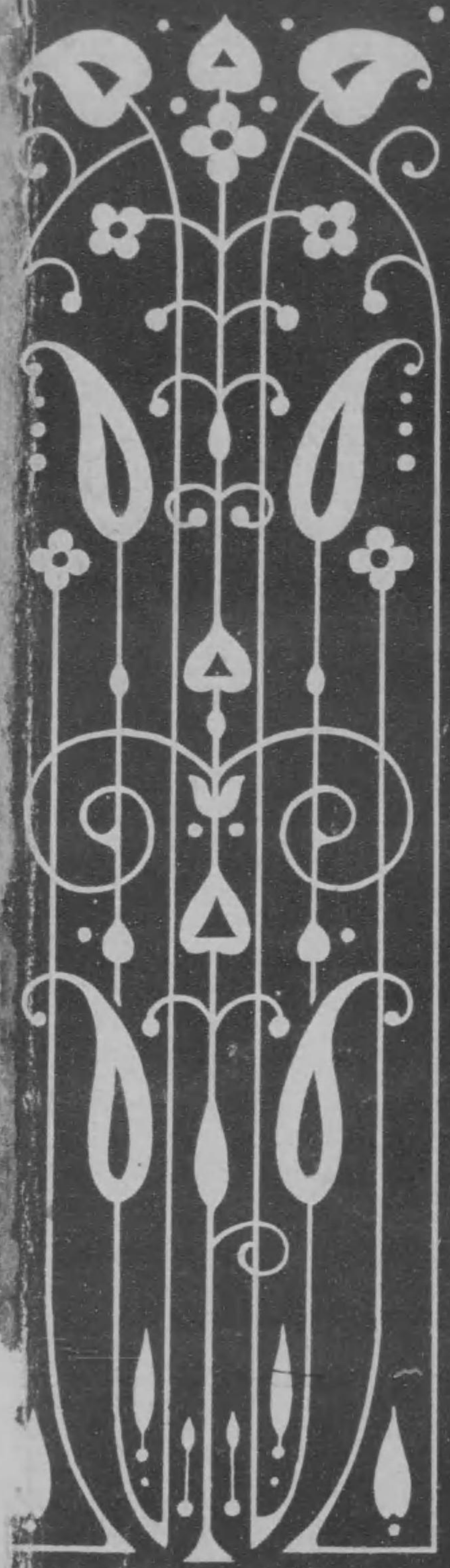
始



323
225

第276
334

True wood.



語學研究會編

譯讀に應用した**英文法の學び方**

323-225

I love you



英文法の學び方

馬鹿野郎

東京三陽堂發兌



之の年を讀むと英語が出来るようになるよ
今更けてよ 然り、此の如き本は英語を學ぶに
金くを、えんを、
たしかです、
著者、
大馬
6. 4. 18
内交

金 インチキ
彼女
私塾、
(金くです)

金 インチキ
(金くです)

志の
々々

序

文法を知るは文章を學ぶ上に於て極めて大切である殊に幼少の時分から更に用ひた事のない外國語を學ぶには先づ文法の大要を心得るの必要なることは今更言を待たぬ事である。然るに文典は人の言ふ如く趣味のないものであるから。其の必要を知りつつも之れを修得する事を怠るのは我が國學生の通弊である。趣味のない文典を趣味あり興味あるものとして知らず識らずの間に文法を會得せしめんとしたる本書の如きは此弊を矯す有益な著述である。

各章必ず譯讀を兼ねた範例を用ひ。その範例は外國の事ばかりでなく日本の昔噺などをも引用して讀者を厭かしめざるやうになし。又應用を主とした著書の缺點とすべき複雑なる説明なく各章が系統的に組織せられ教科書の如く一項一項順次に手際よく説き盡した處は大に著者の勞を多とするご共に讀者をして容易に文法の一般を理解せしむるものと信ずる。中學生。受験生は勿論苟くも英語を學ばんとする者に取つて有益なる好著として推薦する。

村井知至識

目次

總論..... 1

第一篇 品詞論

第一章 名詞..... 5

(1) 名詞の數..... 8

(2) 名詞の格..... 11

(A) 物主格の作り方..... 12

(B) 物主格の用所..... 14

(C) 格の變用..... 15

(3) 名詞の性..... 16

(4) 名詞の人稱..... 21

(5) 各種名詞の細説..... 23

(A) 普通名詞..... 23

(B) 固有名詞..... 25

(C) 物質名詞..... 23

(D) 抽象名詞..... 23

(6) 名詞の用途..... 33

(7) 名詞の代用となる語句..... 36

第二章 代名詞..... 38

(1) 人稱代名詞..... 40

(A) 回顧の IT..... 44

(B) 豫想の IT..... 41

(C) 不定の IT..... 43

(2) 所持代名詞..... 49

(3) 反當代名詞..... 50

(4) 關係代名詞..... 51

(5) 疑問代名詞..... 58

(6) 形容代名詞..... 60

(7) 代名詞の用途..... 74

第三章 形容詞..... 78

(1) 數形容詞..... 80

(2) 賦性形容詞..... 89

(3) 形容詞の比較..... 91

(4) 形容詞の細説..... 97

(5) 形容詞の用途..... 103

第四章 冠詞..... 108

(1) 不定冠詞..... 110

(2) 定冠詞..... 114

(3) 冠詞の省略..... 121

第五章 動詞..... 127

(1) 動詞の結法..... 136

(2) 直説法の時制..... 154

(A) 現在, 過去, 未來..... 154

(B) 完成..... 161

(3) 接續法の時制..... 164

(4) 命令法..... 170

(5) 可成法..... 172

(6) 助動詞..... 173

(a) {現在形 Shall. Will
過去形 Should. Would}..... 173

(b) {現在形 Can. may
過去形 Could. might}..... 179

(c) {現在} Must 現在 Need..... 185

(7) 假定文..... 188

(8) 不定法..... 190

(9) 分詞..... 198

(10) セラント..... 205

第六章 副詞.....209
 副詞の功用..... 220
 副詞の代用となる語句..... 225
 第七章 前置詞.....228
 (1) 前置詞の支配..... 230
 (2) 前置詞の用別..... 235
 第八章 接續詞.....256
 第九章 間投詞.....263
 第二篇 文詞論.....264
 第一章 文類(功用上の).....264
 第二章 文類(構造上の).....265
 第三章 成文の原材.....266
 第四章 成文の成分と結構.....270
 (1) 單純文..... 271
 (2) 錯綜文..... 284
 (3) 合成文..... 290

附錄 文典概覽表

本書中の譯例

Absolute infinitive.....獨立不定法	Factitive verb.....作成動詞
Absolute participle.....獨立分詞	Finite verb.....有限動詞
Active voice.....發動語法	Idiom.....慣用語句
Adjective pronoun.....形容代名詞	Indefinite form.....不定形
Adjunct.....附加言	Independent clause.....獨立句
Adverbial clause.....副詞句	Indicative mood.....直說法
Adverbial phrase.....副詞熟語	Infinitive verb.....無限動詞
Antecedent.....先行, 先行名詞	Infinitive phrase.....不定法熟語
Appositive case.....同格	Irregular comparison.....不規則比較
Cardinal (number).....原數	Material adjective.....物質形容詞
Causative verb.....使令動詞	Modal adverb.....帶樣副詞
Cognate object.....同族目的	Modifier.....裝飾言
Cognate verb.....同族動詞	Multiple.....倍數
Common gender.....通性	Nominative absolute.....獨立主格
Complement.....補足	Nominative case.....主格
Complex sentence.....錯綜文	Noun clause.....名詞句
Compound adjective.....合形成容詞	Noun phrase.....名詞熟語
Compound noun.....合成名詞	Numeral.....數詞
Compound relative pronoun.....合成關係代名詞	Numeral adjective.....數形容詞
Compound sentence.....合成文	Objective adverbial.....目的格副詞
Conjugation.....結法	Ordinal (number).....順數
Conjunctive adverb.....接續副詞	Participial phrase.....分詞熟語
Co-ordinate adverb.....同級接續詞	Passive voice.....受動語法
Correlative conjunction.....對立接續詞	Perfect infinitive.....完成不定法
Dative object.....與格目的	Perfect participle.....完成分詞
Dative verb.....與格動詞	Perfect tense.....完成, 完成時
Dependent clause.....從屬句	Personal pronoun.....人稱代名詞
Etymology.....品詞論	Phrase.....熟語
	Positive degree.....原級

Possessive pronoun.....所持代名詞	Reflexive verb.....反射動詞
potential mood.....可成法	Root.....根
Predicate.....客言	Sentence.....成文
predicate nominative.....客言主格	Subordinate clause.....從屬句, 從句
Prepositional infinitive 前置詞不定法	Subordinate conjunction.....從屬接續詞
Principal clause.....主句	Syntax.....文詞論
Progressive form.....持續形	Tense.....時制
Pronominal adjective 代名詞性形容詞	Verbal adjective.....動詞性形容詞
Pure infinitive.....純粹不定法	Vocative case.....呼喚格
Qualifying adjective.....賦性形容詞	Voice.....語法
Reflexive pronoun.....反射代名詞	

譯讀に英文法の學ひ方
應用した

總論

範例 1. Socrates was a great philosopher of Athens and the wisest man in Greece. His wife, Xanthippe, was a very cross woman of violent temper. One day, after she used the most bitter words, she poured dirty water over his head. This was an act which nobody can endure, but he calmly said, "Hum! after thunder, there generally falls rain."

【ソクラテスは雅典の大哲學者で希臘第一の賢者だった。妻のザンチッピは氣質の亂暴な根性悪い女だった。或日散々悪罵した後、夫の頭に汚水を浴びせた。此は誰も勘辨できない所作だが、ソクラテスは平然として“フン！雷鳴の後には大概雨が降るものよ”と言った。】

1 範例中 Socrates と Xanthippe は人名で、Athens と Greece は地名である。又 philosopher, man, wife, woman, temper, day, words, water, head, act, nobody, thunder, rain は有形又は無形の事物の

名稱である。斯く

事物の名となる語を名詞 (noun) といふ。

2 範例中 *his, she, this, which, he* は何れも事物の名 (即ち名詞) の代りとなる語である。斯くの如く。

名詞の代りとなる語を代名詞 (pronoun) といふ。

3 範例中 *the, a, an* は其次の名詞を用ひる範圍に制限を加へてゐる。斯く

名詞の適用範圍に制限を加へる *the, a, an* なる三語を冠詞 (article) といふ。

4 範例中 *great, wisest, cross, violent, one, bitter, dirty* は次なる哲學者、人、女、氣質、日、語、水の性狀、數、位置等を示してゐる。斯く

事物の性狀、數、量、位置等を示すため名詞に附加する語を形容詞 (adjective) といふ。

5 範例中 *was, used, poured, can, said, falls* はソクラテス、妻、彼女、彼、雨などが何物であるか何事をしたか等を講説する語である。斯く

事物の動作を言ひ表はす語を動詞 (verb) と名づける。

6 範例中 *very* と *most* は *cross* と *bitter* なる性狀の強弱多少を示し、*calmly* は *said* なる動作に伴ひ起る事情を示し、*generally* は降雨の度數の多少を示し、*there* は降雨の場所又は時を示してゐる。斯く

動作、狀態、性質等の模様、強弱、多少等を示すため、又は此等に伴ひ起る事情を示すため、動詞又は形容詞に附加する語を副詞 (adverb) といふ。副詞は又他の副詞を更に明狀するにも用ひる。

7 範例中 *and* は其前後の語句を繋ぎ合せ、*after* は *she used.....* なる句と *she poured.....* なる句とを繋ぎ合せ、*but* は其前文と後文とを結合してゐる。斯く

二語、二句、又は二文を連結する働きをなす語を接續詞 (conjunction) といふ。

8 範例中 *of* は *of Athens* 及び *of violent temper* なる二個の形容詞性熟語を作り、*in* は *in Greece* なる形容詞性の熟語を作り、*over* は *over his head* なる副詞性の熟語を作り、*after* は *after thunder* なる副詞性の熟語を作る語である。斯く

形容詞性又は副詞性の熟語を作るため名詞又は代名詞の前に置く語を前置詞 (preposition) と名づける。

9 範例中 *hum* は之ぞといふ特殊の意味を持たないけれど、何となく一種の感動を示してゐる。斯く文中の他部分に關係せず單に感動を示す發聲を間投詞 (interjection)、一名感動詞 (exclamation) といふ。

10 品詞論 以上の諸語は皆品詞 (part of speech) で、總計九品詞 (the parts of speech) となる。又冠詞を棄て、八品詞とし、不定法を加へて十品詞とする人もある。そこで

品詞の性質、變化、功用等を説くのが品詞論 (etymology) で、文法を學ぶ基礎の知識である。

11 文詞論 偕て箇々の品詞に通熟しても、之を排置して文を組立てる方法を知らねば、柱、梁、敷居、鴨居などを知て家の構造を心得ぬも同じである。そこで

品詞を正しく排列して成文を建設する方式を説くのが文詞論 (syntax) で、實に文法の極致である。

12 文典 故に文法を學ぶには必ず品詞論と文詞論の二つを學ばねばならぬ。要するに

文法即ち文典 (grammar) とは正確に國語を使用する規則及び慣例である。或は又此規則及び慣例を論ずる學である。

第壹篇

品詞論

第壹章——名詞

範例 2. One Christmas¹ morning,² Mary³ 1,2,3 looked out of a window⁴ of her house⁵ in London,⁶ 4,5,6 and saw a body⁷ of poor children⁸ walking in the 7,8 snow⁹ and ice.¹⁰ They all shivered with cold,¹¹ and 9,10,11 were pale with hunger.¹² Our good little girl,¹³ 12,13 who took pity¹⁴ on these strangers,¹⁵ called them 14,15 in; and taking them into a room¹⁶ warm with good 16 fire,¹⁷ she gave them cups¹⁸ of nice milk¹⁹ with 17,18,19 bread²⁰ and butter.²¹ The party²² wept with 20,21,22 gratitude²³ and cried for joy;²⁴ but Mary²⁵ was 23,24,25 startled at the noise,²⁶ and woke at once to find 26 herself to have been in a dream.²⁷ 27

【或る降誕祭の朝、メライは倫敦なる我家の窓から外を眺めると、一群の貧い小兒の氷雪を冒して歩むのを見たが、皆寒さで震ひ、空腹で青い顔だった。少女は誰人かは知らねど不憫に思つて之を呼入れ、火の暖かき焚いてある室へ連れ込で一同へ旨い乳と

startled

麵包とバタを與へた。此連中は有難涙をこぼして嬉し泣したが、少女は其聲に驚いて忽ち目を覺ませば全く一場の夢であつた。】

1 固有名詞 範例中の Christmas は十二月二十五日のみの名、Mary は此話の少女のみの名、London は英國の首府のみの名で、他にもメリイ、倫敦などいふ人や地はあらうが、性状、形質、身分等が同じ故同名を附したのでなく、風俗、流行、出來心、其他偶然の事情で同名なのである。それで

唯一の人畜、場所、日、月、團體、建物、器具等の特有の名稱が固有名詞 (*proper noun*) である。一

- 源爲朝。 池月(馬名)。 霧島山。 利根川。
- 日本海。 歌舞伎座。 愛國婦人會。
- 外國語學校。 朝日新聞。 正月。
- 紀元節。 木曜日。 金剛艦。 薩摩丸。
- 青葉の笛。 千鳥の香爐。

固有名詞は頭文字 (*capital*) で書始める。

2 普通名詞 範例の朝、窓、家、小兒、少女、他人、室、コップ、夢などは何れも同種の多數事物に通用する名で、幼い女兒なら何時でも *girl* と呼べる。そこで

同種類に屬する多數の事物(個々分立したる)に適用し得べき名が普通名詞 (*common noun*) である。一

- A pupil. A dog. A lion. A pen.

- A watch. A tree. A river. A hill.
- A ship. A train. A star. A bridge.
- A country.

3 物質名詞 範例の雪、氷、火、乳、麵包、バタ等は數で計らず、量で計る物である；氷一塊を十分百分千分しても、百倍千倍しても均く *ice* である。そこで

個物を作る實質の名が物質名詞 (*material noun*) である；此名詞には複數がない。一

- Water. cloud. Tea. Sand. Coal.
- Iron. Stone. Wood. Cotton. Steam.

4 抽象名詞 範例の寒さ、空腹、憐み、感謝、喜悅、響等は有形物の名でなく、事物の性質、働き、又は状態につけた名である；此名詞にも複數がない。そこで

性質、動作、又は状態に與へられる名が抽象名詞 (*abstract noun*) である。一

- Length. Size. Color. Whiteness.
- Strength. Health. Courage. Patience.
- Honesty. Wisdom. Reading. Religion.
- Election. Birth. Death.

5 集合名詞 範例の *body* (群)、*party* (連中) は物の物が集合して出來た團體の名で、一小兒のみを名を下せない、一人を國民と言はないのと同じである。そこで

数個の事物から成立つ集合體の名が集合名詞 (collective noun) で、普通名詞の一種である:-

A nation. A family. A company.
An army. A fleet. A committee (委員會).

(1) 名詞の數

範例 3. The sun¹ is shining, the air² is sweet,^{1,2}
and the songs³ of birds⁴ are heard on all sides.^{5, 3.4.5}
The leaves⁶ of trees⁷ are fresh, and some trees⁸^{5.7.8}
bear berries⁹ on the branches.¹⁰ The bushes,¹¹ and^{9.10.11}
grasses¹² flourish, and their blossoms¹³ please our^{12.13}
eyes.¹¹ Farmers,¹⁵ with boys,¹⁶ girls,¹⁷ men-ser-^{14.15}
vants,¹⁸ and shepherds,¹⁹ are out, growing greens,²⁰^{16.17}
digging potatoes,²¹ or tending cattle²² and sheep,²³ in^{18.19.20}
their several fields⁴ and meadows.²⁵ These^{21.22.23}
works⁶ are amusing to both men²⁷ and children,²⁸^{24.25}
and very healthy to their bodies⁹ as well.^{26.27.28}²⁹

【日は照り、空氣は爽快で、鳥の聲が四方に聞こえる。木の葉は榮え、枝に實のある木もある。叢林も草村も繁茂して、其花は目を慰める。農夫等は童男、童女、下僕、牧人を連れて外に出で、畑や牧場で青物を作り、馬鈴薯を掘り、或は...

番してゐる。こんな仕事は大人にも小兒にも面白く、且又甚だ身體の健全をも助ける。】

6 一個の事物を指す名詞を單數 (singular number) の名詞といふ、範例の sun¹ と air² が夫れである。

7 一個より多き事物を指す名詞を複數 (plural number) の名詞といふ、範例の sun¹ と air² を除けば其餘の名詞は悉く複數である。

嚴正にいへば普通名詞の資格がなければ複數とすることを許さない。

8 複數名詞の規則形 單數名詞の末に s を附して作り綴音を増さず; 範例中太き字の名詞は皆是で、其單數は song, bird 等である。

9 單數名詞の語尾に s, x, ch, sh がある者は es を附して作り、綴音を一つ増す; 範例の branches, bushes, grasses が夫れで、box, tax は boxes, taxes となる。但し monarch の如く ch が k に響く者は s のみを附す。

10 單數名詞の語尾に一つの o があつて其前に子音字ある者は es を附し、綴音を増さず; potatoes, cargoes の如し。但し grottos, tyros の如く s のみを附する者も多い。

11 單數名詞が y にて終り其前に子音字ある者は y を i に變じて後 es を加へ、綴音を増さず; 範例

yeel hodie

の *berries, bodies* などが是れで、其單數は *berry, body* である。

12 單數名詞が *f* 又は *fe* で終る者は多く此 *f* 又は *fe* を *v* に變じて後 *es* を加へ、綴音を増さず；範例の *leaves* が是で、單數 *leaf* の複數である。此外 *half, knife, thief, life, self, wife, wolf* 等も此規則に従ふ。但し此に従はず單に *s* を加へる者は *roof, reef, cliff, life*, 其他尙多い。

13 複數名詞の不規則形 (irregular form)

單數	複數	單數	複數
Child,	children.	Man,	men.
Foot,	feet.	Ox,	oxen.
Goose,	geese.	Tooth,	teeth.
Louse,	lice.	Woman,	women.
Mouse,	mice.		

此外又異様のものあれど略す。

14 單複同形の名詞:—*Cannon, deer, fish, means, rest* (他の者), *sheep, &c.*

Fish は數を示す時に *es* を加ふ、量を示す場合や物質を云ふ場合には變化なく、且單數と見做す。

此外煩雜な諸語あれど略す。

15 常に複數なる名詞 範例の *cattle* は常に複數と見做し、決して一匹の牛畜を指さない。一匹ならば *cow, ox, calf* などを用ひる。

16 範例の *greens* (野菜)、其外 *nuptials* (婚禮)、*victuals* (食物)、*wages* (賃錢) 等は常に必ず複數として扱ふ。

17 一對をなす道具又は衣服 *tongs, shears, scissors, spectacles, trousers, breeches* 等は常に複數である。

18 合成名詞の複數 合成名詞は其の主要部分のみを複數形とする；*sisters-in-law, step-sons, watch-makers* の如し。

19 *Man-servant* の如きは、範例(18)の如く *men-servants* とする人もあり、*man-servants* とする人もある。

20 外國名詞の複數 外國から借りた名詞は其本國の規則に従つて複數を作る者が少なくない；*axis, axes, beau, beaux, datum, data, focus, foci, genus, genera, memorandum, memoranda, radius, radii* 等は其一端である。

(2) 名詞の格

範例 4. *Kuranosuke* went into *Kozukenosuke's sleeping-room*, and touching the *bed* with his *hands*, exclaimed, "The *bed-clothes* are yet warm, and so I think our *enemy* certainly is not far off."

grand child

【内藏之助は上野介の寢間に入り、手を寢床に入れて“蒲團がまだ温かい、左すれば我敵は必定遠く行ってをるまい”と呼ばはった。】

21 範例の内藏之助、蒲團、敵などは went, are, is 等の主 (subject) で、邦語に譯すれば語尾に“は”又は“が”をつけられる；此場合に其名詞は主格 (nominative case) に在るといふ。又寢室と寢床とは into 及 touch なる前置詞と動詞の目的 (object) で、和譯には“に”か“を”の語尾がつく；此場合に其名詞は目的格 (objective case) に在る。又上野介のは譯語の末に“の”がつく；此場合の名詞は物主格 (possessive case) に在る。そこで

名詞が他の語に對する資格を格 (case) といふ。

代名詞にも此三格があつて格相應の變形があるけれど、名詞では物主格のみに變形がある。

22 同格 (appositive case) King George の如く前の名詞と同一事物を指し同一資格をもつ名詞の格式をいふ；此場合に前の名詞が主格ならば自己も主格となり、前者が目的格ならば我も目的格となる。

(A) 物主格の作り方

範例 5. My *sister-in-law's*¹ daughter is receiving a good *teacher's*² instruction at a *girls'*³ school,^{2,3}

with a *niece of Mary's*⁴. She bought a copy of *Scott's*⁵ *Ivanhoe* at *Maruya's*⁶ (store) last winter,^{5,6} Some days ago she lost it, perhaps leaving it at *her aunt May Brown's*⁷ (house). Yet the idea of the *book's*⁸ being gone does not trouble her much,⁸ because another copy can be had at an *hour's*,⁹ notice.

【私の義妹の娘は某女學校でメリイの姪と共に良教師の教を受けてゐる。去冬丸屋の店でスコットの著はしたアイヴァンホーを一冊買ったが、數日前之を失った、多分伯母なるメイ、ブラオンの家に置忘れたのだらう。併し書物の無くなったのを彼女は餘り苦にせない、一時間前に申込んだら又一冊手に入れられるから。】

23 範例の *teacher's*², *Mary's*⁴ の如く名詞の末に ('s) を附せば物主格となる。又 *girls* の如く複数の語尾 s の附いた語は單に (') を加へて *girls'* とせば物主格となる。但し s なき複数 *men* などは *men's* とする。

24 又 *sister-in-law's*¹ の如きは合成名詞だから最後の成分のみに ('s) を加へて物主格になつてゐる。

25 又 *aunt May Brown's* に於ける如く、同格名詞の物主格も最後の名詞のみに ('s) を加へる。

(B) 物主格の用所

- 26 範例の teacher² の如く行爲者となる場合。
- 27 範例の Scott³ の如く作者 (又は發明者) となる場合。
- 28 範例の Brown⁷ の如く所有者となる場合。
- 29 範例の sister-in-law¹ の如く他の人 (娘) と人事上の關係ある場合。
- 30 範例の girls³ の如く人物の收容所を指す場合:—a children's hospital, a debtor's prison 等も亦然り。但し an infant-school の如く ('s) を加へない破格の例も少なくない。children's hospital
- 31 範例の hour's⁹ の如く時間を示す場合。又 a mile's running の如く距離を示し、a dollar's worth of rice (米一圓がとこ) の如く價值を示す場合。
- 32 範例の book's の如くゼラントとの結合をなす場合。(Beaumont's)
- 33 日、月、地球、大洋、天空、山、河、草木等の名は往々物主格として用ひる:—the sun's rays, the moon's shining, the earth's surface, the river's banks, the mountain's top, the tree's foliage.
- 34 此外 the house's roof, the street's length, the book's price などともすれど稀である。要するに

35 物主格の語尾變化は人及び他の動物を示す名詞に用ひる。

36 慣用語式:—

Peter's child = { (1) ピーターの獨子。
(2) ピーターの數子中何れと知してある一人。

A child of Peter's = ピーターの數子中の一人。

下例も同理で

A book of my uncle's = one of my uncle's books.

This hat of Smith's = this one of Smith's hats.

(C) 主格の變用

範例 6. Matayemon drew near to Kazuma and said, "Courage, *Kazuma!* The *Ronins* being all killed, there now remains only Matagoro; he is the real *object* of your revenge."

【又右衛門は數馬に近く寄り、^又“シツカリし給へ、數馬殿! 浪人原は悉皆斃れて残るは股五郎唯一人、奴こそ御身が^{カタキ}仇敵と目指す當の本人”と言った。】

37 呼喚格 (vocative case) 範例中第二の數馬は又右衛門が呼掛ける言葉、斯様な名詞は呼喚格に在るといって、實は主格に相違ない。

38 獨立主格 (nominative absolute) 範例中の浪人は“殺される”なる動作の主で獨立主格といひ、矢張主格である。

39 客言主格 (predicate nominative) 範例中 object は is なる自動詞の補足で客言主格といひ、亦主格である。

客言主格を取り得べき自動詞は此外 *become, prove, turn out, remain, seem, appear* 等。客言主格は又 *be made, be chosen, be elected, be created, be declared* 等の補足となる。

(3) 名詞の性

範例 7. Sogoro's eldest *son*¹ opened his *eyes*^{2 1,2} and said to his *parents*³ “Oh! my *father*⁴ and *mother*⁵, I am going before you to *Paradise*⁶ to wait for you. My little *brother*⁷ and I will be on the *banks*⁸ of the *river*⁹ Sandzu, and stretch out our *hands*¹⁰ and help you across. Farewell, all you who have come to see us die.”

【宗五郎の長男は目を開いて兩親に言ふやう、“とゞ様、かゞ様、御先へ極樂へ參つて御待申します。私は幼い弟と共に三途の川の川岸で手を伸ばし、御

手を引いて御渡し申しましょう。死にざまを見よとて御越された皆々様、イザおさらば。”】

40 範例の *son*¹, *father*⁴, *brother*⁷ は男を指す故 男性 (masculine gender) の名詞、又 *mother*⁵ は 女性 (feminine gender) の名詞、*eyes*², *Paradise*⁶, *banks*⁸, *river*⁹, *hands*¹⁰ は男でも女でもないから 中性 (neuter gender) の名詞である。又 *parent*³ は男にも女にも通じるから 通性 (common gender) の名詞である。

代名詞にも男女中の三性があつて、之を用ひる時の都合があるから名詞の性を心得置く必要がある、左なくば名詞の性は英語に重要でない。

41 英語の名詞の性は概ね實物の自然性に從ふのであるから甚だ便利である。例へば

男性：—*man, boy, husband, king, nephew, monk, ox, cock, horse, &c., &c.*

女性：—*woman, girl, wife, queen, niece, nun, cow, hen, mare, &c., &c.*

通性：—*pupil, friend, person, servant, cousin, neighbour, Japanese, goat, sparrow, &c., &c.*

中性：—*food, tree, star, village, shop, reading, arrival, distance, madness, &c., &c.*

42 集合名詞は中性と見做す：—*fleet, army, crowd, mob, society, parliament, audience* 等。

- 43 男女の區別を立てる必要なくば *child* と *infant* は中性として扱ふ (代名詞 24 節参照)。
- 44 人以外の動物も性の區別必要なければ中性とする。
- 45 船は一般に女性に取扱ふ:—*boat, ship, vessel, steamer, man-of-war* (軍艦), *schooner* 等。
- 46 國名にて國民を指す時は女性と見做す:—
Britain is now at the top of her greatness.
- 47 男性名詞を男女の總稱とすることがある, *man, actor, author* の如し:—
Men are selfish thing. 人といふものは自分勝手なものだ。
- 48 女性名詞を男女の總稱とする場合がある, *cow, goose* の如し。
- 49 詩的の性 (*poetical gender*) 詩的の文には時々擬人 (*personification*) の話法により無生物を男又は女に見立て重もに次の規則に従ふ:—
- (1) 強盛、優勢、猛烈、威嚴、崇高などの性ある事物の名は男性と見做す。例.—*sun, morning, summer, winter, time, fear, war, murder, death, revenge, &c., &c.*
- (2) 溫和、優美、善良、豊富、多産などの性ある事物の名は女性と見做す。例.—*moon, night, evening, spring, Nature, mercy, peace,*

hope, truth, virtue, pity, sorrow, plenty, &c., &c.

50 男女性の辨別法 (第一) 全く異なる語の使用:—

男性	女性	男性	女性
boy	girl	lad	lass
brother	sister	lord	lady
bull	cow	man	woman
cock	hen	monk	nun
father	mother	nephew	niece
gander	goose	ox	cow
horse	mare	papa	mamma
husband	wife	son	daughter
king	queen	uncle	aunt

51 (第二) 性を示す語の前添へ:—

男性	女性
<i>male-servant</i>	<i>female-servant</i>
<i>man-singer</i>	<i>woman-singer</i>
<i>he-goat</i>	<i>she-goat</i>
<i>cock-sparrow</i>	<i>hen-sparrow</i>
<i>buck-rabbit</i>	<i>doe-rabbit</i>

52 (第三) 語尾の變化 此辨別法には大要次の三種がある:—

- (a) 男性名詞は *or* か *er* なる語尾を有し、其次に *ess* を附加して女性となるもの。

- (b) 男性名詞の語尾を變更し又は變更せずして *ess, ine,* 又は *ina* を附加し女性となすもの。
 (c) 男性名詞は *tor* なる語尾を有し、女性名詞は *trix* なる語尾を有するもの。

此三種以外の者も少々ある。

男性	女性	男性	女性
abbot	abbess	host	hostess
actor	actress	hunter	huntress
administrator	administratrix	Jew	Jewess
author	authoress	landgrave	landgravine
baron	baroness	lion	lioness
count	countess	murderer	murderess
czar	czarina	negro	negress
doctor	doctress	patron	patroness
don	donna	poet	poetess
duke	duchess	prince	princess
editor	editress	prophet	prophetess
emperor	empress	sorcerer	sorceress
god	goddess	sultan	sultana
governor	governess	tailor	tailoress
heir	heiress	tiger	tigress
hero	heroine	traitor	traitress
		viscount	viscountess

53 此外に女性名詞から男性を作るのがある：——

女性	男性
widow	widower
bride	bride-groom

54 固有名詞にも男女性の語尾變化がある：——

男性	女性
Joseph	Josephine
Harry	Harriet
Alexander	Alexandr(in)a
Philip	Philippa

&c., &c.

(4) 名詞の人稱

範例 8. After the usual *compliments* had been exchanged, *Banzuin Chobei* sat down by the *host*. Before they began to drink, the latter said, "You must be tired with your *walk* this hot *day*, *Master Chobei*. I, *Jiurozaemon*, thought that perhaps a *bath* might refresh you, so I ordered my *men* to get it ready for you."

【互に普通の挨拶をかはせた後幡隨院長兵衛は主人の側に坐った。酒宴の始まらぬ内主人の言ふよう、暑さの砌遠路の所定めて御疲れであらう。入浴

相成らば心地よかるべしと存じ、此十郎左衛門は貴殿のため風呂を用意するよう家來に申付けておいたでござる。”】

55 範例の十郎左衛門は主人が自ら我身を指して言ふ、此場合の名詞を第一人稱 (*first person*) に在るといふ。

56 次に長兵衛殿は主人が客に宛て、言ふ名で、之を第二人稱 (*second person*) の名詞といふ。

57 範例に在る諸他の名詞は談話者を指すでもなく、又對話者を指すでもなく、此二人の外に立つ第三者である、之を第三人稱 (*third person*) に在るといふ。

談話及び文章の中に用ひる諸種の名詞は殆んど皆第三人稱である。

第二人稱の名詞は多くは對話者を呼掛ける場合に用ひられ、其他は大概 *you, your* なる第二人稱の代名詞を用ひる。

第一人稱の名詞を用ひるは極めて少なく、偶々有っても概ね第一人稱の代名詞 *I, we* 等と同格に用ひる；我邦の語でも類似の事があつて“臣正成申す”“此辨慶それ嫌ひ”などいふ様な場合は稀に見る所である。

(5) 各種名詞の細説

(A) 普通名詞

範例 9. The *Japanese* are a civilized, brave, and loyal *people*. Though the *nobility*, which consists of several *hundred noblemen*, is called the bulwark of the Imperial *family*, the *people*, from the highest *officials* down to *peasantry*, believe themselves also to be the same. Their perfect constitution and the *2600 year old dynasty* are among their greatest *prides* and *glories*. In *the Far East* their star is now in the ascendant, and they may well call their country *the Land of Rising Sun*.

【日本人は文明で剛勇で忠義な國民である。數百の貴族より成る華族は皇室の藩屏と稱せられるけれども、人民は最高官吏から農民に至るまで自からも亦そうだと信ずる。其完全なる憲法と二千六百年續いた皇統とは最も其の誇りとする所である。今や彼等は極東に於いて盛運赫々たる有様で、人民が自國を日の出の國と呼ぶのは尤もな次第である。】

58 範例中 *noblemen, officials, prides, glories* は何れも普通名詞ゆへ複數にできたので、意味さへ許さば *bulwark, constitution, history, star, country* も亦複數にできぬことはない。

59 範例中 *Japanese* は Japan から来た普通名詞で、一人、多数、又は國民の名にもなり、全國人を指すには the を加ふ; *Chinese, Portuguese* も亦然り。

English, French 等は the を加へて全國人を指せども、一人には *Englishman, Frenchman* とし、複数の時は man を men に變ず。

American, Russian, German は一人を指し、複数には語尾に s を加ふ。

60 範例中 *nobility, family*, 及び第一の *people* は單数の集合名詞で、*people* は *nation* と同意になる; 故に二個以上の國民を *peoples* と言へる。

61 然るに第二の *people* は *persons* の意、又 *peasantry* は數多の *peasant* (農夫) の意で、何れも複数に取扱ふ。範例の *family* も亦家の諸人を指す場合には複数に取扱ふ。 *Audience* (聴衆)、*class, nobility* 等も亦同じく兩意に使へる。斯く外形は單数に見えながら複数として取扱ふべき名詞を衆多名詞 (*noun of multitude*) といひ、集合名詞の一種である。

62 範例の數百及び二千六百年は貴族及び皇統なる名詞に對し形容詞的に用ひてある、此場合には *years, hundreds* などとせない、此外 *five mile race, ten dollar note* (十圓紙幣) の類が少くない。

形容詞的でない場合には無論複数形にする:—

300 years ago; five hundreds of soldiers; it is five miles off; I paid ten dollars.

63 範例の *the Far East, the Land of the Rising Sun* 等は普通名から来た固有名である; *Cape Colony, the United States, Strait Settlements* 等も亦然り。

64 日本語の普通名詞には概して語尾の s を加へないがよい、*ten sen, six yen, 5 ri* の如し。

(B) 固有名詞

範例 10. *Some twenty years ago a certain foreigner said that Japan would become the France of the East. But the soil is not likely to produce Napoleons or Talleyrands. If it could have a second Saigo Takamori or a single Clemensseau at least, how different its state must be from the present!*

【約二十年前某外國人は日本が東洋の佛國にならうと言った。併し日本の土はナポレオンやターリランの如き人物を産せないらしい。若し再び西郷隆盛かせめては一人でもクレマンソーの如き人があつたら、現状とどんなに違ったものになるだらうに。】

65 範例の佛國は文明、富度、又は其他の事情が佛國に似た國といふ意であるから、普通名詞の資格

を持つ。西郷隆盛もクレマンソーも亦人物、手腕、智徳などが之に似た人といふ意で、普通名詞の代用である。そこで

普通名詞の代用となる固有名詞は真正の普通名詞と見做し、複数形とすることも不定冠詞を加へることも出来る；併し亦頭文字で書始める。

66 固有名詞の複数は大概単に *s* を加ふ、Cato, Catos, Antony, Antonys の如し。但し *s*, *x*, *ch* 等で終る者には *es* を加へる、Venuses, Felixes, Frenches の如し。

(C) 物質名詞

範例 II. A *paper* reports that Mount Asama burst forth yesterday morning in a violent eruption. Flames, smoke, steam, ashes, mud, and other *matters*, shot up to a height of hundreds of feet, and large *rocks* and *stones* were hurled to great distances from the crater. An immense quantity of *lava*, that is melted *rock*, turned some valleys into a mass of solid *stone*.

【某新聞紙の報によれば、淺間山は昨朝猛烈に破裂したそう。火焔や、烟や、蒸氣や、灰、泥、其他色々の物質が幾百尺の高さに噴出し、大岩石は噴火

口から遠く隔った所に飛び、非常に多量な熔岩、即ち熔解した岩は所々の谷を埋めて一塊りにした。】

67 範例中の *smoke, steam, mud, lava, rock, stone* は単に物質を指すから物質名詞である。

物質名詞は單に物質の名となる時常に單數として用ひ、且つ不定冠詞や *one, two* 等の數形容詞を加へない。

但し *ashes* は常に複數である、*oat* は通例複數形 *oates* を用ひる。

68 範例中の *matter* は元來物質名詞なれど、爰では諸の種類を指すから複數にしたので、*several kinds of matter* といふ意である。そこで

物質の種類を指すに用ひる物質名詞は一種の普通名詞なる故複數となし得べく、又不定冠詞や數詞をも加へられる：—

{ (物) The cow eats *grass*.

{ (普) *Many grasses* are poisonous.

{ (物) You seem very fond of *sugar*.

{ (普) Maple-trees give us *a good sugar*.

69 範例中の *flames, rocks, stones* は焔、岩、石なる物質の離れ離れの諸部分を指す故複數にしたので、焔の片々、岩塊、石塊などの意である。されば

物質の斷片を指す物質名詞も普通名詞と同様に取

扱ひ、其一個を指す場合には不定冠詞、數個には數詞をも加へられる。

70 範例中の paper も物質名詞なれど、爰では新聞紙の意で即ち普通名詞である。そこで

或物質を材料とする個物に適用した物質名詞も亦普通名詞と見做して取扱ひ、不定冠詞等を加へられる：—

- (物) This bottle is made of *glass*.
オガミ ウツス
 (普) *A glass* reflects one's *image*.
スガタ
 (物) I had *fish* for dinner.
ギョニク
 (普) He hooked *three fishes*.
フツタ

(D) 抽象名詞

範例 12. Malibran was a rare *genius*¹ in *singing*,² and had a European *reputation*³ as a ^{2,3} vocalist. Every *time*⁴ she appeared, a large ⁴ *audience*⁵ was *all attention*⁶ and *all enthusiasm*,⁷ in *fact*⁸ there were no notable singers but ^{7,8} admired her *performances*.⁹ In *addition*¹⁰ to ^{9,10} being a great *beauty*,¹¹ she was *virtue itself*.¹² ^{11,12} Not only was she beloved everywhere for her *charm*,¹³ *affection*,¹⁴ and *tenderness*,¹⁵ but also ^{13,14,15} she was respected by all for her *kindnesses*.¹⁶ ¹⁶

and *charities*.¹⁷ Unfortunately she was overcome ¹⁷ by *death*¹⁸ at the early age of 28 or 29, at ¹⁸ Manchester, in 1836, leaving an undying *memory*.¹⁹ ¹⁹ behind her.

【マリブランは唱歌に稀有の天才ある人で、唱歌者として雷名を全歐に轟かした。其の現はれる度毎に多數の聴衆の注意と熱情は非常なもので、有名な歌者中此夫人の奏曲を感嘆せない者は實に一人も無かつた。夫人は非常な美人であつた上、又徳操の極めて高い人であつたが、常に愛嬌と愛情と深切との爲め到る所で愛せられたのみならず、慈善の行に富んでをった爲め誰人にも敬はれた。惜い哉一八三六年まだ二十八九の若い盛りにマンチェスターで逝去して、盡きせぬ名残を死後に止めた。】

71 範例中 *singing*,² *addition*,¹⁰ *death*,¹⁸ *fact*.⁸ (眞實) は何れも抽象名詞である。

抽象名詞を抽象的の義に用ひる時は必らず單數とし、不定冠詞又は數形容詞を加へない。

72 範例中 *charm*,¹³ *affection*,¹⁴ *tenderness*,¹⁵ *memory*¹⁹ も抽象名詞で、此性質の所持者を示す爲め *her* 等を加へた迄である。

73 普通名詞の意 範例中 *reputation*,³ *time*,⁴ は抽象名詞なれど、名譽と時の現はれた特殊の場合を指すから *a*, *every* 等を加へたのである。そこで

或る性質又は行爲の現はれる特殊の場合、機會、

部分、又は例證を示す抽象名詞は普通名詞として用ひられる：—

{ (抽) *Time* is money.

{ (普) An idle person sleeps for a long *time*.

74 範例の *genius*,¹ *beauty*¹¹ は抽象名詞なれど、爰では天才又は美貌なる性質を持つ人を指し、*audience*⁵ は聴聞なる抽象名詞なれど、爰では此動作を爲す衆人を指すから、何れも *a* が加へられる。されば

或る性質又は動作をもつ人を指す抽象名詞は普通名詞として用ひられる：—

{ (抽) *Beauty*^{ビイ} is the principle of the fine arts.

{ (普) The *parlor* is full of *beauties*^{ビジン}.

75 範例の *performances*⁹ は演奏した上の成績 (即ち奏曲) を指し、*kindnesses*¹⁰ と *charities*¹⁷ は深切と慈善なる性質より實現する結果であるから、何れも複数を許すのである。それで

或る性質又は行爲から生ずる成績又は結果を示す抽象名詞も亦普通名詞の資格をもつ。

76 形容詞の意 範例の *all attention*,⁶ *all enthusiasm*,⁷ *virtue itself*¹² は *attentive*, *enthusiastic*, *virtuous* なる形容詞の前に *extremely* 又は *very* を加へたのと同じになる。そこで

“有る” といふ動詞の次に “*all*+抽象名詞” を

置き又は “*抽象名詞+itself*” を置く時は、文主となる人が此抽象名詞で示す性質を過度に持つ意となる：—

The boys are *all eagerness* to see the lion.

His daughter is *neatness itself*.

77 此は時々見る例であるが餘り遠慮なく用ひてはならぬ。殊に又我邦の初學者には “有る,” “成る” 等の補足として形容詞の代りに名詞を用ふる誤が少なくない：—

(誤) He is *kindness*; she is very *mercy*.

(正) He is *kind*; she is very *merciful*.

78 敬稱用 次の諸語は元來抽象名詞なれど屢々人を指すに用ふ：—

(1) Majesty (陛下). (4) Lordship (閣下).

(2) Highness (殿下). (5) Ladyship (尊夫人).

(3) Excellency (閣下). (6) Grace (尊下, 祝下).

此等は通常 *capital* にて書始め、第二人称 (*you*) の代りとする時其前に *your* を加ふ、*your Highness* の如し。第三人稱 (*he, him, &c.*) の代りとする時、(1) と (2) は男女に由り *his* 又は *her* を加へ、(3) と (6) は常に男なる故 *his* を加へ、(4) には *his*, (5) には *her* を加ふ、*his Grace*, *her Ladyship* の如し。第三人稱の複數 (*they, them*) の代りとするには *their* を加ふ、*their Majesties* の如し。

(1) は帝王に用ひ、(2) は皇族又は王族に、(3) は大臣、大統領、大使、公使等に、(4) は英國にて貴族及び高官に、(5) は其夫人に、(6) は duke 及び archbishop に用ひる。

79 抽象名詞の誘源 此名詞は形容詞から誘致したのが最も多く、其餘は動詞から作る:—

形容詞	名詞	動詞	名詞
true	truth	read	reading
dead	death	attend	attention
strong	strength	prove	proof
just	justice	serve	service
patient	patience	choose	choice
honest	honesty	prefer	preference
rapid	rapidity	arrive	arrival
wise	wisdom	know	knowledge
black	blackness	move	movement
happy	happiness	work	work

80 動詞から作つた抽象名詞は屢ば其動詞のゼランド又は不定法を用ひると同じ意味をもつ:—

The *occupation* ~~the~~ of island was difficult = the *occupying* of the island was difficult = *it* was difficult to *occupy* the island. 其島の占領は困難だった。

Election by ballot is the best way = *electing*

(or to elect) by ballot is the best way. 投票で選舉するのが最良法だ。

81 [注意] 眞實の抽象名詞と對立して他の三種の名詞を具體名詞 (*concrete noun*) といふ。何となれば船には大きさ、長さ、深さ、速力、容積等の性質と、航行、走過、沈没等の動作があるからである。

(6) 名詞の用途

範例 13. A *hen*¹ laying an egg every *morn-*¹
ing,² her *keeper*,³ a *widow woman*,⁴ thought to^{2,3,4}
herself, "If I double my *hen's*⁵ *allowance*⁵ of^{5,6}
barley,⁷ she will lay twice a *day*."⁸ So she tried^{7,8}
her *plan*,⁹ and the *hen*¹⁰ became so fat and sleek^{9,10}
that she ceased *laying*¹¹ at all. ¹¹

【或る牝雞が毎朝卵を一つ宛生んだので、飼主なる寡婦は心に思った、雞に與へる麥を倍にすれば毎日二倍の卵を生むだらうと。そこで此趣向を試みた所が、雞はツヤツヤと肥え太とり、それがため些々とも生まない様になった。】

範例 14. As a *cock*¹² was scratching up the¹²
*straw*³ in a *farm yard*,¹⁴ in *search*¹³ of *food*^{13,14}
for the *hens*,¹⁷ he hit upon a *jewel*¹⁵ that by^{17,15}
*chance*¹⁹ had found its *way*²⁰ there. "Oh, *friend*,"²¹ ^{19,20,21}

said he, "you are a very fine *thing*,²² no *doubt*,²³ ^{22,23}
to those who prize you. But give me a *barley*
*corn*²⁴ before all the *pearls*²⁵ in the *world*."²⁶ ^{24,25,26}

【牡雞が牝の餌を捜さんと農家の庭で 藁を掻いて
をると、フト此所に來合せてをった寶玉に出逢った。
そこで彼曰く、オヤ君、君を珍重がる人にとって君
は慥に結構な物だ、併し僕にはあらゆる眞珠よりも
一粒の麥を貰ひたいと。】

82 範例の *keeper*,³ *hen*,¹⁰ *cock*¹² の如く

名詞は文主 (*subject*) となれる、之を又成文
(*sentence*) の主ともいふ。文主は常に必らず主
格に在る。

83 範例の *allowance*,⁶ *plan*,⁹ *laying*¹¹ (卵を生むこ
と)、*straw*,¹³ *jewel*,¹⁸ *way*,²⁰ *corn*²⁴ の如く

名詞は他動詞の目的 (*object*) となれる、之を又成
文の目的ともいひ、常に目的格に在る。

序ながら範例の *hit upon* は一個の他動詞と
見做す。

84 範例の *barley*,⁷ *yard*,²⁴ *search*,¹⁵ *food*,¹⁶ *hens*,¹
chance,¹⁹ *pearls*,²⁵ *world*²⁵ の如く

名詞は前置詞の目的たるを得、之と結合して副詞
又は形容詞の性質ある熟語を作る。

範例中 *in a farm yard*, *in search*, *by chance*,
before all the pearls は副詞の性をもつ。

85 範例の *hen's*⁵ の如く

物主格の名詞は形容詞の資格を以て他の名詞の前
に附加せらる：—

{ The *king's* palace = the *royal* palace.

{ The *sun's* light = the *solar* light.

86 範例の *widow woman*⁴ が *keeper*³ に於ける場
合の如く ^他

名詞は他の名詞 (又は代名詞) と並び置かれて同
格たるを得。而して同格の名詞も亦形容詞の資
格をもつ。

又 *widow* と *woman*⁴ も互に同格をなす。

87 範例の *farm*¹⁴ と *barley*²⁴ の如く

名詞は他の名詞の前に附いて形容詞の代用となる
ことが出来る。

88 範例の *thing*²² が *are* に於けるが如く

名詞は動詞の補足となるを得。

89 範例の (*every*) *morning*,² (*a*) *day*,⁸ (*no*) *doubt*²³
の如く

名詞は前置詞なくして副詞 (又は形容詞) の代用
となるを得、其場合には目的格である：—

(副) I have driven *ten miles* to-day

(副) The hill is *203 feet* high.

(形) This is the *same size* as that.

(形) This ^{ジドウシャ} *automobile* is *no use*.

90 範例の a hen¹ の如く (38 節参照)

名詞は分詞の前に立って獨立主格となるを得。

91 範例の friend²¹ の如く (37 節参照)

名詞は呼喚格たるを得。

(7) 名詞の代用となる語句

範例 15. *We know that the ups and downs of life cannot be avoided, and that the rich may be the poor some day. Then, to do our best in helping others is to help ourselves after all.*

【人生の浮沈は免れないこと、富者も何時か貧乏人になるも知れぬといふことは吾々の知る所である。然らば他人を助けることに全力を盡すのは、結局我等自身を助けることになる。】

92 範例の we, our, ourselves の如く

代名詞は名詞の代理を務める。

93 範例の rich, poor, others は何れも人を指し、best は“全力”の意、all は“一切の事”といふ意。故に

形容詞は次の名詞なくして人又は他の事物を指す名詞の代りをなすこと得。

94 範例の helping others は assistance (助け) of

others と同意となり、此 helping はゼラントである。此故に

ゼラントは名詞の代用をなし、抽象名詞の資格をもつ。

95 範例の to do は“盡す事”の意、to help は“助ける事”の意で、前者は文主、後者は補足である。されば

不定法は屢ば名詞の代用をなし、其場合には抽象名詞の資格をもつ。

96 範例の up と down は副詞なれど、爰では榮枯盛衰の意になる。故に

● 副詞は稀に名詞の資格に用ひられる。

97 範例の that the ups.....avoided 及び that the rich.....some day は何れも“云々する事”といふ意をもつ。故に

或る從屬文は名詞の代りをなす。

第二章——代名詞

範例 16. Once upon a time there lived *an old man* and *an old woman*. The *former*¹ kept a *young sparrow* and loved *it*² tenderly. One day *he*³ came home from the hills, and asked, “*What*⁴ *has become of my*⁵ sparrow?” The *other*⁶ answered, “*I*⁷ cut *its*⁸ tongue and let *it*⁹ go, because *it*¹⁰ stole the paste *which*¹¹ *I*¹² had made.” Hearing *this*,¹³ *he*¹⁴ was much grieved, and thought to *himself*,¹⁵ “Alas! *the bird is mine*,¹⁶ *my*¹⁷ dearest pet. *Poor thing!* where can *it*¹⁸ be gone?” And *he*¹⁹ wandered far and wide, crying, “Mr. Sparrow! Mr. Sparrow! where are *you*²⁰ living?”

(21 = 續ツク)

【昔し昔しヂャとババとがあつた。ヂャは小さい雀を一匹飼つて深く可愛がつてをった。或る山から歸つてきて、雀はどうなったかと尋ねた。するとババの答へるには、私の拵らへておいた糊を盗んだから舌を切つて逃がしたと。之を聞いてヂャは大層悲しみ、嗚呼ワシの可愛い鳥だものを、可哀相なものだ、一體何所へ行ったのだらうと心にツクツク考へた。そこでヂャは雀どの、雀どの、御宿はどっちどっちと呼びながら遠くあちらこちらをウロ

つき歩いた。】

- 1 範例の I,⁷ you,²⁰ he,³ my,⁵ it,² its⁸ 等は人、雀などいふ名詞を代表して其人稱の區別を示すから、之を人稱代名詞 (*personal pronoun*) と名づける。
- 2 又 mine¹⁶ は予の所有する物といふ意で、特に之を所持代名詞 (*possessive pronoun*) と名づく。
- 3 次に又 himself¹⁵ は老人が自身を指す語で、*thought* といふ行爲が老人自身に反射する意があるから、之を反射代名詞 (*reflexive pronoun*) と名づける。
- 4 範例の which¹¹ は *I had made* なる句を *paste* なる語に關係させる働きがあるから、之と關係代名詞 (*relative pronoun*) と名づける。
- 5 又 what⁴ は何なりやと問ふ代名詞であるから、之を疑問代名詞 (*interrogative pronoun*) と名づける。
- 6 最後に the former¹ (前の), other,⁶ this¹³ は名詞の前に加へて形容詞となる語であるが、爰には名詞を省きて事物の名の代用をしてゐる。故に之を形容代名詞 (*adjective pronoun*) といふ。
- 7 代名詞は名詞を代表する故、従つて亦人稱、數、性、格の四つを具へてゐる。併し you, they, we 等は男女性の區別つき難く, you は數、性、格の區

別がつき兼ねるが、此は其の指す名詞によって決めるのである。

(I) 人稱代名詞

8 次の表で此代名詞の人稱、格、數、性を盡くしてゐる:—

		單 數			複 數		
		主格	物主	目的	主格	物主	目的
一人稱		I	my	me	we	our	us
二人稱	常形	you	your	you	you	your	you
	古形	thou	thy	thee	ye		
三人稱	男性	he	his	him	they	their	them
	女性	she	her	her			
	中性	it	its	it			

斯く代名詞の文法的變化を *declension* といふ。名詞の文法的變化も斯く名づける。

序乍ら I, my, me を名の代りになる語といふのは受取れない、此語を用ひず我實名を使つて話すことは極稀で且つ奇怪に聞こえる。

9 We, our, us. 此三語は其實 I, my, me の複數でなく、I が自分並びに自分の仲間を代表する語である:—

Let *us* go back along the bank = let *you and me* go back along the bank. 我々(即ち諸君と私)は岸について帰りましょう。

Mr. So-and-so came, and *we* spent the evening pleasantly (=and *he and I* spent the evening pleasantly). 誰某君が来て、我等(即ち彼と私)は愉快に夕を過ごした。

10 一人稱複數は又一般世人を代表する:—

We (=men) are liable to error. 吾人(即ち世人)は誤りに陥り易いものだ。

11 帝王、法王等が職權を以て語る時一人稱複數を朕の意に用ふ、但し内證向きでは矢張 I を用ひる:—

We, Autocrat of all Russia, order you thus. 朕全露國の皇帝は斯く卿等に命す。

12 You, your. 方今の英語では對話者が一人なるも多數なるも此形を用ひ、動詞は常に複數 (are, were) とする:—

(單) *You are* a fool. お前は馬鹿者だ。

(複) *You are* fools. お前方は馬鹿者だ。

{ *You are* good. } 此二つの you の單複
{ I saw *your* father. } は場合で決する。

13 此語は又廣く世人を指す:—

You (=men) can rise to honour by diligence.

汝等は勤勉せば名譽が得られる。

上表中の *ye* は Old English で主格の時

常に用ひ、目的格に *you* を用ひた；今は詩句等でなくば用ひず。

14 *Thou, thy, thee.* 此は二人稱の單數なれど、方今は次に示す場合の外用ひない：—

- (1) 神に話す時： *I will fear no evil, for thou art with me.* 汝が我と共にある故我は害を恐るゝことはない。
- (2) 詩に用ひる時： *Such men as thou are England's boast.* 汝の如き人は英國の誇りである。
- (3) 輕蔑の時： *Thou wicked creature.* 汝惡人のめ。

此外クエーカー宗徒に用ひられ、又嚴格の古文體、方言、獨逸文學の翻譯に用ひるのみ。

15 *He, his, him.* 此等は男性の單數名詞を代表するものなれど、男女性不明なる場合には此男性代名詞を用ひる：—

Some one was killed last night in his bed. 或人が昨夜寢床で殺された。

16 男女性の不明なる時は 兩性代名詞の兼用をすることがある：—

Who should be the murderer? He or she must be taken up sooner or later. 下手人は誰だらう、早晚捕縛されるだらうが。

17 次の如きは廣く一般の男女を指す：—

He (=any person) who loves money does not love honour. 金錢を愛する人は名譽を愛せず。(Who を *that* に代へてもよい)

He is idle that is gifted with abilities. 天賦の才能ある人は怠惰である。

18 *They, their, them.* 此は男女性と中性とに拘はらず第三人稱の複數名詞を代表する：—

The pupils are attached to their teacher. 生徒等は我教師に歸服してゐる。

19 異性の二個又は數箇の名詞をも代表する：—

The king and the queen love their people.

20 義務、職掌、業務をもつ人々を指すに用ふ、此場合には其前に指すべき名詞なく、又一度主格なる *they* を用ひた後でなければ *their* 又は *them* を用ひられない：—

(a) *They* teach Dutch at the Foreign Language school. 外國語學校では和蘭語を教ふ。

(b) *They* do not take this fish in these times. 此節は此魚を取らない。

(c) *They* are taking down his house now. 今あの人の家を取毀はしてゐる。

(d) *They* prohibit gambling in our country. 我邦では賭博を禁ずる。

(a) では学校の教官、(b) では漁夫、(c) では大工又は土方、(d) では政府當局者を指す。

21 次の they は人々の意で、漠然と若干の人を指す：—

They say (that) he is a great liar. あれは非常なウソツキだと申すことです。

爰にも *their, them* を用ひない。

此場合の *they* は俗體で、正文には *some persons, people* 等を用ひる。

22 *It.*, 此は用所の廣い實に面倒な語である。次に三種に分けて其の用別を示す。

(A) 回顧の IT.

範例 17. When *water* is heated, *it*¹ is changed¹ into steam. *Steam-power* is very useful to us, because *it*² turns heavy wheels and propels large² ships. If *a ship* is moved by steam, *it*³ is called³ steamer. Have you ever seen *a steamer*? If not, go to the shore, and you will find *one* in the offing. Have you seen *the machinery* in that paper mill? *It* is a very powerful one, and is driven by steam⁴ and water.

【水を熱すれば蒸気となる。蒸気力は重い車輪を

轉じたり大船を推進めるから、吾人に甚だ有用である。船を汽力で動かせば之を汽船と名づける。汝は汽船を見たことがあるか。若しまだならば濱へ行けば沖合に一艘見える。あの製紙場の機械を見たか。其れは頗る強力な機械で、汽力と水力とで運轉せられる。】

23 範例の *it* (1) は ~~water~~^{water} なる物質名詞を指し、(2) は *steam-power* なる抽象名詞を指し、(3) は *ship* を指し、(4) は *machinery* を指す。斯く既に言ひ現はした名詞を回顧して指すのを回顧の指示 (*backward reference*) といふ。

It にて指す名詞は物質名詞、抽象名詞、又は固有名詞なるか將た又どれと指定した物を指す普通名詞なるを要する；故に此普通名詞は *the, this, that* を有するか、或は名詞又は代名詞の物主格を伴ふ。

故に先行 (38 節を見よ) に *a, an, any* 等が附いてあってはならぬ。但し範例の *it*³ は假定した一船を指すのだから差支ない。次を比較せよ：—

(a) Have you *a watch*? Yes, I have *one*

(b) Have you *the watch*? Yes, I have *it*.

(c) I bought *a watch*, and gave *it* to him.

(a) はどの時計とも定まらぬから *it* で受けられないで *one* (= a watch) を用ひる。範例の *a steamer* を *one* で受けたのも是である。

24 此 *it* は又男女性を示す必要なき小兒又は動物を代表する (名詞 38 節参照):—

Tom is a lovely *child* (or *baby*); I like *it* very much.

He has a *dog*. *It* can run very fast.

但し性を示す必要あらば *he*, *she* を用ひ別ける。

15 此 *it* は又既往の全文又は語句を指す:—

Germany will be defeated; no one doubts *it*. 獨逸は負ける、是は誰も疑はない。

I should like to read *this novel*, but *it* is too much for me. 私は此小説を讀みたいが、それは迎も私の力に及ばない。

(B) 豫想の IT.

範例 18. On his way to school, an idler lay down in the grass, and said, "There, *it*¹ is very fine, *this scenery*. I think *it*² is better to have a nap here than to go to school. My brain is too poor for study, and *it*³ is no use trying to read and write. If I do not come to something, *it*⁴ is I that am answerable for it. I shall blame nobody. Moreover, *it*⁵ is generally believed that one's rising or falling is a mere chance. So *it*⁶ is uncertain whether my diligence will be rewarded with success.

【或る怠惰者が登校の途中、草原に臥して言つた、
“アレ、美しいこと、此景色は。學校へ行くより
爰で一睡する方が善いらしい。私の腦は貧弱で學
問に適しない、讀み書きしようとするのはダメだ。
若し取得ある人物になれば、其責に任ずる者は余
で、又誰をか咎めんやである。且又人の榮枯浮沈
はホンノ偶然だと一般に信せられてゐる。すれば勉
強の甲斐あつて成功するかどうかは覺束ない”と。】

26 範例の *it* は其前に名詞を持たず、其の後に在る句や文を指す。(1) は *the scenery* なる名詞を指し、(2) は *to have a nap here* なる不定法を指し、(3) は *trying*なるゼランドを指し、(4) は *that am*.....なる關係文を指し、(5) は *that one's*.....なる從屬文を指し、(6) は *whether*.....なる從屬文を指す。斯く未然に名詞を豫想するのを豫想の指示 (*forward reference*) といふ。但し範例の不定法も (5) と (6) の從屬文も皆名詞の資格を持つ。

It は未だ現れざる名詞、不定法、ゼランド、關係文、又は名詞性の從屬文を豫じめ指すことを得。

(4) の關係文は“責ある者は餘人でなく全く私だ”と其前なる名詞に重きを置いて言ふ場合に用ふ。

(C) 不定の IT.

範例 19. "Halloo! Mr. P. *It*¹ is a long time¹ since we met." "Yes; *it*² is getting colder day by² day. How is *it*³ with you?" "Thank you, very³ well. Is *it*⁴ well with your son?" "*It*⁵ is all up^{4.5} with him." "Very sorry to hear it." "How far is *it*⁶ to the station?" "*It*⁷ is only a mile." "*It*^{6.7.8} is getting dark; what time is *it*⁹?" "About six,⁹ I think."

“ヤア P 君、久しく逢ひません。” “左様、日々お寒くなります；御壯健ですか。” “有難う、極壯健で；御子息は如何です。” “モウだめです。” “それは御氣の毒に存じます。” “停車場へはどれ程ありますか。” “僅か一哩で。” “暗くなりますが、何時でしょう。” “六時頃かと思ひます。”

27 範例の *it* (1) は時間、(2) は寒暖、(3) (4) は安否、(5) は安否又は成敗、(6) (7) は距離、(8) は時節、(9) は時刻を述べる。此 *it* も先行 (38 節を見よ) を持たざるのみならず、如何なる名詞を指すか漠然である。

It は時間、時刻、時節、天候、距離、安否、成敗等を述べる慣用語句の文主となる。

之を *it* の不定の指示 (*indefinite reference*) といふ。

(2) 所持代名詞

28 *Mine, yours (thine), his, hers; ours, yours, theirs.* 此は何れも物主格の人稱代名詞に對立し、唯だ *it* のを缺く；*thine* は 14 節に説いた如く通例用ひない。

29 所持代名詞の用法は次の諸例を見れば略ぼ解せられる：—

This is not your business, it is *mine* (= *my business*). 之は君の事ではない僕の事だ。

That is not my pen; it is *yours* (= *your pen*).

I have no watch, so he often lends me *his* (= *his watch*).

His face is black; *hers* (= *her face*) is white.

Your house is larger than *ours* (= *our house*).

Theirs (= *their fare*) is but humble fare. 彼

等のはホン粗食である。

斯く此代名詞は余、汝、彼等に屬する物 (一個又は多數の) といふ意で、單數にも複數にもなり、又主格にも目的格にもなるが、物主格を缺いてゐる。

30 次の慣用語式は名詞 36 節に示せるものと同様の意になる：—

Her child = { (1) 彼女の獨子。 (2) 彼女の數
子中どれか知れてある一人。

A child of hers = one of her children.

A book of mine = one of my books.

That hat of his = that one of his hats.

斯く物主格の人稱代名詞は必ず名詞を加用し、所持代名詞は決して之を加用せず。

(3) 反射代名詞

31

		單 數	複 數	
一人稱		myself	ourselves	何レモ主格ト
二人稱	常形	yourself	yourselves	目的格ニ用 フ。
	古形	thyself		
三人稱	男性	himself	themselves	物主格ニハ my own, his own 等ヲ用 フル外ナシ。
	女性	herself		
	中性	itself		

This is the poem of *my own*¹ composing.
I flatter *myself*² that it is a very good piece,
and appreciate it highly *myself*³. 此は自作の

詩であります、自賛ながら頗る上出来で、我ながら大層褒めてゐます。

The affair is a trifle in *itself*⁴ but it may lead to a great trouble. So I went *myself*⁵ and explained the cause in detail. 事件其物は瑣細だが大葛藤にならぬとも言へぬから、自身に行つて逐一原因を説明した。

32 上文の *myself*² は動詞の目的、*itself*⁴ は前置詞の目的で、何れも決して省けない必要の語である。併し *myself*³ と *myself*⁵ は文主を重く指すのみで、之を省けばとて文意を害せない。次例のは目的と同格のもの、之も省ける:-

A messenger will not do. I will have a conversation direct with *the man himself*. 使では罅が明かない、當人に直接話さう。

(4) 關係代名詞

33

	單 複 同 形					單 數
主 格	who	which	that	what	as	but
物 主 格	whose	whose	—	—	—	
目 的 格	whom	which	that	what	as	

範例 20. *William Pitt, who*¹ was a well-known statesman, once spoke in Parliament of the glorious war *which*² preceded the unlucky one in *which*^{3 2,3} England lost her American colonies. He made a slip and called it "the last war." Several members cried out, "The last war but one!" He took no notice of *what*⁴ they said, and soon after repeated the same *mistake that*⁵ he had made. Now all cried, "The last but one," *which*⁶ Pitt thought to be a good opportunity for excuse, and raising his loud voice he said, "I mean the last war *that*⁷ we should be proud of." Upon *which*⁸ the whole House cheered the *speaker* long and loud, *whose*⁹ eloquence and ability afterwards crowned him with glory.

【ウキリヤム、ピットは有名な政治家だったが、英國が米國殖民地を失ふに至った不幸な戦争の其前に在つて名譽の戦争に就て曾て國會で演説した。所が失言して之を最後の戦争と言つたので、若干の議員は最後の一つ前の戦争だよと叫んだ。ピットは議員等の言つた事に頓着せず、臆て又前と同じ失言を繰返した。今度は皆が最後の一つ前だと叫んだが、ピットは之を辯解の好機だと思ひ、大聲を張上げて、私は吾人の誇りとすべき最後の戦争を指すのですと言つた。是に於て全院擧つて長き高き喝

采をピットに與へたが、此人の雄辯と敏腕は其後彼に名譽を與へた。】

34 範例の *who*¹ は *Pitt* を指して *was* の主、又 *whose*⁹ は *speaker* を指して次の二名詞に附く物主格である。

此 *whose*....ability を變じて *the eloquence and ability of whom* としても同じで、其 *whom* も亦 *speaker* を指し、*of* の目的となる。そこで

Who, whom は人を指すにのみ用ひる。

35 範例の *which* (2) は *war* を指して *preceded* の主、(3) は *one* (即ち戦) を指して *in* の目的である。

又 (6) は *all cried.... but one* なる全文を指して *thought* の目的、(8) は *he said.... proud of* なる全句を指して *upon* の目的である。それで

Which は人を指さず、無生物の中性名詞或は動物の名詞を指し、又成文或は成句を指す。

36 範例の *that* (5) は *mistake* を指して *made* の目的、(7) は *war* を指して *of* の目的となつてある。又

Did you see *the man that* just passed?

The man and his dog that went out a hunting were killed by a tiger.

此前なる *that* は人を指し後なる *that* は人と中性名詞を指す。故に

That は人をも動物をも無生物をも指す。

37 範例の what¹ は *that which* の意で、単数の目的格 (*of* の目的) となる。又

All your books are very interesting, but *what* are in my library are not.

此 *what* は *those which* 又は *those books which* の意で、複数の主格 (*are not* の文主) となる。そこで

What は先行名詞を代表せず、自己の中に自然と名詞を含有してゐる。

38 範例の Pitt, war, one, mistake, speaker の如く関係代名詞に代表せらるべき名詞(又は代名詞)を先行名詞又は單に先行 (*antecedent*) に名づく。但し *what* は先行を含蓄してゐる。範例の *which* (6) (8) の先行は即ち其前に在る文句なることは 31 節で知れる。

39 補意の作用 範例の Pitt に次ぐ *who*…… statesman なる句は“此人は有名な政治家だが”といふ意を主文に附加するのみで、之を省けばとて文意を損せない。又

She has a son, *who* (=and he) is very idle

He keeps three servants, *whom* (and them) he treats kindly.

Last night this cat caught a rat, *which* (=and it) she killed at once.

の *who*, *whom*, *whom* 以下の句も同様である。此類の句を引出す関係代名詞は補意作用を持つ。範例の (6), (8), (9) も此作用をもつ。そこで

Who, whom, whose, which は補意作用を持つてど、that は之を持たない。

40 制限の作用 然るに範例の (2), (3) なる *which* 以下の句を省けば、どの戦を指すのか知れないから、此は省けない; (5) と (7) の *that* も左様だ。詰り此四個の句は“云々した戦”“云々した誤”といふ風に、戦又は誤なる名詞の適用区域を制限してゐる。The man *who* came to-day の *who* も亦同じである。

That は制限作用のみを持ち、此作用を示すに最もで適當ある。Who, which, 及び其の諸變形は補意作用をも制限作用をも持つ。

此次第だから範例の *which*² に *that* を代用するもよいが、*who*¹ や *which*⁶ に *that* を代用せられない。

41 前置詞の位置 前置詞は *whom, which* (目的格の) の前に置けるが、*that* の前に置けないといふ法律があるから、若し範例 *which* (3) に *that* を代用するならば、*in* を colonies の次に下すがよ

い。(8)と(9)にも *that* の代用を許さないのは推して知れる。

42 *Which* は制限作用を持つて、範例の *that* の代用にならない。此は次の規則一二に抵觸するからである:—

- (1) 先行名詞に *the same, the very, all* 等あらば関係代名詞は *that* を用ふ。
- (2) 先行名詞に *first, third, last* 等の順数あらば常に *that* にて受ける。
- (3) 先行に最高級の形容詞ある時は *that* にて受ける。
- (4) 先行が死物と生物の兩名詞より成る時は *that* を以て受けねばならぬ。
- (5) 疑問代名詞は *that* にて受ける。

43 範例の *that* と *which* とは棄てるもよい。此は

制限作用ある目的格の関係代名詞は省ける

といふ規則に據る。(3)の *in which* は *in* を *colonies* の次に移して *which* を省く。そこで

① 目的格の関係代名詞を省略するに當り、代名詞に前置詞あらば之を関係句の後方に置く。

44 數と人稱 次の規則は多く説明する必要はないだろう:—

関係代名詞の數と人稱とは先行に一致す。

It is *I that am* in the wrong.

除外例 It was *you that were* punished.

It was *she that was* selfish.

45 *As, But*. 此二語は次例の場合に關係代名詞となる:—

He offered me the *same* terms *as* (= *that*) he offered you. 彼は君へ申込んだのと同じ條件を私へ申込んだ。

He uses *such* simple words *as* (= *those* simple words *which*) we can understand. 彼は我等にわかる様な言葉を用ひる。

There is no person *but* knows (= *that* knows not) his antecedents. 彼の素性を知らない者は一

人もない。 *There is no person who knows his antecedents*

46 合成關係代名詞 (compound relative pronoun):—

Whoever (or *whosoever*).

Whosever (or *whossoever*).

Whomever (or *whomsoever*).

Whatever (or *whatsoever*).

Whichever (or *whichsoever*).

次の例解で用法が略ぼ解せられる:—

He treated kindly *whoever* (= every person *who*) visited him. (次の *visited* に對してのみ主格)

He loves *whomever* (=every person *whom*)
he knows. (次の know に對して目的格)

Whatever (=any thing *which*) he says is true.
(次の says に對して目的格)

We cannot believe *whatever* is told by him.
(次の is に對して主格)

You may take *whichever* (=any one *that*)
you like. (次の like に對して目的格)

47 次例は“縦ひ……にもせよ”の意:—

Whoever said so, I do not believe it. 誰がそ
う申したとて私には信じない。

Whatever (book) you read, read it with atten-
tion. 何を讀むにしろ注意して讀め。

Whichever (road) you take, it will lead you
to the city. どの道を取つても町へ出る。

(5) 疑問代名詞

48

	單 複 同 形			
主 格	who	which	what	此等ハ關係代名詞ト異リ、先行ヲ有セズ。
物主格	whose	—	—	
目的格	whom	which	what	

49 (1) *Who* are you? 君はどなたですか。

(2) *Whom* did you see? 君は誰に御逢ひ
なさいましたか。

(3) $\left. \begin{array}{l} \textit{With whom} \textit{ does he live?} \\ \textit{Whom} \textit{ does he live with?} \end{array} \right\}$ 彼は誰と一
所に住んでゐるか。

(4) *Whose* turn is it now? 今度は誰の番
でございます。

(5) *What* is he? あれは何してゐる人か。

(6) *What* made you so late? なせ遅かつ
たか。

疑問代名詞は常に文の始めに来る。之を目的と
する前置詞は其前に来るか文尾に下げられる。

50 上例は皆直接疑問 (*direct interrogative*)
であるが、間接疑問 (*indirect interrogative*) に
も亦之を使ふ:—

直接疑問	間接疑問
<i>Who</i> broke the watch?	I know <i>who</i> did it.
<i>Which</i> do you like?	I see <i>which</i> you like.

間接疑問文は名詞の資格を持つ。

51 慣用言:—

What for (=what kind of) a watch has he?

What is an aeroplane *like*? (飛行機はどの
様なものでございます)。

(6) 形容代名詞

52 *This* (單), *these* (複). *That* (單), *those* (複).*Each.* *Every.* *Both.* *Other.**Another.* *Former.* *Latter.* *One.**None.* *Either.* *Neither.* *Same.**Such.* *Some.* *Any.* *All.**Whole.* *Several.* *Many.* *Few.**Much.* *Little.* *Most.* *Least.**What.* *Which.*

此諸語は名詞を伴ふ時に形容詞となり、單獨の時に代名詞となる (*every* は獨用しない)。爰には煩雜を避けるため兩用を併説す。

範例 21. (16ノ續キ) *One*¹ day the old man saw a¹ bird at the foot of a hill, and taking *a few*² steps,² he found it to be *the same*³ sparrow that he was³ seeking for. The man and the sparrow congratulated *each other*⁴ on their mutual safety, *neither*⁵ 4.5 being without tears of joy. *The latter*⁶ led *the former*⁷ to his home, and introduced his family to⁷ him, saying, “*That*⁸ is my wife, *those*⁹ my chicks.” 8.9 *The one*¹⁰ was large, *the others*¹¹ small, *each*¹² 10.11.12 speaking sparrow language. *The whole*¹³ family¹³ was glad to have *such*¹⁴ a guest, and entertained¹⁴

him with *all*¹⁵ sorts of dainties, *most*¹⁶ of which he^{15.16} found very delicious. They drank health to *one another*,¹⁷ and *all*¹⁵ the house was alive. The old^{17.18} man stayed *some*¹⁹ weeks, and was richly feasted¹⁹ *every*²⁰ day. The sparrow cared *little*²¹ about the^{20.21} expense, and *none*²² of his family was tired in *the*²² *least*²³ of the company. *Some*²⁴ day, the guest^{23.24} insisted that he must take his leave, though *any*²⁵ 25 did not wish to have him go back. He was offered two baskets, *one*²⁶ of which was heavy, and *the*²⁶ *other*²⁷ was light. He might take *either*²⁸ or^{27.28} *both*,²⁹ but said, “I am so feeble that I cannot²⁹ carry *these*³⁰ *ones*³¹ at once, and I will only accept^{30.31} the light *one*.”³² Saying *this*,³³ he departed with^{32.33} *much*³⁴ regret. *All*³⁵ of the sparrows sent him off^{34.35} for *several*³⁵ miles, and when they came to a³⁶ brook, they were about to part. The old man asked, “*Which*³⁷ road is the shorter?” The sparrows answered, “The left *one*³⁸ is the best.”³⁸ “*What*³⁹ time is it?” “It is still noon, and you³⁹ can get home before midnight.” So saying, they bade farewell, wishing him a safe journey, and looking back for him *many*⁴⁰ times. 40

【或る日ヂャは山の裾に鳥を二つ見たが、三足四足進むと全く搜してゐる雀であつた。ヂャと雀は御互に機嫌の好いのを祝し、どちらも嬉し涙をこぼした。雀はヂャを我家へ案内して家族を紹介し、あれは妻で、そい等は雛だと言つた。妻は大きくて雛は小さく、銘々雀語を使った。家族一同こんな客を迎へるのを喜び、有らゆる珍味を出して接待したが大概皆美味だつた。主客互に盃を交はして共に健康を祈り家中は賑やかであつた。ヂャは客となつて數週間滞在し、毎日結構な馳走に預かつたが、雀は一向入費を頓着せず、家族は一人も更に此客の接待を倦まなんだ。或る日ヂャはどうでも暇乞をしようと言つたが、誰も之を歸らせたくなかつたのである。ヂャは葛籠を二つ進呈され、一は重く、も一つは軽く、片一方でも兩方でも貰へるのだ。併し其の言ふ事には、私は弱つてゐるから逆も兩方を一度に持てない、で軽い方だけ頂戴すると。斯う言つて彼は非常に名残を惜んで出立した。雀等は悉く數里の間見送つたが、とある小河の所へ來て將に袂を分かつたんとした。そこでヂャは、道はどちらの方が近いかと問ふと、雀は左の方が一番善いと答へた。もう何時頃かと問へば、まだ正午であるから、三時前に御宅へ歸れますと答へる。斯う言つて雀共は道中御無事だとトウトウ袂を分かち、幾度も後ろを見返りながら眺めた。】

53 This (單), These (複).
That (單), Those (複).

前二語は手近の物を指し(範例 30)、後二語は向ふの物を指す(8 及 9)。又 33 の this は此事(即ち前文にある事)の意。

慣用語 { I have lived here *these (or this) ten years*.
今迄十年間此所に住居した。
He looks dejected *these times*, doesn't he?
彼は此頃鬱々した顔だネエ。

54 Each, Every. 前者は範例(12)の如く“銘々,”“各々,”“どれも”の意で、二個又は以上の物の一つ宛に振分けて指す。Every は(20)の如く毎日などの“毎”の意で、數多物の總てを指す代りに各一個に就ていふ。Each other (互に)は(4)の如く二人にしか用ひず。

Each pupil has his seat. 生徒は各自の座席がある。

We get 80 sen *each*. 銘々八十錢儲かる。

I go *every other (or second) day*, and he comes *every third or fourth day*. 私は隔日に行き、彼は三四日目に來る。

55 Both. 範例(29)の如く二物の兩方を併せ指す:—

Both (the) father and (the) mother are absent
=father and mother are *both* absent.

56 Other, others. Another.

Others は (27) の如く *the* あらば残餘の數物を指す。此は決して形容性とならず。 *The* なくば廣く他人を指す:—

Do not rely on *others*. 他人を當てにするな。

Another は他の數物中何れか一を指す:—

You had better ask *another* (*person*). だれ

か他の人に御問ひなさるが宜しい。

One another は範例 (17) の如く “互に” の意で、三個又は以上の物に用ふ。(54 節 *each other* と比べよ)

Other は複數名詞に附く:—

Love *other persons* (or love *others*).

名詞なき *other* は (27) の如く概して *the* を有し、二物の一を指した後、残りの一を指す。

57 Former. Latter. 範例の (6) と (7) の如く、夫々に *the* を附して “前者” “後者” の意となる。尤も場合によりは相應の名詞を其次に添へてもよい。

58 One (單). Ones (複). 範例の (1) は “或る一の” “某一の” の意。(26) では二物の何れか片一方。(10) では其前に示した二名詞中の前者 (即ち妻) を指す。故に

The one=*the former*.

The other=*the latter*.

範例の (31) では *baskets* なる名詞を指し、(32) では *basket* の代り、(38) では *road* の代りである。但し名詞の代用となるに就ては 23 節 *it* の使用を参照。又

I am *one* *Sano*=I am a person named Sano.

One *Mr. Smith* said so=a person named Mr. Smith said so.

Some *one* (=some person) told it to me.

I found no *one* (=person) in the room.

Such a *one* (=person) must be punished.

Every *one* (=person) believes himself right.

59 次例は單數形なれど廣く一般の人を指し、*we*, *people*, 等に均しい、此場合には *he* で受けては宜くない、再び *one* で受ける:—

One ought to be honest and diligent.

One cannot say when *one* may not become poor. 人は何時貧乏せないとも言へぬ。

60 None. 範例 (22) の如く *no one*, *not any* の意で人のみならず他の事物をも指す:—

There are many houses, but *none* is (or are) suitable. (普通名詞ヲ受ク)

“Have you rice, anxiety, etc.?” “No, I have *none* at all.” (物質及抽象名詞ヲ受ク)

普通名詞を受ける時は屢ば複數と見做す。

61 Either. Neither. 範例の (28) は “二物

中何れか一つ”の意、(5)の *neither* は“二物の何れも……せぬ”との意。

三物には早や用ひない。

62 *Same*. 範例の (3) の如く常に *the* 又は *this, that* 等を加用す:—

I was in *the same class* as he.

These children are of *the same age and size*.

He is foolish, and his wife is *the same* (=his wife also is foolish).

He returned, and died on *that same night*.

All of us are of *one and the same opinion*.

我等は皆同一の意見を持つ。

尙 45 節の下に在る第一例を見よ。

63 *Such*. 範例の (14) は“此様な”“其様な”の意で、次に *as he* を加へて見る。尙 45 節の第二例又は次の諸例の如きもある:—

Such is the meaning of this word. 今述べたのが即ち此語の意味である。

He is *such* a hero. 彼は天晴の英傑だ。

There are *some such* men. とういふ様な人が多少ある。

He was *such* a dunce *that* he forgot his own name. 彼は我名を忘れた程の馬鹿だ。

Such and such is the fact. 其事實は斯様斯様なわけだ。

I saw *such and such* a person at *such and such* a place on *such and such* a day. どこそどこで何時何時誰某に逢った。

A, an は *such* の次に置き、*all, some, no, few, many* 等は其前に置く。

64 *Some*. 範例の *some* (24) は“或る”“某の”の意で一物を指し、(19) は 若干数 の意で数多の物を指す; 又 若干量 の意にもなる:—

Some people say he is an American, and *some* think not. 彼は米國人だと言ふ人もあり、そうでないと思ふ人もある。

I want *some water* for washing. (若干量の)

There was a murder in *some street*. 或る街で人殺しが有った。

I remained there for *some time*. (若干量の)

I will take you there *some day or other*. 其内何時かアソコへ連れて行かう。

Some (=about) *ten* men were killed.

Will you have *some milk*? 乳を召上りますか。

Have you *not some* money with you? 君は金を持って来てゐるではないか。

Are *not some* person knocking? 誰か戸を叩いてゐるではないか。

最後二例の如く否定の疑問文に *some* を用ひるの、

は、物の有ることを推量する場合、即ち肯定の答を豫期する場合である。

下より第三例は人に食物等を勧める時の用法。

Some は次の合成語を作り、其用法は既述に従ふ：—

Somebody 某人 (一人を指す)。

Something 某物; 幾分か(副詞的に用ふ)。

Sometime 何時か。

Sometimes 時々、往々。

Somewhat 多少、幾分か。

Somewhere 何時かに。

Somehow 兎に角。

Somewhile 折々、時々。

(副詞)

65 *Any*. 此語は範例の (25) の如く “何れも...せず” の意で、否定文に用ひる。又数のみならず分量をも示すことを得; 数を示す時は屢ば複數と見做して取扱ふ。尙次の諸例を熟讀するがよい：—

- (1) I have *not any* books. (數量)
- (2) There is *not any* money in the box. (分量)
- (3) He can speak *any* language. (一切の國語)
- (4) Bring a pen. *Any* one will do. ペン一つ持って來い、どんなのでもよいから。
- (5) Have you *any* money with you? 君は金を持って來たか、持って來なかつたか。
- (6) Has he *any* ability? 才能のある人が無いか。

此内 1, 2 は否定文。 5, 6 は肯定の疑問文で、有無の知れない事を問ふ。 4 と 5 は疑問文でない肯定文だが、此場合には “どれでも差支はない” “何でもござれ” の意である。此等の場合に *some* は決して用ひられない。

Any も合成語を作り、用法上に同じ：—

Anybody. *Anywhere.*

Anything. *Anyhow.*

66 *All*. 範例の *all* (18) は家の全部 (即ち全分量) を指し、(35) は雀の家族の全數を指す。(35) の *all* に次ぐ *of* は省いてもよい。 *All of the sparrows* は話中に言ふ一切の雀なれど、*all sparrows* とせば世上に在る一切の雀を指す。尙ほ次の諸例を記憶するがよい：—

All of them are gone = they all are gone = they are all gone.

All (of) the men in the house were burnt.

The troops destroyed *all the village.*

All Europe is now in confusion.

All men must die.

I disputed with him *all night.*

If *all* goes well, we'll start on Monday. 萬事

首尾よくば月曜日に出立しよう。

All (men) think that they are wise.

This theory is *all essential*. 此學説は極めて緊要である。

The students are 300 *in all*. (總計で)

He has no ability *at all*. (更に、少しも)

The wounded is *all but* dead. 負傷者は死んでゐないといふ斗りで蟲の息だ。

尙ほ名詞 76 節の *all* の使用を見よ。

形容詞的に用ひる *all* は *this, his, her, its, my* 等の前に置かれる。

67 *Whole*. 範例の *whole*¹³ は雀の家族の全部を指す。又

The whole of Europe is in confusion.

I spent *a whole month* in my voyage.

You must do it with *your whole mind*.

68 *Several*. 範例の (36) では“幾多の”“數”の意で、若干數を指す。又“色々の”“諸種の”或は“各自の”の意となる:—

I can speak *several languages*.

We went back to our *several houses*.

I have lost *several* of my books.

69 *Many*. 範例の (40) の如く多數を示す。又

I warned him (*many and*) *many a time*.

幾度かあの人に警告を與へた。(此言ひ方は *many times* より語勢が強い)

A great many people were present on the spot 大勢の人が其場に居合せた。

There are *many* who know this fact.

I spent ten years for the first volume, and *as many* again for the second. 第一卷の著述に十年、第二卷に又夫だけかゝった。

70 *Few*. 範例の (2) の如く *a few* とせば少々あるとの意なれど、*a* を省けば少々しか無い、殆んど無いとの意になる。尙ほ次例を見よ:—

Few of the villagers remember this event. 此事變を記憶する村人は僅かしかない。

Few (people) live to be seventy from of old. 人世七十古來稀なり。

A few of these engines are of Japanese make. 此等の中には和製の機械が少々ある。

71 *Much*. 範例の (34) の如く常に多量を意味し多數に用ひず、多數は *many* である。又

He spent *much money* on his garden.

How *much* did you give for that screen? あの屏風は幾らで御買なすった。

Did you lose *so much* of your estate? 君は身代をそう澤山無くしたか。

The building will cost you 1000 yen, and *as much* will be required for furniture. 建築に千圓かゝり、什器にも夫だけ要ります。

Those actors are *much of a muchness*.

あの俳優等は似たりよったりだ。

72 Little. 範例 (21) の如く常に少量の意で、少数の意でない、少数は few である。A little は少々あるといふ義で、a を省けば少々しかない、殆んど無い位だといふ義になる、丁度 a few と few との関係に近い。

A little money goes a long way in this country.

此國では僅な金も中々效力がある。

The petroleum is beginning to run short, but there is still *a little*. 石油が段々少なくなってきたが、まだ少々はある。

I know *little* how the world goes on these times. 此節世上の様子がどうなつてゐるか一向知りませぬ。

He is *not a little* concerned about this matter.

此件に付き少なからず心配してをる。

The wine is leaking *little by little* out of the cask. 酒がチビチビ樽から漏つてゐます。

73 Most. 範例の (16) は“大概”“過半”の意で數を指す。又分量にも用ひ、單數と見做す；元來 many と much の最高級であるから：—

I became acquainted with *most* of the officers.

此等の士官には大概心安くなった。

Most people have their own opinions. 人は過

半自己の意見があるものだ。

Most (part) of his land is mortgaged. あの人の地面は過半抵當にはいつてゐる。

74 Least. 範例 (23) の如く in the least は“少くとも”の意。此語は little の最高級で、“最少量”の義。又

That usurer has not the *least* mercy. あの高利貸は微塵も慈悲がない。

He is *at least* thirty years old. 彼は少くとも三十歳である。

75 Which. What. 範例 (37) と (39) では夫々に road と time の形容詞である。

Which は關係代名詞の時にも形容作用をもち、疑問代名詞 what は感動文にも用ひられる：—

She fluently speaks French, *which language* I do not understand 彼女は佛蘭西語を流暢に使ふが、其語は私に解せない。

What a nice color it is! = how nice color it is! 何とマア美しい色ネエ!

What a pity! 憐れだネエ!

What cruelty! 何たる殘忍ぞや!

(7) 代名詞の用途

範例 22. (21ノ續キ) When *he*¹ came home, *his*² old wife grew angry, and scolded *him*,³ saying, " *You*⁴ *fool!* where have *you*⁵ been *this many*⁶ a day?"^{5.6} Telling *her*⁷ *what*⁸ had happened, and opening the basket, *he*⁹ found *it*¹⁰ full of gold, silver, and precious things. The wife, *who*¹¹ was a greedy creature, seeing *all*¹² *these*¹³ riches, thought that *she*¹⁴ *herself*¹⁵ would go and call on the sparrow, too, and set out on *her*¹⁶ journey at once. When *she*¹⁷ reached *her*¹⁸ destination, the sparrow took no pains to feast *her*,¹⁹ Nothing being said about a parting gift, *she*²⁰ asked for something for a present, and carried off with *her*²¹ the heavier *one*²² of the two baskets *which*²³ were produced. But when *she*²⁴ opened *it*²⁵ on *her*²⁶ way home, *all*²⁷ sorts of hobgoblins sprang out of *it*,²⁸ and tormented *her*²⁹ to death. But *her*³⁰ husband, *who*³¹ had been good and kind, remained the *same*.³² *His*³³ great wealth was inherited by the adopted son, *he*³⁴ dying a happy death.

(終り)

【ヂヤが家に歸るとババは立腹して罵詈し、お前さ

んは馬鹿者だ、幾日も幾日も何處に居なさつたと言つた。ヂヤは有りし仔細を告げ葛籠を開いて見ると、金や銀や色々結構な物が一パイ入れてあつた。妻は強慾な奴だったから、こんな寶を見るや我も自から行って雀を訪づれようと思ひ、直ぐに旅立した。さて向ふへ着くと雀は少しも馳走しようとはしない。又手土産の事を少しも言はないから、ババは何か土産をと催促し、雀が止むを得ず出した二つの葛籠の重い方を持って立出でた。然るに途中で之を開いた所が、中から種々雑多の化物がとんで出て、ババを責殺した。併し此迄から善良で深切であつたヂヤは相變らず好々爺であつた。其大財産は貰ひ息子に譲つたが、自分は仕合せにして死んだのである。】 (終り)

77 範例の *you* (5), *she* (1, 9), *she* (14, 17, 20, 24) の如く

代名詞は動詞の主となるを得。

76 範例の *him* (3), *his* (33), *it* (10, 25), *what* (8), *one* (22), *her* (7, 19, 29) の如く

代名詞は動詞の目的となるを得。

78 範例の *her* (21) と *it* (28) の如く

代名詞は前置詞の目的となりて副詞の價値ある熟語を作ることを得。

範例中の熟語は何れも副詞作用をもつ。

79 範例の his (2), her (16, 18, 26, 30) の如く
代名詞の物主格は形容詞の資格を以て名詞の前に
附加せらる。

80 範例の this と many (6), these (13), all
12, 27) の如く
形容代名詞は形容詞の資格にて名詞の前に加ふる
ことを得。

81 範例の herself (15) 及び you (4) の如く
代名詞は名詞と同格に在ることを得。

82 範例の the same (32) の如く
代名詞は動詞の補足となることを得。

83 範例の he (34) の如く
代名詞は獨立主格に立つことを得。

84 範例の you (4) の如く
代名詞は呼喚格たることを得。

85 範例の who (11, 31) と which (23) の如く
關係代名詞は連結作用をもつ。

86 此外範例中には見えないが
或る代名詞は副詞的に用ひられ、或る者は接續詞
的に用ひられる:—

These books are ten sen *each*. (一冊に付)

He and she are *both* absent. (兩方乍ら)

They are *all* dead. (悉く)

He is *a little* dull, but I like him *none* the
less. あれは少々鈍だが、それでも予は均
しく之を愛する。

I am *much* tired (大いに、甚だ)

He is the *most* diligent of all. (最も)

You *least* deserve reward. お前は最も報酬
を受けるに足らぬものだ。

I shall not love you *any* longer. 今後もう
少しもお前を愛せない。

Some fifty men were killed. (凡そ)

Either he or you did this. お前か彼かど
ちらかが此をしたのだ。

Neither ships nor boats were found. 大船
も見えねば小舟も見えなかった。

最後の二例のが接續詞になってをる。

第三章——形容詞

範例 23. Henry the *Eighth*¹ resolved to send¹ Bishop Bonner to France on an *important*² errand. The *English*³ king told him that he must³ speak to the *French*⁴ monarch in a very *proud*⁵ tone; and at the *same*⁶ time he taught him what to say. Bonner said, "If I should use *such*⁷ *haughty*⁸ language, King Francis would order that my head should be chopped off." "Well," cried Henry, "if he dared to do *such*⁹ an *insolent*¹⁰ thing, I would chop off the heads of *ten thousand*¹¹ Frenchmen for it." "Truly, your majesty," answered Bonner, "but perhaps, not *one*¹² of *those*¹³ heads would not fit my shoulders." He died in prison, in the year 1569.¹⁴

【英王ヘンリー第八世が或る重大な用事で監督ボナアを佛國に遣はさうと決心した。そこで王は實に傲慢な語調で佛國王に語れと告げ、同時に又向ふで言ふべき筋を言って聞かせた。所がボナア曰く、私が若し其様な傲慢な言語を用ひますものなら、佛王フランシスは私の首を斬落せと命令しましょう

と。でヘンリーは、ウン、奴が若し其様な暴慢な舉を敢てするならば、朕は其返報に佛國人一萬人の首を斬落してくれると叫んだ。そこでボナアは、陛下よ、如何にも左様でございませうが、そいつ等の首は一つも私の肩に合はないから、私は原の物になれませぬと答へた。此男は一五六九年に牢死をした。】

1 範例中 *Eighth*¹, *ten thousand*¹¹, *one*¹², *1569*¹⁴ は數を指す形容詞であるから數形容詞 (*numeral adjective*) と名づけ、又單に數詞 (*numeral*) とも名づける。

2 範例中 *English*³ と *French*⁴ は *England*, *France* なる固有名詞から來てをるから固有形容詞 (*proper adjective*) と名づけ、頭文字で書き始める。此は左迄必要でないから本書に説かない。

3 範例中 *important*², *proud*⁵, *haughty*⁸, *insolent*¹⁰ は夫々に *errand*, *tone* 等の性質を明狀する形容詞なるゆゑ賦性形容詞 (*qualifying adjective*) と名づく。

上述二種と下述一種と都合三種を除く時は、殘餘幾千幾萬の形容詞は皆之に屬する。

4 範例中 *same*⁶, *such*^{7,9}, *those*¹³ 等は代名詞としても用ひられるから代名詞性形容詞 (*pronominal adjective*) と名づける。併し此は代名詞 52 節に

列記してある形容代名詞と同一物で、名詞を加用する差があるのみである；故に爰に再説する必要が無い。

5 形容詞の變化 英語の形容詞は名詞及代名詞の如く、數、性、格、人稱によって形を變ずることはない。其代りに比較 (comparison) といふ變形法 (23 節—28 節) がある。

(1) 數形用詞

範例 24. England, France, and Russia leagued against Germany, which had *double*¹ the strength¹ that each of the *three*² Powers had. Then Germany formed a *triple*³ alliance with Austria and Italy, the treaty consisting of *seventeen*⁴ articles.⁴ But the *fifth*⁵ article had a *twofold*⁵ sense; and when it came to war, Italy withdrew from the alliance, which weakened its strength by *one*⁷ *fourth*.⁸

【英、佛、露は獨逸に對抗して聯合したが、獨逸の力は此三國の各者の倍もあつた。そこで獨逸は奥伊と三角同盟を組織して、條約文は十七條で出来てあつた。然るに第五條が二重の意味であつたので、

愈よ開戦となると、伊國は同盟より退き、夫れが爲め同盟國の力が四分の一弱くなつた。】

6 範例の *three*,² *seventeen*,⁴ *one*⁷ の如く物數を示す形容詞を原數又は基數 (*cardinal number or cardinal*) といふ。

7 範例の *fifth*,⁵ *fourth*⁸ の如く順番又は分數を示す形容詞を順數又は序數 (*ordinal number or ordinal*) といふ。

8 範例の *double*,¹ *triple*,³ *twofold*⁵ の如く何倍又は何重の意を示す形容詞を倍數 (*multiple*) と名づける。

9 原數:—

one	一	thirteen	十三
two	二	fourteen	十四
three	三	fifteen	十五
four	四	sixteen	十六
five	五	seventeen	十七
six	六	eighteen	十八
seven	七	nineteen	十九
eight	八	twenty	二十
nine	九	twenty-one	二十一
ten	十	twenty-two	二十二
eleven	十一
twelve	十二	twenty-nine	二十九

thirty	三十	two thousand	二千
forty	四十	ten thousand	一萬
fifty	五十	a hundred thous.	十萬
sixty	六十	two hundred thous.	廿萬
seventy	七十	a million	百萬
eighty	八十	two million	二百萬
ninety	九十	ten million	千萬
a hundred	百	a hundred million	一億
two hundred	二百	a thousand million	十億
a thousand	千		

總ての場合に a と one とは何れでもよい。

10 廿と四十九の間の数は又次の如く讀む:—

23=three and twenty.

47=seven and forty.

11 千と千九百九十九の間の数には次の如く二様の讀方がある:—

1,050 = { a thousand and fifty.
 { ten hundred and fifty.

1,120 = { a thousand one hundred and twenty.
 { eleven hundred and twenty.

1,606 = { a thousand six hundred and six.
 { sixteen hundred and six.

12 此以上の大数は下の如く讀む:—

2,650,000=two million six hundred and fifty thousand.

15,135,212=fifteen million one hundred and thirty-five thousand two hundred and twelve.

13 序乍ら十億以上の名を示しておく。此には英算法と佛米算法とある:—

	英 算 法	佛 米 算 法
billion	百萬の百萬倍	百萬の千倍
trillion	上數の百萬倍	上數の千倍
quadrillion	上數の又百萬倍	上數の又千倍
quintillion	以下	以下
sextillion	逐テ	逐テ
septillion	此	此
octillion	ノ	ノ
nonillion	如	如
decillion	シ	シ

14 原数は悉く皆名詞ともなり、其場合に數の最後に在る *hundred, thousand, million* 等は複數形となるを得:—

300=three *hundreds*.

2,600=two thousand six *hundreds*.

3,000,000=three *millions*.

數の中間に在る場合には s を附せず。

325=three *hundred* and twenty-five.

百以下の数も必要あらば複数形となる:—

Twos. Fives. Tens. Fifties.

序乍ら数字の複数は 4's, 7's の如く書く。

15 爰に原数に關する諸例を示す。其内百、千等の語に名詞なくして s のないのがある、此は名詞の略だから矢張形容詞と心得ねばならぬ。

代名詞 58 節に説いた one は數形容詞でない、但し其内 one of which の one は別である。

There are *three hundred passengers* in this ship, and *two hundred (passengers)* in that.

The invaders were *ten thousand* strong. 入寇者の兵力は一萬人であつた。

Hundreds of people lose their lives every year through tram-cars' coming into collision. 年々電車の衝突で幾百人といふ人が死ぬる。

People swarmed *by thousands* in the park. 公園に人が幾千といふほど群がった。

The pupils went home *by twos* and *threes*. 生徒が二人づゝ三人づゝと歸つて行つた。

The members came *two by two (or by twos)*. 會員は二人宛來た。

He was a very clever lad *in his teens*. 彼は廿歳になる迄は神童であつた。(十三歳より十九歳迄を teens といふ、數の語尾に teen がつく故である)

He was then *in his fifties*, and we were *in our twenties*. あの人は當時五十代で、我々は二十代であつた。(fifties は五十より五十九歳迄をいふ、twenties も同理)

16 順數 一二三の外は原數を變形して作る:—

first	第一	seventh	第七
second	第二	eighth	第八
third	第三	ninth	第九
fourth	第四	tenth	第十
fifth	第五	eleventh	第十一
sixth	第六	twelfth	第十二

十三乃至十九は原數に *th* を附加す:—

thirteenth	第十三	fifteenth	第十五
------------	-----	-----------	-----

二十、三十等は原數の y を *i* に變じて後 *eth* を附加し、*i* は (イ)、*e* は (エ) と發音す:—

twentieth	第二十	seventieth	第七十
fiftieth	第五十	ninetieth	第九十

端數ある者は二十、三十等の原數に端數の順數を加へる:—

twenty-first	第廿一	forty-third	第四十三
twenty-second	第廿二	sixty-fifth	第六十五
thirty-first	第卅一		

百、千等は原數の後に *th* を附加す:—

hundredth	第百	millionth	第百萬
thousandth	第千	billionth	

複数の順数は最後のみ順数の形とす:—

第 102 = hundred and *second*.

第 235 = two hundred and thirty-*fifth*.

第 1,632,056 = a million six hundred and thirty-two thousand and fifty-*sixth*.

17 順数は最初に *the* を加用す、故に 100, 125, 1,000, 1,235 等の順数には *a* も *one* も加へず:—

The hundredth house.

The thousand and fifty second day.

The two million and sixty-third year.

18 次に順数の諸例を示す、何れも“第一の”“第三の”又は“第三番目の”“七番目の”と譯する。

順数も亦名詞と略して用ふるを得。

This sentence is found *in third chapter* of this book. 此文は此書の第三章に在る。

I shall be back *on the fifth day* from to-day.

今日から五日目に歸ります。

Wednesday is *the fourth day* of a week. 水

曜日は一週の第四日である。

The seventh of this month is my birthday. 本

月の七日は私の誕生日でございます。

This is *the third watch* (that) I have had in

two years. 今度の時計は私が二年の間に買った三つ目でございます。

He was *the first* (person) that went to Europe.

歐洲へ渡ったのはあの人が始めた。

This is *the first* (time) that I have been here.

爰に來たのは今度が始めてである。

19 原数を順数の代りに用ひて其前に物名を置くのがある:—

There is a picture *in page 5* (=the fifth page).

Chapter three = the Third Chapter. (第三章)

Section six = the sixth Section. (第六篇)

單に番號のみは次の如く讀み且つ書く:—

No. 8 = number eight (=the eighth).

年の讀方は通例次の如くする:—

He was born *in 1866* = he was born *in (the year) eighteen hundred and sixty-six* 又は he was born *in eighteen sixty-six*.

20 分數 順数は *first* と *second* を除くの外皆分數に用ひられる。名詞として用ふる時は、必要に応じて複數となし、前に *one* (又は *a*), *two* 等の原数を加ふ。即ち分母は順数にて示し、分子は原数にて示す:—

$\frac{1}{2}$ = one (or a) half. $\frac{1}{26}$ = a twenty-sixth.

$\frac{1}{3}$ = one (or a) third. $\frac{1}{100}$ = a hundredth.

$\frac{1}{10}$ = one (or a) tenth. $\frac{1}{1000}$ = a thousandth.

$\frac{2}{3} = \frac{1}{3} \times 2 =$ two thirds.

$\frac{7}{13} = \frac{1}{13} \times 7 =$ seven forty-thirds.

$1\frac{1}{2} =$ one and a half.

$3\frac{4}{5} =$ three and four fifths.

The area of this country is about *three fifths* of that. 此國の面積はあの國の凡五分の三だ。

His income has increased by *one half*. あれの収入は二分一がた増した。

A third part of the land is barren. 其國の三分一は不毛の地だ。

21 倍数 “三倍の” “四重の” 等の意ある語:—

single *tenfold*

double, twofold *a hundred fold*

triple, threefold *a thousand fold*

fourfold etc., etc., etc.

此他原數の後に *fold* を加へればよい。

又三には *treble* あり、其外羅匈語から來た quadruple, quintuple, septuple, octuple, decuple, centuple などもあるが、滅多に用ひない。

Single, triple は形容詞として、double は形容詞及び名詞として、其他は形容詞及び副詞として用ひられる。

Is that camelia *single*, or *double*? あの椿は一重か八重か。

This is made of a *triple fold* of paper. 此は紙を三枚重ねて拵らへてある。

Your labour will repay you a *hundred fold*. 君は勞力を費して百倍の報酬を得よう。

This sentence has a *double meaning*. 此文には二重の意味がある。

This wrestler is strong, but that has *double the strength* (or has the *double* of the strength). 此力士は強いけれど、あの方は倍も力がある。

(2) 賦性形容詞

範例 25. Plant is the *general*¹ name of all the *natural*² objects belonging to the *vegetable*³ kingdom, from the *smallest*⁴ grass or *creeping*⁵ flower to the *largest*⁶ tree. Trees have *woody*⁷ trunks and branches, which are generally *hard-grained*⁸ and have a more *extended*⁹ life than the rest. The shrub is a *low*¹⁰ *small*¹¹ kind of tree, and rarely reaches over 20 feet in height. It is *well-known*¹² that there are many *flowering*¹³ shrubs and some *ever-green*¹⁴ ones.

【草木とは最小の草や蔓草より最大の樹に至る迄凡そ植物界に属する自然物の總稱である。樹は木質の幹をもち、此幹枝は概して木理が硬し、そして樹は諸他の植物よりも生命が長い。灌木は低い小さい種類の樹で、二十呎以上の高さになるのは稀だ。花さく灌木が多くあり常緑の灌木も多少あることは人のよく知る所である。】

22 範例の諸の形容詞は何れも性質、品柄を示すが、語源又は語の構造により次の如き區別を立て、もよい、併し此は左迄必要な事でない。

(1) 範例の *woody*⁷ は *wood* なる物質名詞から来てゐるから物質形容詞 (*material adjective*) といふ。

(2) 範例の *creeping*,⁸ *flowering*,¹³ *extended*⁶ は動詞から来てゐるから動詞性形容詞 (*verbal adjective*) といふ。

之には現在分詞を假用したものと過去分詞を應用したのとある。

(3) 範例の *hard-grained*,⁸ *well-known*,¹² *ever-green*¹⁴ の如く二語 (又は數語) の結合したものを合形成容詞 (*compound adjective*) と名づける。

(4) 曩に示した固有形容詞も亦實は賦性形容詞である。

物質形容詞 { Dynamite is an *oily* substance. ダイナマイトは油状の物質である。

The roads are so *muddy* that one cannot walk. 路は泥深くて歩るけやしない。

She talked with *watery* eyes. 彼女は眼に涙ぐんで語った。

動詞性形容詞 { The garrison discharged *boiling* water on the assailants. 城兵は攻撃軍に沸騰水をあびせた。

Our steamer approached the *sinking* boat. 我等の乗れる船は沈みかける舟に近づいた。

We went into the wood with our *loaded* guns. 我等は丸を込めた銃を持って森へ入った。

Lava is *melted* rock. ラグアは熔けた岩だ。

合成形容詞 { He is a well-bred lad. 躰のよい少年だ。

You are half-hearted. 君は冷淡だ。

Money-making persons are generally merciless. 金儲けに汲々たる人は總じて無慈悲だ。

(3) 形容詞の比較

The eagle is the *largest*¹ of all the birds of prey. Its claws are so *strong*,² and its wings are so *large*,³ that it can fly away with an animal much *heavier*⁴ than itself.

【鷲は猛鳥中で最も大なるものである。其の爪は強く其の翼は大きくて、自身よりずっと重い動物をもつて飛去れる。】

23 範例の strong, large の如く、他物に比べず單に性質のみを示す形容詞は原級 (*positive degree*) に在るといふ。

範例の heavier の如く、他物と性質の多少を比べる形容詞は比較級 (*comparative degree*) に在る。

又範例の largest (最大なる) の如く、多数の物の中で或性質の最も多きことを示す形容詞は最高級 (*superlative degree*) に在るといふ。

24 比較を作る規則

語尾變化之法				
	原 級		比 較 級	最 高 級
A	great	大なる	greater	greatest
	small	小なる	smaller	smallest
	high	高き	higher	highest
B	fine	美しき	finer	finest
	wise	賢き	wiser	wisest
	large	大なる	larger	largest
C	happy	幸なる	happier	happiest
	pretty	綺麗な	prettier	prettiest
	muddy	泥深き	muddier	muddiest

D	big	大なる	bigger	biggest
	sad	悲しき	sadder	saddest
	fit	適當な	fitter	fittest
E	coy	内氣の	coyer	coyest
	gay	快活の	gayer	gayest

- A. 原級に *er* を附して比較級を作り、*est* を附して最高級を作る。
- B. 原級の語尾にある *e* を省きて後 *er, est* を附し、以て比較級と最高級を作る。
- C. 原級の語尾にある *y* を *i* に變じて後 *er, est* を附し、以て比較級と最高級を作る。
- D. 原級の語尾に子音ありて其前に短き母音ある時は、子音を更に一つ加へて後 *er, est* を加へる。
- E. 原級の語尾に *y* あるも其前に母音ある時は、其儘に *er, est* を加へる。

25

副詞附加之法

原 級	比 較 級	最 高 級
wicked	more wicked	most wicked
earnest	more earnest	most earnest
suitable	more suitable	most suitable

原級の前に *more* なる副詞を加へて比較級を作り、*most* なる副詞を加へて最高級を作る。

26 以上の二法は如何にして區別するか:—

- (1) 一綴音の形容詞は語尾變化法に據る。
- (2) 二個又は二個以上の綴音より成る形容詞は副詞附加法に據る。
- (3) 語尾に *y* ある二綴音の形容詞は語尾變化法に據ることを得。其他の二綴音形容詞及び三綴音以上の形容詞も稀に語尾變化法に據れど、必要には非ず。

27 不規則比較の形容詞

原	綴	比較級	最高級
bad	悪き		
ill	不快の	worse	worst
evil	不吉の		
good	善良の		
well	機嫌よき	better	best
many	多数の		
much	多量の	more	most
little	少量の	less	least

late	後の 遅き	latter * later	last latest
old	老なる、古き 年上の	older elder	oldest eldest
far	遠き 其れ以上の	farther further	farthest furthest

以上の内 *well* は名詞の前に用ひない。

ill は“不快の”の意の時人の名詞の前に置かない。

Most, least 等は既に代名詞 73 節、74 節に示しておいた。

此他種々あれど之を略し、聊か例を示す。

He is *ill* of a fever. 彼は熱病を煩らつてゐる。

To-day the patient is *worse* than yesterday.

今日患者は昨日より容態が悪い。

She is of a *worse* temper than he. 彼女は彼より悪い氣質だ。

His diseased son is getting *better* day by day.

あの人の病氣の息子は日一日と快方だ。

His *latest* work commands a large public. あ

の人の最近の著述は購讀者が甚だ多い。

This is his *last* writing. 此はあの人の最後の著作である。

She is five years *older* than her husband. あ

の人は聳さんより五つ歳がいてゐる。

Their *eldest* brother ought to be *older* than they. 彼等の一番の兄だもの、彼等より年が
いってゐる筈である。

Any *further* argument is of no use. もう此上
議論するのはだめである。

There is no fence in the *farthest* end of the
play-ground. 運動場の一番向ふの端には垣
がない。

28 慣用熟語：—

Russia has *got the better of* her enemy. 露
國は敵に勝ちました。

Now she is a mere washer-woman, but she *has
seen better days*. 今こそタゞの洗濯婆だ
が昔は鶯鳴かせた事もあった。

The allies *got the worst of it*. 聯合軍は敗
北した。

It must come to this *later or sooner*. 晩か
れ早かれ斯うならねばならないのだ。

You must be back by six *at the latest*. 遅
くとも六時には歸るのだせ。

They fought *to the last*. 最後迄戦った。

With this he *breathed his last*. 斯う言つて
彼は息を引取った。

(4) 形容詞の細説

範例 26. The *heavenly*¹ *bodies dependent*^{2 1,2}
on the sun are named planets, which *are eight*^{3 3}
in number; namely, Mercury, Venus, Earth, Mars,
Jupiter, Saturn, Uranus, and Neptune. Those which
are outside the Earth's orbit are called the *su-
perior*⁴ planets, while the ones inside are the
*inferior*⁵ planets.

Even the *innermost*⁶ of them, Mercury, *is* 36⁶
millions of miles *distant*⁷ from the sun, and the
Earth, which is *the third*⁸ in order from the sun,
is 95 millions.

Jupiter *is remarkable*⁹ for its brightness, and
*larger*¹⁰ than all the others, its diameter being
89,000 miles. But in the distance from the sun, it
*is far inferior*¹¹ to Neptune, which is *the most*¹¹
distant,¹² and moves round the sun once in about
165 years.

Saturn *is less*¹³ in magnitude than Jupiter. He¹³
is surrounded with a ring called the Ring of Saturn,
which is *a most interesting*¹⁴ object in the
*heavenly*¹⁵ regions.

There are *countless*¹⁶ *minor*¹⁷ *celestial*¹⁸ ^{16,17,18} bodies, called planetoids, between Mars and Jupiter. At present we know *more*¹⁹ *than* 300 of them. ¹⁹

【太陽に従属する天體を遊星と名づけ、其數は八つある、即ち水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星である。地球の軌道より外に在るのを優等の遊星と名づけ、軌道以内に在るのが劣等の遊星である。

此内最も内部に在る水星ですら太陽を距ること三千六百萬哩で、第三位に在る地球は九千五百萬哩離れてゐる。

木星は燦爛たる光輝を放つを以て著名な星で、他の諸星より大きく、八萬九千哩の直径をもつてゐる。併し太陽よりの距離に至っては海王星に遙か劣る、海王星は最遠の星で、一度太陽を回るに凡そ百六十五年もかかる。

土星は其の大きさが木星に及ばない。先生は土星の環といふ物に取巻かれてゐるが、此環は天界中で頗る興味ある物である。

火星と木星との間を小遊星といつて無数の小さい天體がある。今では其三百以上知れてゐる。】

29 範例の *heavenly*^{1,15} *superior*⁴ *inferior*⁵ *interesting*¹⁴ *celestial*¹⁸ の如く

形容詞は英語に於て概ね名詞の前に来る。

A man *wise* and *just* の如く名詞の後となる異例も稀にはある。

30 範例の *countless*¹⁶ *minor*¹⁷ *celestial*¹⁸ の三形容詞に於て見るが如く

同一の名詞に係る數箇の形容詞を並列することを得：—

A *poor little* bird. A *tall, fat, strong* man. &c., &c.

31 範例の *the innermost*⁶ 及び *the most distant*¹² に於て見るが如く

形容詞に次ぐべき名詞を略するを得。

此場合には此語を名詞と見做し、文意の上より數、性、人稱等をきめる。

32 範例の *more*¹⁹ の如く
形容詞は屢ば名詞となる：—

	形容詞	名詞
brave	勇敢の	勇士
last	最後の	結局
good	善き	善良; 利益
public	公の	公衆
chemical	化學の	化學藥品
original	本原の	原物
dependent	従属せる	厄介者

此他尙甚だ多し。

33 範例の dependent² が其前の bodies なる名詞に係る如く

熟語を伴ふ形容詞は名詞の次に來る:—

This is a *book* very *difficult* to read.

That is an *art* *useful* to us.

34 範例の eight,³ distant,⁷ third,⁵ remarkable,⁹ larger,¹⁰ inferior,¹¹ less¹³ の場合に於けるが如く

形容詞は動詞の補足となるを得、其場合にも間接に名詞に關係してゐる。

上の eight は *planets* の數を指し、larger は Jupiter の大いさを指す如し。尙又

He is *old* and *weak*.

The boy grew *tall* and *strong*.

She remained *poor*. 彼女は依然貧しかった。

I think him *wise*.

This made him *happy*.

He is *honest, gentle, diligent, and careful*.

此諸例に見る如く、補足となる形容詞も數個並列するを得、各者の間には and を加へられるが、少くとも最後者の前には and を用ふ。次例は然らず:—

The boy is clever, but idle.

He is *old and weak, but very honest*.

35 範例の innermost,⁶ most distant,¹² third⁸ の場合に於て見る如く

最高級の形容詞には名詞の有無を問はず the を加ふ。定りたる事物を指す順數も亦然り。

但し範例の interesting の前なる most は“最も”の意でなく、“甚だ”“非常に”の意で、此場合には the を用ひない、複數の時は a をも省く。

又 most は形容詞となつて最多くの、大概のの意となる時は the を用ひず:—

Most men believe such things.

併し一定數中の大體を指すには the を加ふ:—

The most of the pupils are idle.

36 範例の larger¹⁰ 及 more¹⁹ の如く

甲物に比ぶべき乙物の名に先だつ比較級の形容詞は次に than を要す:—

John is *younger than* Smith.

There is no man *stronger than* George.

37 範例の inferior¹¹ の如く

直ちに羅句語より借來りたる形容詞の比較級は比ぶべき物の前に to を要す。

範例中の *superior*⁴ 又は *minor*,⁷ 其他 *interior, exterior, anterior, posterior, major, prior* 等も亦之に屬する。此等は皆羅句語の比較級そのまゝである:—

Suppose a point *exterior to* this triangle.

此三角形の外に一點ありと假定せよ。

The Russo-Japanese war was ten years *prior to* this event. 日露戦争は此出来事の十年前であつた。

38 範例の heavenly,^{1,15} celestial,¹⁸ countless¹⁶ 及び eight,³ third⁸ の如く

形容詞の意味が程度の大小高低を許さざる者には比較級も最高級もなし。

“更に天の” “一層八つの” “最も第三の” などいふ等がないからである。次に此類の形容詞の一端を示す:—

<i>dead</i>	死せる	<i>liquid</i>	流動する
<i>daily</i>	毎日の	<i>chief</i>	主要の
<i>weekly</i>	毎週の	<i>starry</i>	星月夜の
<i>empty</i>	空虚の	<i>enough</i>	十分の
<i>animal</i>	動物の	<i>infinite</i>	無限の
<i>living</i>	生くる	<i>triangular</i>	三角形の

Etc., etc., etc.

数形容詞、物質名詞、固有名詞、代名詞性形容詞も亦比較を許さない。

但し many, much, few, little 等を除く。

(5) 形容詞の用途

範例 27. “Say, say, Mary, when you give a bath to my *darling*,¹ I wish you would use the thermometer, so as to ascertain if the water is at the *proper* temperature.”²

“Oh, never mind, Madam. When I know *well*³ about it all, what makes you so *uneasy*?⁴ I can do it without *any*⁵ thermometer. If the *little*⁶ one turns *red*,⁷ it shows that the water is too *hot*.⁸ And if it turns *blue*,⁹ it is too *cold*.”¹⁰

【“オイ、オイ、メライや、其子に湯を使はするなら驗温器を使って湯の温度の加減が善いか悪いか見てもらいたいのだに。”

“ナニ奥さん、御心配いりません。私はスッカリ心得てゐますもの、何して御案じなさいます。驗温器なんかはなくても出来ます。赤ちやんが赤くなれば湯が熱すぎる印しで、青くなれば、冷めたすぎるのですもの。”】

39 範例の *proper*,² *any*,⁵ *little*⁶ の如く

形容詞は形容語となって名詞の前に來り、其性質、品柄、數、量等を示す。

40 範例の *uneasy*,⁴ *red*,⁷ *hot*,⁸ *blue*,⁹ *cold*¹⁰ に於て見るが如く

形容詞は不完全動詞の補足となるを得。

(詳細は 34 節を見よ)

41 範例の *darling* の如く

形容詞は名詞を伴はずして自から名詞の資格をも

つことを得る場合が多い。

(詳細は 31, 32 の兩節に在る)

42 範例の *well*³ の如く

或る形容詞は副詞にもなる。又形容詞は時とし

て副詞の代りに用ひられる:—

He drank *deep* and got ill. 彼は深酒を飲んで煩らった。

The cliff towers *high*. 絶壁が高く聳える。

These pictures cost me 50 sen *each*. 此畫は一個につき五十錢かゝった。

Sure enough, it is an heroic deed. 慥かに夫れは勇ましい所行だ。

He could not be *any* happier for it. 夫れでも彼は少しも更に幸福でなかった。

(6) 形容詞の代用となる語句

43 物主格に在る名詞及び代名詞は形容詞の目的を達す:—

The *king's* garden = the *royal* garden.

God's wisdom = the *divine* wisdom.

A *mother's* love = *motherly* love.

(名詞 85 節及び代名詞 79 節参照)

44 代名詞の前に在る名詞は屢ば形容詞の資格をもつ:—

A *gold* watch. A *horse* power.

A *steam* engine. A *hen* house.

Snow storm. A *pine* tree.

(名詞 87 節参照)

45 分詞(現在及び過去の)は形容詞に用ひらる:—

The *rising* sun. A *gifted* poet. 天才の詩人。

Burning fire. *Cultivated* lands.

A *flying* bird. *Educated* persons.

(22 節の 2 参照)

46 分詞を含む熟語は形容詞の資格を以て名詞の次に來ることを得:—

A hunter *running* after a deer.

A person *respected* by people.

47 不定法を含む熟語は形容詞の資格を以て名詞の次に來ることを得:—

There is no water *to drink*.

He was the first man *to help me*.

I have no power *to do so*.

- 48 關係代名詞にて誘致したる從屬文は形容詞の資格を以て名詞又は代名詞の後に來る：—

The army *that defeated the Germans*.

He *who is idle* cannot prosper.

This is the person *to whom I am indebted for the rescue of my life*. 私が命を助かったのは此人の御蔭である。

- 49 前置詞熟語は形容詞の資格にて名詞の次に來り又は動詞の補足となることを得：—

A person *of ability*.

The water *in the river*.

The table *before me*.

His arrival *at the city*.

The river *between England and Scotland*.

A letter *of my father to your cousin Peter*.

- 50 少数の前置詞は形容詞の代用となって名詞の前に來ることを得。又少数の副詞は形容詞の代用となって名詞の前又は後に來ることがある(此は語を省略する場合である)：—

After years. 後年。

The *above* story = the story *which has been given above*. 上記の話。

The *down* train. 下り列車。

The *then* governor. 其時の知事。

The persons *there*. 其所の人々。

第四章——冠詞

範例 28. *A*¹ person asked *an*² idiot, "Why do ^{1,2} you wear your stockings wrong side outward?"
 "Because," said *the*³ latter, "there is *a*⁴ hole on ^{3,4} *the*⁵ other side."⁵

【或人が一人の馬鹿者に、“何故お前は靴下の裏を外側にして穿(は)いてゐるか”と問ふたら、阿呆は“表の方には孔があるから”と答へた。】

1 範例の person, idiot, hole は、どれとも豫じめ定めなかつた人物を今始めて讀者(又は聽者)に紹介し、しかも皆一個である。簡様な名詞の前には *a* か *an* を加へる; 此 *a* と *an* とは同じ效用をもつ。

A と *an* を不定冠詞 (*the indefinite article*) と名づけ、始めて一箇の事物を言顯はす單數の普通名詞に加用す。

2 又範例の latter (後者) は既に言顯はして確定した前後二人の後者(即ち愚人)を指し、又 other side は既に言顯はした裏面に對する語で、矢張既に確定した物を指してゐる。此の如き名詞の前には *the* を加へる。

The を定冠詞 (*the definite article*) と名づけ、確定したる事物を指す。

3 *A* と *an* の別. 範例の person, hole は始めに子音の響あり, idiot は母音の響がある。そこで子音の響で始まる語の前に *a* を用ひ、母音で始まる語の前に *an* を用ひる:—

一列	二列	三列	四列
a cat	an heir	an ant	a eulogy.
a hand	an herb	an ear	a ewe
a pen	an honor	an inch	a one
a tree	an hour	an object	a use
a wall	an hostler	an uncle	a youth

- 此一列と三列とは上に示した定義で了解せられる。
- 二列は頭に *h* あるに何故 *an* を用ゐるかといふに、此 *h* は皆響かない、順次に(エアー)、(アープ)、(オナー)、(アウル)、(オスラー)と發音し、首字は *h* でも其音は母音であるから *an* を用ひねばならぬ。し hostler (馬丁) は又(ホスラー)とも發音し、其場合には *a* を用ひる。
- 四列は首字が母音字だが、(ユーロディ)、

(ユー)、(ワン)、(ユース)、(ユース) と母音の響で始まらぬから *a* を用ひる。

然らば *historian* は子音の響(ヒ)で始まるのに最大文豪でさへ *an* を用ひる人の多いのは如何。此は次の規則から来る、*his-to'rian* の如く

響ある *h* で始まりながら第二綴音にアクセントある語の前には *an* を用ふるを可とする。

(I) 不定冠詞

範例 29. *A*¹ *small man* cannot perceive *a*² ^{1,2} *great man* in his youth. *A*³ *Robert*, who was *a*⁴ ^{3,4} *son* of *a*⁵ *lawyer's*, had *an*⁶ *intense liking* for ^{5,6} *mischief* and fighting. He was so naughty and quarrelsome, that at school he was scolded *a*⁷ *dozen* ⁷ of times *a*⁸ *day*. Even his parents gave him up for ⁸ *a*⁹ *time* as *an*¹⁰ *unpromising youth*. One day *a*¹¹ ^{9,10,11} *friend* of his father's wished to know what profession the lad was fit for, and put him in *a*¹² *room* with ¹² *a*¹³ *Bible*, *an*¹⁴ *apple*, and *a*¹⁵ *pound bill*. If, on ^{13,14,15} his return, he found the boy reading the Bible, he might make *a*¹⁶ *clergyman*; if eating the apple, *a*¹⁷ ^{15,17} *farmer*; and if interested in the bill, *a*¹⁸ *banker*. ¹⁸ When he returned, he found the boy sitting on the

Bible, with the bill in his pocket, and the apple almost eaten. This enigma was explained afterwards when he became *a*¹⁹ *great politician* and *a*²⁰ ^{19,20} *general*.

【小人は尙ほ年少なる偉人を洞見するの明がない。ロバートといふ者は或る辯護士の一子だったが、悪戯と喧嘩を非常に好んだ。どうも腕白で争論すきで、學校でも日毎に何度となく叱られ、一時は其兩親すら迎も將來見込のない少年と諦らめた。或日父の一友は此少年がどんな職業に適してゐるか知りたと思ひ、之を一冊の聖書と一つの林檎と一磅の手形との置いてある一室に居させた。若し此室へ戻った時兒童が聖書を讀んでゐたらば將來僧徒になり、林檎を食つてをれ農夫になり、手形を面白がつてをれば銀行家になるも知れぬといふ考だった。然るに此室へ戻つて見ると、先生は手形をポケットに入れ、林檎は大概食つて、聖書を尻に敷いて坐つてをった。後年此少年が大政治家となり將帥となつた時、此不思議の謎が始めて解けた。】

4 *A certain* の意 範例の ^{5,12} に在る辯護士と室は今始めて言出す人物であるから共に *a* を加へた。此は I 節の定義の通りで、“某の,” “さる” の意となる。

5 *One* の意 範例の *son*,⁴ *dozen*,⁷ *friend*,¹¹ *Bible*,¹³ *apple*,¹⁴ *bill*,¹⁵ *clergyman*,¹⁶ *farmer*,¹⁷ *banker*,¹⁸ *politi-*

cian,¹⁹ general²⁰ は何れも “一箇の” といふ意で, *one* より語意が弱い:—

Give me *a pen*. (数よりもペンを重くいふ)

Give me *one pen*. (数に重きを置く)

範例の中 *son, friend* 等には *a certain* の意も含んでゐる。

6 **Any** の意 範例の *small man*¹ と *great man*² は世上一般の小人又は偉人の中どれでも構はず指すので, *small men, great men* の如く複数としても同意である。単数形に *a* を加へたのは此諸の小人又は偉人の或一つを見本に引く心持で, “總じて小人といふ者” といふ義になる:—

A man is a selfish thing = men are selfish things. 人間といふものは得手勝手なものだ。

A horse is a useful animal = horses are useful animals

7 **A person named** の意 範例のロバートは今始めて言出した人物で, “ロバートといふ人” との意:—

A Mr. Smith called on me yesterday. スミスといふ人が昨日尋ねて来た。

I am a Kon Ino. 私は伊野コンと申す者です。

8 **Per** の意 範例 *a*³ が此意になる, “ついて” の義で, *a day* は “一日に付て” “日毎に” といふこと:—

I see him 2 or 3 times a week.

Rice is now 20 yen a koku. (一石廿圓)

此 *a* は冠詞でなく、實は昔の前置詞である。

9 **Some** の意 範例の *a*⁴ は “幾らかの” “若干の” の意で、次語 *time* の一部分を示す。(名詞 73 節参照) 次例も之に屬する。

I see a ship at a distance.

Give me a little wine.

10 **A+抽象名詞** 範例の *liking*⁵ は “嗜好” といふ抽象名詞なれど、爰には嗜好の現はれる一の場合を示す故 *a* を加へる (名詞 73 節参照)。又 *youth*¹⁰ も “年少” なる抽象名詞だが、爰では普通名詞となって年少の人を指すから *a* を加へる (名詞 74 節参照)。

抽象名詞に就ては又名詞 75 節参照。

11 **A+物質名詞** 名詞 68, 69, 70 の三節に述べた物質名詞は皆普通名詞となるから、今爰に示した諸の場合に相當する單數の者には *a, an* が加へられる。

12 **A+固有名詞** 人名に *a* を加へる場合は 4 節に述べたが、又次の如き場合にも *a* を加へる:—

He is a Morgan = he is one of the Morgans.

彼はモルガン家の人である。

He is a Milton = he is a great poet like Milton.

彼はミルトンの如き大詩人だ。

(名詞 65 節参照)

(2) 定冠詞

範例 30. Sir Thomas More was bred for *the*¹ *law*. He was once called to *the*² *bar*, and in *the*³ *year* 15²³, was chosen speaker of *the*⁴ *House of Commons*. In 1530, he was made chancellor. *The*⁵ *following event* took place while he was in *the*⁶ *bench*, and puts a good example to *the*⁷ *judge*. A *person* who had a suit in his court sent him two silver flagons, thinking that *the*⁸ *present* would please him. *The*⁹ *righteous More* was too upright to favor *the*¹⁰ *unjust*. Calling one of *the*¹¹ *servants*, he told him to fill *the*¹² *vessels* with *the*¹³ *best wine* in *the*¹⁴ *cellar*. He turned round to *the*¹⁵ *bearer of the*¹⁶ *bribe*, and returned *the*¹⁷ *cups*, saying, "Tell your master that if he approves of my wine, I beg he will not hesitate to ask of me." More was gifted with much of *the*¹⁸ *pen*, *the*¹⁹ *tongue*, and *the*²⁰ *patriot*; but in learning Erasmus, his illustrious friend, was *the*²¹ *better* of *the*²² *two*.

【サー、トマス、モアーは法律業に就く目的で仕込まれたが、曾て辯護士仲間にも入り、一五二三年には下院の議長に選ばれた。一五三〇年に彼は大法

官に挙げられたが、次に言ふのは彼が此職に居る頃に起った事で、裁判官たる者の龜鑑である。モアーの法廷で訴訟してをる或男が二個の銀壺を贈り、定めて贈物が気に入るだらうと思った。然るに廉正のモアーは不正な輩に依怙する様な偏頗な人でない。そこで一人の僕を呼んで土窖中にある極上等の酒を之に入れさせ、賄賂の持参人に向いて曰く、“手前の酒が気に入ったら、遠慮なく貰ひに來いと主人に申せ”と。モアーは天性から文筆も辯舌も愛國心も澤山あつた人である、併し博學に至つては其の高名なる友人イラズマスの方が上手であつた。】

13 制限 範例の *bearer*¹⁵ は賄賂の持参者で、即ち確定した人を指すが、此は *of the bribe* なる句に制限せられるから確定してくるのである。次も同じである：—

The roof of that house. The water in this bottle. The man that came last night.

14 又 *servants*¹¹ は雇主モアーの僕で、暗に *of More* なる句に制限され、其 *the* は *his* の價がある；尙又

She has a mole on the (=her) face. (ホクロ)

15 又 *better*²¹ は *of the two* の制限を受け此二人の中の優つた方といふ意に確定するから *the* を加へたのである：—

I have two sons. This is the younger (one).

16 次に又 best wine¹³ は種々ある中の最良者と確定し、暗に of all なる句の制限を受けるから the を用ひる。形容詞 35 節に在る通り、最高級の形容詞は the を要する。

17 最後に year³ は 1523 に當る年と確定し、此數(又は番號)に制限を受けるから the を要する。次も亦同じ:—

The 24th day of this month.

The 29th year of the Meiji period.

18 再現 範例の present,⁵ vessels,¹¹ bribe,¹⁶ cups¹⁷ の四つは言葉こそ變はれ結局は前述の二邊を再び言顯はしてゐる、即ち既に確定した物を指す。又 two²² も前記の二人即ち確定せる人を指してゐる。故に此諸語につく the は“既述の”“件の”“今言った”などの意である:—

He lives in *Kobe*. *The city* is about twenty miles from *Osaka*.

19 自明 範例の cellar¹⁴ はモアの居處にある土窖なることは言はずして明かで、當然確定せる物だから the をつける。日常の語に此類のが多い:—

I have been to *the Park*. (平素慣れてゐる公園を指す)

He went to *the station*. (上と同様)

“Is he at home?” “Yes, he is in *the garden*.”

Long live *the Emperor*! 陛下萬歲。

此外常識にて只一個と思はれる諸物:—

The sun. The moon. The earth (地球).

The equator (赤道). *The zenith* (天頂點)

The south. The north.

The right (右). *The left* (左). Etc., etc.

20 代表 範例の judge⁷ は特殊の裁判官でなく、世上一般の裁判官を指す目的で用ひてある、此場合には the を其單數形に加へ、又は the を省いて複數とする:—

The (or a) fox is a cunning animal. } 狐は狡猾

Foxes are cunning animals. } な動物だ。

若し複數形に *the* を加ふれば無限でなくて却て有限となり、或局部の中に在る全數を指す:—

The pupils (of this school) are diligent.

The people of Japan are brave.

又動詞の補足となる複數形の *the* なき者は全數中の若干部分のみを指す:—

I am *a pupil* of this school. (全數中一)

He and I are *pupils* of this school¹ (全數の若干部)

They are *the pupils* of this school. (全數)

21 抽象 範例の pen¹⁵ は文筆即ち文を行ふ手腕, tongue¹⁹ に辯舌の力, patriot²⁰ は愛國心, law¹ は法

律の業務, bench⁶ は裁判官の職で、何れも抽象名詞の価値を持つ、此は the を加へた結果である。

又 bar² は辯護士の團體又は職業の意にも法廷の意にもなり、何れも the を加へる。

下例も類似のものである:—

This is a masterpiece of *the pencil*. 此は繪畫(術)の傑作だ。

He did not like *the desk*. 彼は書記の職業を好まなかった。

He decided the matter with *the sword*. 彼は武力で事を決した。

She *went young on the stage*. 彼女は若い頃に俳優となった。

Do not *act the fool*. 馬鹿な行をするな。

22 形容詞と the. 範例の unjust¹⁰ は一切の不正なる人を總括する名詞となる; 凡そ此類の形容詞(概して人を指す)には the を加へて、複數として取扱ふ:—

The rich=all rich persons.

The wise=all wise men.

The learned=all learned men, 學者達。

形容詞によりては the を加へて 抽象名詞と同じ價となる:—

The true=truth.

The sublime=sublimity.

固有名詞を伴ふ形容詞の前に the あれば其人物の特に著るしき性狀を示す。範例の righteous⁹ が其一例である。

23 慣用 時間又は度量衡の名の前又は數の名の前に *by the* を加ふるもの:—

Those coolies work *by the day*. あの人足共は日ぎめで働きます。

He teaches *by the hour*. あの人は一時間幾らの極めで教授します。

They do not sell rice *by the pound*, but *by the koku*, in Japan. 日本では米をポンド幾らで賣らず、石幾らで賣る。

The soldiers were killed *by the hundred* (=by hundreds). 兵隊が幾百人といふ程殺されました。

普通名詞より成る公設物、會、院、社、學校、團體等の名は the を加へる、範例は *the House of Commons* は其一例である:—

The Imperial Diet (帝國議會).

The Foreign Language School (外國語學校).

The Grand Hotel (在横濱の).

但し固有名詞より來る者は the なし:—

Saint Paul's Cathedral.

Owen's College.

24 固有名詞 河、海、大洋、山脈、群島(複數)
船、書物、新聞、雜誌等の名は the を加へる。

一山の名には the を加へない。

The (river) Tone. *The* Amazon.

The Baltic Sea. *The* Japan Sea.

The Atlantic. *The* Pacific.

The Alps. *The* Himalayas.

(Mount Fuji; Mount Vesuvius).

The Philippines. *The* Kuriles (千島).

The Higomaru. *The* Kongo (金剛艦).

The Kojiki (古事記). *The* Asahi (新聞).

固有名詞の前に在る皇帝及皇后なる語には the を加ふ; 但し王、后には加へず:—

The Emperor Augustus. (*King Arthur.*)

一家族の總體を指すには家族の名を複數として the を加へる:—

The Plantagenets. *The Sumitomos* (住友家).

25 *The sooner, the better.* 斯様に比較級の形容詞又は副詞の前に the を置いて(云々する程益ます云々する)の意となる場合が多い; 此 the は定冠詞でない。(副詞 5 節参照)

(3) 冠詞の省略

範例 31. In 1282, Edward I., (who was) *king*¹ of England, conquered Wales. He contrived to quiet the people by a cunning sort of *art*,² and promised them to give a prince that was a Welshman by *birth*³ and could not speak a word of *English*. Both *high and low*⁵ were satisfied^{4,5} with his liberality. Then the king produced his own little child, and said, “*Good Welshmen*,⁶ I declared him *prince*.⁷ He was born *last month*^{8, 7, 8} in your native home, and *of course*⁹ can speak no *English on earth*.¹⁰ He shall *be Prince of Wales*¹¹ from this very day.” Since then, in¹¹ England, *king after king*¹² has given *the title of Prince of Wales*¹³ to his eldest son.¹³

【一二八二年に英王エドワード第一世は威爾斯を征服したが、狡猾な策略で民心を鎮めんと工夫し、威爾斯の地に生れて一つも英語の話せない王を立て、やらうと約束すると、人民は上下共に其寛仁に満足を表した。そこで王は幼ない我子を引出して来て曰くに、“善良なる威爾斯の人々よ、予は之を王と宣言する。彼は先月汝等の本國の地に出生したので無論英語は聊かも話せない。今日只今から之を威

爾斯の王とする”と。此時以來英國代々の王は長子に威爾斯親王の稱號を與へた。】

26 呼喚 範例の Good Welshmen⁶ の如く呼掛けに用ひる普通名詞（即ち呼喚格）には冠詞を附けずにおく：—

Young man, your kite is very high.

Why does it snow, *father*?

但し *father*, *mother*, *son*, *daughter* の如く我眷屬の關係を示す語は呼喚格でなくても冠詞を略す：—

When I came back, I found that *father* and *mother* had gone to ride.

27 同格 範例の king¹ の如く他の名詞と同格になり且つ對人關係を示す名詞には冠詞を略す：—

Elizabeth, *queen* of England.

Alexander, *son* of Philip, *king* of Macedon.

28 補足 範例の who was king of England¹ の如く不完全動詞の補足となり且つ對人關係を示す名詞には the を略す。Prince of Wales¹¹ も同理である

又 prince⁷ の如く“誰某を云々と公示し又は爲す”等の場合の補足にも the を略する：—

They elected him *representative*. 彼を代議士に選舉した。

The people proclaimed him *king*. (宣言した)

He turned *Christian*. 基督信者となった。

範例の如く be の補足に冠詞なきは只一人しか無い物を指すから the を省略するが、數物中の一なる時は *a*, *an*, を要する：—

He is *a* professor of English = he is *one* of the professors of English.

29 稱號、種類 範例の art² の如く *a sort of* 又は *a kind of* に次ぐ名詞は冠詞を要せず：—

A cat is *a kind of* tiger.

又 Prince of Wales¹³ の如く *the little of* の次に在る名詞も冠詞を要せず。又單に稱號のみを示す名詞にも冠詞を省く。例へば

Pope is the name given to the head of the Roman Catholic Church. 法王とは天主教の教主に附けた名だ。

固有名詞の前に来る稱號にも冠詞がない：—

Queen Ann. *Prince* Albert.

President Lincoln. *Lord* Macaulay.

General Gordon. *Commodore* Perry.

Admiral Togo. *Doctor* Wollaston.

但し *the Emperor* Jimmu. *The Czar* Alexander. (24 節参照)

30 國語 範例の English⁴ の如く國語の名には冠詞を加へない。併し *English language* とする時は the を加へる。尤も次例では制限を附するから the を要する：—

“*Ami*” is *the French* of “friend.”

31 對偶 範例の *high and low*⁵ 又は *king after king*¹² の如く、反意の二名詞或は同一の二名詞が接續詞又は前置詞に結付けられて對立する時は、冠詞を略する:—

King and queen are in the palace.

Master and servant walked *side by side*.

Neither brother nor sister is obedient.

You make errors *from time to time*. (時々)

Husband and wife sat *face to face*. (向會に)

32 抽象 範例の *earth*¹⁰ は地球の意でなく“一切”の如き抽象的の意となる; 此の如き名詞には冠詞を用ひない。次例のも同様に、實物を指すのではない:—

Why don't you go to *school* to-day? 今日は何故稽古に (學校へ) 行かないか。

The criminal is in *prison*. 罪人は今縲紲の中に在る。

He is in *hospital*. 彼は入院してゐる。

Will you go by *water*, or by *rail*? 君は水路で行くか汽車で行くか。

I covered 30 miles by *land*, and that on *foot*. 陸路三十哩行ったが、しかも徒歩でだ。

33 此前、此次 範例の *last month*⁸ の如く“此一つ前の”“去ぬる”の意ある *last* には冠詞を附けない; *next* も“此次の”“來る”の意の時には同じである:—

He went abroad *last year*.

I shall call on you *next week*.

但し次例では *the* を要する:—

There was a war in *the last year* of the century. 其世紀の最後の年に戰があつた。
She married at the age of sixteen, and had a child *the next year*. 彼女は十六で結婚して其翌年子ができた。

(Most に就て形容詞 35 節参照)

34 熟語 範例の *by birth*³ 及び *of course*⁹ の如き慣用熟語に冠詞の無いのが澤山ある。次に示すのは一端に過ぎない:—

At anchor. 碇泊して。

At hand. 近く。

In fact. 眞實に。

On purpose. 故らに。

Out of season. シュン外れの。

Call to mind. 思出す。

Do harm. 害する。

Give notice. 警告す。

Leave word. 言置く。

<i>Keep pace.</i>	肩を並ぶ。
<i>Make war.</i>	討つ。
<i>Pay attention.</i>	注意す。
<i>Set sail.</i>	出帆す。
<i>Take cold.</i>	風引く。
<i>Take leave.</i>	離別す。
<i>Take place.</i>	起る。

第五章——動詞

範例 32. A good old woman *was washing*¹ in¹ the river, and *saw*² a peach *floating*³ down the^{2,3} stream. She *picked*⁴ it up, and *smiled*⁵ a^{4,5} *happy smile*, *thinking*⁶ that it *would please*⁷ her^{6,7} good old husband. On her return, she *set*⁸ it⁸ before him; and *just* as he was *going*⁹ to *eat*¹⁰ it,^{9,10} the *fruit split*¹¹ in two, and a little baby *was*¹¹ *born*.¹² The old couple *found*¹³ it very lovely, and^{12,13} *congratulated*¹⁴ themselves. They *called*¹⁵ it^{14,15} *Momotaro* and *brought*¹⁶ it up dearly, *trying*¹⁷ to^{16,17} *make*¹⁸ it as happy as possible. (33 ニツヅク)¹⁸

【善い婆さんが川で洗濯してをると、桃が一つ流れてくるのを見た。婆さんは之を拾ひ上げ、内の善いヂイさんが喜ぶだらうと思ってニコニコ笑った。で内へ歸ってヂイさんの前に出したが、ヂイが食はうとすると、桃が二つに割れて小ない赤ん坊が生れて出た。見れば誠に可愛らしいのでヂイと婆は大層喜び、桃太郎と名をつけて大事に育て、精々嬉しがらせる様にした。】

1 他動詞 範例の saw² は次なる *a peach* を“見た”ので、見るといふ働きが桃に及んだ、即ち婆さんの見る目的が桃である。そこで斯く

甲物の働きが乙物に及ぶことを示す動詞を他動詞 (*transitive verb*) と名づけ、此乙物を示す語を動詞の目的 (*object*) と稱す。

又 thinking³ は次の *that* を目的とし、set,⁸ eat,¹⁰ brought¹⁶ 等は皆 *it* を目的とする。

又 trying も次の *to make* を目的とするが、此は 10 節で自づとわかる; was born¹² も後に知れる。

2 自動詞 範例の split¹¹ は桃が“割れた”といふのみで、桃の働きが他の何物にも及ばない—

他物に及ばない働きを示す動詞を自動詞 (*intransitive verb*) といひ、目的を取らず。

此外 washing,¹ floating,⁸ was going⁹ 等も亦同じく自動詞である。

3 助動詞 範例の please⁷ の前なる *would* を助動詞といふ; please のみでは“喜ばす”だが、爰では“喜びさう”と言ひたいのだから *would* の助けを借りるのである。

動詞の或様式の不足を補ふために添へる *will, would, shall, should, may, can, must* 等を助動詞 (*auxiliary verb*) と名づける。

4 特種の動詞 以上の三種で分類は盡きてゐるが、自他兩動詞に屬する特殊の者が少々ある—

反射動詞 範例の congratulated¹⁴ は反射代名詞を目的として始めて“喜んだ”の意となる; 斯様なのが反射動詞 (*reflexive verb*) で、他動詞の一種である。

5 作成動詞 此は範例の called¹⁵ の如く *it* を目的としながら、*it* を何と名づけたかを示すため更に *Momotaro* を補ひ、“之を桃太郎なる名に致した”といふ完全な義にしてゐる。Found¹³ も之に屬する。此類の動詞を作成動詞 (*factitive verb*) と名づけ、他動詞の一種である。

6 使令動詞 範例の make¹⁸ は *it* を目的とするが、*happy* を補つて始めて“夫れを幸ならしめた”といふ義にする。此が即ち使令動詞 (*causative verb*) で、亦他動詞に屬するものである。

7 同族動詞 範例の smiled⁵ は微笑した意で、自動詞であるが、屢ば *a smile* の如き名詞を添へて目的に見せかける。此類のが即ち同族動詞 (*cognate verb*) で、此假裝目的を同族目的 (*cognate object*) と名づける。

8 無人稱動詞 範例には見えないが、*it rains* (雨がふる) の如く常に *it* を文主とする動詞に此名 (*impersonal verb*) を與へ、自動詞のも他動詞 (*irk, behove, etc.*) のもある。

9 次に特種動詞の用例を示す。但し同一動詞で用ひ方に由り此動詞となるのが多い。

- 反 Did you *hurt yourself*? 御怪我なされたか。
- 射 He *exerted himself* to accomplish his object. 彼は目的を達せんと努力した。
- 作 The king *appointed* him *governor*. 王は彼を知事に任命した。
- I *think* him *wise*.
- 成 They *took* me for a *rogue*. 彼等は予を悪漢と取った。
- The people *elected* him *President*.
- 使 *Let* him *go on* sleeping. 其儘寝させておけ。
- I cannot *allow* you to be *idle*. お前を怠惰にさせておけない。
- 命 I *caused* him to *go*=I *made* him *go*.
- I *compelled* him to *give up* his object. 無理強ひに目的を棄てさせた。
- 同 He *lived* a life of ease and *died* an *unnatural death*. 安樂に暮した。
- I *dreamed* a *strange dream*. 妙な夢みた。
- You *laugh* a *loud laugh*. 君は高笑する。

- 族 The soldiers *fought* a *bloody battle*. 兵士は惨絶な戦をした。
- 無 *Does it snow* much in your country?
It froze last night. 昨夜は冷えました。
- 人 *It thundered*. 雷鳴した。
- 稱 *It irks* me to do nothing. 何にもせないのは苦しく思ひます。

10 補足¹ 動詞の意味の不完全を補ふ語が補足 (complement) である。He likes とのみ言へば、何を好むのか知れないから、是非 he likes fruit の如く目的を要する、此目的が likes の補足である。そこで

他動詞は常に補足を要し、此補足は目的格の名詞、代名詞、其他名詞の資格ある語句である:—

- I like this boy. (名詞補足)
- I like him. (代名詞補足)
- I like to read. (不定法補足)
- I like reading. (ゼラント補足)
- I know that he is wise. (従句補足)

範例の trying¹⁷ は to make.....possible なる不定法補足を持つ。

11 自動詞は I went, he slept の如く大概夫自身で意味完全なれど、又不完全なのがある。例へば he seems のみでは如何に見えるか知れない。故に

是非 *he seems wise* の如く補助となる語を要する。
そこで

若干の自動詞は補足を要し、此補足は主格名詞、
形容詞、不定法、分詞、副詞、熟語等である：—

<i>He proved a thief.</i>	(主格補足)
<i>He appears wise.</i>	(形容詞補足)
<i>He seems to be idle.</i>	(不定法補足)
<i>He is standing.</i>	(現在分詞補足)
<i>He got drunk.</i>	(過去分詞補足)
<i>He stood aloof.</i>	(副詞補足)
<i>The school is at that place.</i>	(熟語補足)
<i>It measures 300 feet.</i>	(副詞補足)

此例の 300 feet は目的格名詞を副詞に
用ひたので、之を目的副詞 (*objective
adverbial*) といふ。

又第一例の主格補足を客言主格 (*pred-
icate nominative*) と名づける。

12 第二補足 單に *I made him*, *I think him* と言
へば彼を何としたか、何と考へるかが不分明で、目
的を附しながら意味が徹底しない。そこで *I made
him a sailor*, *I think him good* とすれば始めて完
全な意味になる。斯く目的 (即ち他動詞の補足) の
上に附加する語が第二の補足である。そこで

或る他動詞は目的以外に更に他の補足を要し、此

補足は名詞、形容詞、不定法、分詞、副詞、*as*,
又は熟語である：—

<i>They declared him king.</i>	(主格補足)
<i>I believe him honest.</i>	(形容詞補足)
<i>I allowed him to go out.</i>	(不定法補足)
<i>I think him dying.</i>	(現在分詞補足)
<i>I suppose it finished.</i>	(過去分詞補足)
<i>I took it ^{ワルツ} amiss.</i>	(副詞補足)
<i>I regard him as a foe.</i>	(副詞補足)
<i>I took him at his word.</i>	(熟語補足)

此第一例の主格補足も亦 11 節の場合の
如く客言主格 (*predicate nominative*)
である。

13 直接目的と間接目的：—

I gave him a watch (= *I gave a watch to
him*).

I bought him a watch (= *I bought a watch
for him*). あの男に時計を買ってやった。

此二文の時計は *gave*, *bought* の目的で、*him* な
くとも意味は完全だ。之を直接目的 (*direct ob-
ject*) といふ。

次に *him* を間接目的 (*indirect object*) といふ。

間接目的は動詞と直接目的との間に置かれる
が、*to* か *for* を加へて直接目的の次に送つて

もよい。但し動詞によって to と for の用別がある。

併し直接目的が it で間接目的が代名詞ならば、it を動詞の次に置く：—

He gave it me (=he gave it to me).

I told it him (=I told it to him).

He sent it us (=he sent it to us).

斯く二重の目的を取る動詞を與格動詞 (dative verb) と名づく、而して其間接目的は與格目的 (dative object) で、和譯では大概 “に” なる語尾がつく。

14 完全と不完全：—

完全 1 (自動詞) A dog ran.

完全 2 (他動詞) I hear a noise.

不完全 3 (自動詞) She looks pale.

完全 4 (他動詞) I think him honest.

此 1 の如く補足なくとも完全なる意味を爲す自動詞を完全自動詞 (complete intransitive verb) といひ、又 3 の如く補足を加へねば意味完全ならざるを不完全自動詞 (incomplete intransitive verb) といふ。

同様に 2 の如く一個の目的を附して完全の意味をなす他動詞が完全他動詞で、4 の如く第二補足を加へねば意味完全ならざる者不完全他動詞である。

15 意味の變化 多數の動詞は意味の變化に従つ

て自動詞にも他動詞にもなり、完全にも不完全にもなる。次例は變化の一斑を示す：—

{ 完 全 He is here. He ran.

{ 不完全 He is honest. He ran mad.

{ 自 動 He got drunk. You speak well.

{ 他 動 He got money. He speaks French.

{ 完 全 He made a kite.

{ 不完全 { 作成 He made me happy.

{ 不完全 { 使令 He made me go there.

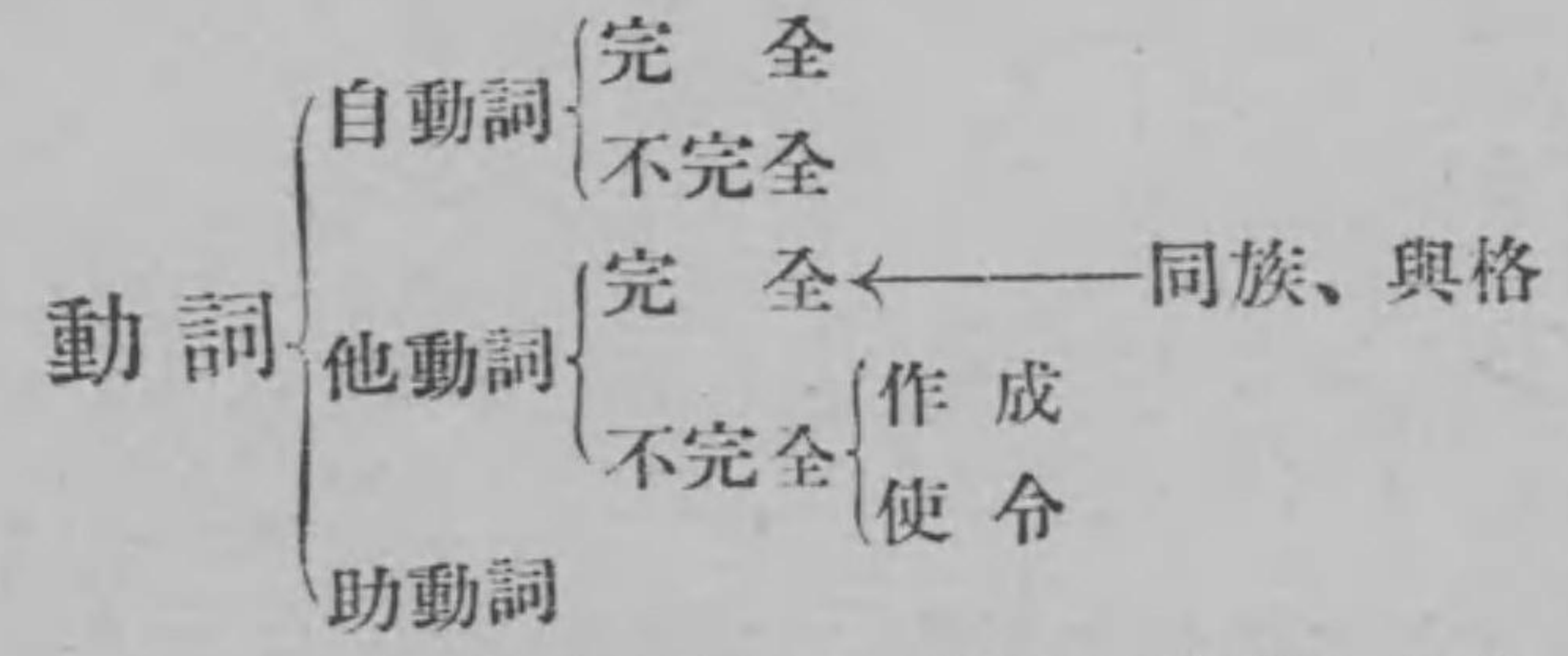
{ 不完全 { 反射 He made himself uneasy.

{ 自 動 I dreamed last night.

{ 他 動 I dreamed that you went abroad.

{ 同 族 I dreamed a dream.

上 述 の 一 覧 表



- 無人稱動詞ニハ自動ト他動トアリ。
- 反射動詞ニハ完全ト不完全トアリ。

(1) 動詞の結法

(語法、時制、數、人稱、法)

範例 33. (32ノ續キ). By degrees Momotaro *grew*¹ up *to be*² strong and brave. At last one day *he*² *said*³ to his old foster-parents:—

“There *are*⁴ ogres in an island, as *you know*^{5, 4.5} where great *riches have been amassed*⁶. If I *should do*⁷ away with them, it *will be*⁸ a great *happiness*^{7.8} to many people. So *I am*⁹ *going*¹⁰ to the island, in order that I *may conquer*¹¹ them and (*may*) *carry*¹² off the riches. Pray, then, *make*¹³ me some millet dumplings for my journey.”

So the old folks *ground*¹⁴ the millet, and *made*¹⁵ dumplings for him. And Momotaro, *taking*¹⁶ an affectionate leave of them, cheerfully *set out*¹⁷ on his travels.

(34 ニゾツク)

【桃太郎は次第に成人して強く勇ましくなった。遂に或日年寄った養父母に言った、“或島に人食鬼が居って、そこに寶が澤山積んであるのでせう。あの鬼共を平らげたら澤山な人が大層助かります。それで私は之を従はせて寶を奪去るため其島へ行く積りです。からして旅の用意にどうか黍團子を拵らへて

下さい”と。夫れ故ヂとババは黍を粉に挽いて團子を拵らへてやると、桃太郎は懇に父母に別れを告げて旅立した。】

16 時制 範例の *are*,⁴ *am*⁹ の如く動詞が今有る事を述べるのが現在時 (*the present tense*) である。

次に *grew*,¹ *said*³ の如く既に過去ったのが過去時 (*the past tense or preterite*) である。

次に又 *will be*⁸ の如く今後の事を述べるのが未來時 (*the future tense*) である；一語で未來を示す法が方今の英語にないから *will* を附けたに過ぎない。而して此

現在、過去、未來の三時を基礎時 (*the primary tense*) と名づける。

17 最後に *have been amassed*⁶ の如く既に完結した事を述べるのが完成時 (*perfect tense*) で、此には現在完成 (*the present perfect tense*), 過去完成 (*the past perfect tense*), 未來完成 (*the future perfect tense*) の三種がある。而して此

現在完成、過去完成、未來完成の三時を從屬時 (*the secondary tense*) と名づける。

現在完成……I *have seen* him.

過去完成……I *had seen* him.

未來完成……I *shall have seen* him.

18 不定形と持続形 *A boy is running, He was writing a letter* 等は“走ってゐる”“書いてをった”の意で、働きが引續づくことを示すから、之を持続形 (progressive form) と名づける。之に對して *he runs, he wrote* の如き形を不定形 (indefinite form) と名づける。

持続形は助動詞の諸の時制に現在分詞を附加して作る。

今 16, 17 二節で示した六種の時に一々不定形と持続形があるから、都合十二形ある。

19 數 動詞にも數がある；上文の *am*⁹ は單數の文主 *I* を持つから單數の動詞である。

又 *are*⁴ は *ogres* なる複數の文主を持ち、*have been amassed*⁶ は *that* を文主とし、其 *that* は *riches* なる複數名詞を受けてゐる。故に此 *are* と *have* とは何れも複數の動詞である。

20 人稱 此も亦動詞に存する。範例の *am*⁹ と *should do*⁷ は共に *I* を文主とするから第一人稱の動詞；又 *know*⁵ は *you* を文主とする故第二人稱の動詞；次に *are*⁴ は *ogres* なる第三人稱名詞を文主とし、*said*³ は *he* を文主とするから、何れも第三人稱の動詞である。

(1) *I had* a son.

└ 第一人稱單數の過去

(2) *They have come.*

└ 第三人稱複數の現在完成

(3) *You will see* him.

└ 第二人稱未來

此 3 の單複は *you* の單複に由て決する。

21 語法 範例の *ground*¹⁴ 及び *made*⁵ は文主 *folks* の發した働きを示すから發動的の言方である。之に反し *have been amassed*⁶ 即ち“蓄積せられた”は文主 *that* が蓄積なる働きを受ける意で受動的の言方である。斯く働きを發したか受けたかを示す言振が語法 (voice) で、今言つた前者を發動語法 (the active voice)、後者を受動語法 (the passive voice) の動詞といふ。

(發動).....*He loves* me.

(受動).....*I am loved* by him.

受動語法の動詞は他動詞の過去分詞を助動詞 *be* の諸の時制に附して作る。

22 不完全動詞、與格動詞、前置詞付き動詞の受動の作り方を次例に示す。前置詞付き動詞とは *look over* (見落す), *find fault with* (咎立てす) の如く末に前置詞ある熟語動詞で、其中受働語法となる者は他動詞の價を持つものに限る。

發 動 受 動

I *made* it strong. It *was made* strong.

I *called* it Bob. It *was called* Bob.

He *gave it* (to) me. { *It was given* (to) me.
I *was given* it.

He *gave me* money. { *I was given* money.
Money was given (to) me.

發動 He *found* fault with me.

受動 I *was found* fault with by him.

23 法 範例の are⁴ は現在の事實, said,³ made¹³ 等は過去の事實, will be⁸ は未來に起るべき事實である。此の如く

現在、過去、又は未來の事實を述べる動詞の様式を直說法 (the indicative mood) と名づく:—

I *know* him. He *came* here. He *will go*.

24 又範例の I should go⁷ は“若し行くならば”といふ假定で、事實ではない。此の如く

實否不明の事又は事實でない事を假定する様式を接續法 (the subjunctive mood) といふ:—

Show me, *if you have* one.

He is honest, *though he be* old.

25 範例の may conquer,¹¹ may carry¹² は“征服又は持去れる”の義で、未來の事實でない:—

有り得べき事、有る可き事、有るを許す事を述べ

現
は
9
P
Q
は

る様式が可成法 (the potential mood) である:—

He *may come*. I *can read*.

You *must go*. We *need not fear*.

可成法は *may, can, must, need not* に動詞の根を加へて作る。

26 最後に、範例の make¹³ は“拵へよ”なる命令である。そこで

直接に對話者に命令する様式を命令法 (the imperative mood) といふ。

Come here boy. *Do not go* there.

Be diligent. *Do not be* idle.

27 結法 以上述べた時制、數、人稱、語法、法の五つを正しく組合せるのを結法 (conjugation) と稱し、動詞の專有物である。例へば see の直說法、第三人稱、單數、發動語法の現在はと問はれて sees と答へたら結法の正を得てをるが, see, saw, is seen などは結法を誤つてゐる。

然らば were, have, had, went 等は何法の何人稱であるか、其儀は今に示す如く明言できない。此は方今の英文法が諸他の國語に比して甚だ道樂な結果で、便利でもあるが實は恐入つた次第である。

28 有限動詞、無限動詞 I see, they run 等の動詞は既に人稱、數、時、法等の制限を受けてゐるから、之を有限動詞 (finite verb) と名づける。

然るに範例の going,¹⁰ taking,¹⁶ to be² 等に至っては I going, he to be などと用ひられず、従って人稱、數等の束縛を受けてゐないから、之を無限動詞 (*infinite verb*) と名づけ、*am going, were taking, liked to be, have been amassed* などいふ風に常に有限動詞等の厄介になる。

偕て無限動詞に不定法と分詞との二種がある。

29 不定法 今示した *to be* の如く動詞根 (*be*) の前に通例 *to* を加へる; 又加へないのも時々ある:—

I wish to see it. To see it, I went there.

I must see it. I did not see it.

30 分詞 今示した *going, taking* の如く動詞根 (*go, take*) の語尾に *ing* を加へた者を現在分詞 (*present participle*) といひ、*gone, taken* の如きを過去分詞 (*past participle*) といふ。

序ながら *I like reading* の如く名詞の價値を有する現在分詞を特に名づけてゼラント (*gerund*) といふ。

31 動詞の根 根 (*root*) とは *go, take, be* の如く數、人稱、時制、法等を示すべき變化を未だ受けない語を指す名で、辭書にある儘の形と思へば略ぼ間違はない。

(結法の要項)

32 (1) 規則動詞 (2) 不規則動詞

動詞根 *Walk, move, etc.* *Go, see, etc.*

過去 *Walked, moved, etc.* *Went, saw, etc.*

過去分詞 *Walked, moved, etc.* *Gone, seen, etc.*

此 1 の如く過去と過去分詞を作るに根に *ed* か *d* を加へるのが規則動詞 (*regular verb*), 又 2 の如く此規則に據らないのが不規則動詞 (*Irregular verb*), である。

33 BE の結法 便利のため先づ不規則動詞から始める。此語は助動詞となる時も主動詞となる時も同結法である。

直 説 法

現 在		現 在 完 成	
I am	we are	I have been	we have been
thou art	you are	thou hast been	you have been
he is	they are	he has been	they have been
過 去		過 去 完 成	
I was	we were	I had been	we had been
thou { wast (wert)	you were	thou hadst been	you had been
he was	they were	he had been	they had been

未	來	未	來	完	成
I shall be	we shall be	I <i>or</i> we shall have been			
thou wilt be	you will be	thou wilt <i>or</i> you will have been			
he will be	they will be	he <i>or</i> they will have been			

接 續 法

現	在	過	去
I be	we be	i were	we were
thou be	you be	thou { were wert	you were
he be	they be	he were	they were

不 定 法

現在 to be	完成 to have been
----------	-----------------

分 詞

現在形 being	完成形 having been	過去 been
-----------	-----------------	---------

無論方今は *you are* 等を *thou art* 等の代りに用ひる。

34 HAVE の結法 此不規則動詞も助動詞主動詞共に同じ結法で、便利の爲め爰に示しておく。

直 説 法

現	在	過	去
I have	we have	I had	we had
thou hast	you ha e	thou hadst	you had
he has	they have	he had	they had
未	來	完 成 形	
I } shall have		現在完成 = 現在形 + had	
we } shall have		過去完成 = 過去形 + had	
thou wilt have		未來完成 = 未來形 + have	
he, you, they will have			

接 續 法

(總テノ人稱ニ於テ) 現在.....have. 過去.....had.

不 定 法

現在.....to have. 完成.....to have had.

分 詞

現在.....having. 完成形.....having had. 過去.....had.
--

主動詞としての have の受動語法：—

(直說法) Be ノ直說法諸形 + had.

(接續法) Be ノ接續法諸形 + had.

不定法も分詞も同理。

35 組立の規則：—

直	現在	{ 三人稱單數 = 根 + s(es)He helps. 其餘ハ單複共ニ根ノ儘We help.
	過去	= 根 + ed(d)You helped.
接	未來	{ 一人稱 = shall + 根I shall help. 其餘ハ will + 根He will help.
	現在完成	= { have ノ現在諸形 } { I have helped. + 過去分詞 } { He has helped.
法	過去完成	= had + 過去分詞 { He had helped. We had helped.
	未來完成	= { have ノ未來諸形 } { I, we, &c. shall have + 過去分詞 } { helped.

接續法 { 現在 = 根の儘He help.
過去 = 根 + ed(d)I helped.

命令法 = 根の儘Help me.

分詞 { 現在形 = 根 + ingHelping.
完成形 = { having }Having helped.
+ 過去分詞 }

不定法 { 現在形 = (to) + 根
完成形 = (to) have + 過去分詞

受動形は前に掲げた be の諸形に過去分詞を加へて作る：—

I am helped. He was helped.

You will be helped. They be helped.

Thou が文主の時、直說法現在は根に st (est) を加へ、過去は ed の次に st を加ふ：—

Thou helpst, thou helpedst, &c. 又其

未來は will でなく wilt とす：—
thou wilt help.

36 語尾變化の注意 (前節の表につき)：—

(1) Pass, fix, reach, clash の如く語尾に s, x, ch, sh, ある根には es を加へ、此 e は (エ) と響く故、綴音一個を増す：—passes, fixes, reaches, clashes.

(2) Cry, reply, study の如く一個の子音字と y にて終る根は、y を i に變じて後 es を加へ、綴音を増さず：—cries, replies, studies.

(3) Echo の如く o に終る根には es を加へ、綴音の數を増さず：—echoes.

(以上三種の外は單に s を加ふ)

(4) Line, invite の如く語尾に一個の e ある根は、此 e を棄て、後 ed, ing を加ふ；而して e の前に t 又は d ありし根は ed を加へて後、綴音一個を増す：—lined, invited ;—lining, inviting.

- (5) Fit, beg の如く只一個づゝの母音字と子音字にて終る根は、此子音字を重ねて後 *ed*, *ing* を加ふ；而して語尾に *t* 又は *d* を持つ根に *ed* を加ふる時、綴音一個を増す：*—fitted, begged; —fitting, begging.*

但し *x* に終る根は單に *ed*, *ing* を加ふ：*—fix—fixed—fixing.*

- (6) Admit, deter の如く只一個づゝの母音字と子音字にて終るも最後の綴音にアクセントある根は *s* に同じ：*—admitted, deterred; —admitting, deterring.*

但し *x* に終る者は單に *ed*, *ing* を加ふ：*—admix—admixed—admixing.*

- (7) Enter, limit, consider の如く只一個づゝの母音字と子音字にて終るも最後の綴音にアクセントなき根は、單に *ed*, *ing* を加ふ：*—entered, limited, considered; —entering, limiting, considering.*

- (8) Picnic, mimic の如く只一個の母音字と *e* とにて終る根は *k* を補つて後 *ed*, *ing* を加へ、綴音の數を増さず：*—picnicked, mimicked; —picnicking, mimicking.*

37 不規則動詞 *Walked, helped, moved, liked* の如く根の語尾に *ed* か *d* を加へて過去及び過去分詞となるのが前述の規則である。此規則通りにな

る動詞を規則動詞と名づけ、次に述べる數百の不規則動詞を除けば、其餘は皆規則動詞である；又之を *weak verb* とも *weak conjugation* の *verb* とも名づける。

38 不規則動詞 語尾に *ed* か *d* を加へて過去と過去分詞を作る規則に従はない動詞で、古英語の遺物である；又之を *strong verb* とも *strong conjugation* の *verb* とも名づける。

Overtake, misgive, foresee の如き複成動詞の變化は *take, give, see* 等の變化に倣ふから、一々擧げる必要はない。

不規則動詞は概して根の母音變化に據る。下記各項の始めに母音“*a; u*”等とあるは、根の母音が *a* に變じて過去となり、*u* に變じて過去分詞になるといふ意。又其次に太き字體で (*begin, began, begun*) 等とあるは、引續きて列記する諸動詞の見本を示したものである。

語の右側に * 又は † あるは、夫々に過去又は過去分詞のとき規則的變化をもなすといふことを示す。

(1) 母音 *a; u*. *Begin, began, begun:*
—*drink, ring, shrink, sink, sing,*
spring, stink, swim.

(2) 母音 *u; u*. *Hang, hung, *† hung:*
—*strike, dig, *† cling, fling, sling,*

slink, spin, stick, sting, swing, *win*,
wring. 但し *win*, *won*, *won*.

(3) 母音 *ou*; *ou*. *Bind, bound, bound*:
—find, grind, wind.

(4) 母音 *o*; *i* (-*n*). *Arise, arose, arisen*:—drive, ride, rise, strive,*†
smite, stride, strive,† thrive;*† *write*.
但し *write, wrote, written*.

(5) 母音 *o*; *o* (-*n*). *Break, broke, broken*:—cleave (割^ク), freeze,
speak, steal, weave, choose.

(6) 母音 *o* (-*e*); *o* (-*n*). *Bear* (生^ビ),
bore, born:—shear,*† swear, tear,
wear. 但し *bear* (運^ブ), *bore, borne*.

(7) 母音 *e*; -(*n*). *Blow, blew, blown*:—
crow,† draw, grow, know, *slay*,
throw. 但し *slay, slew, slain*.

(8) 母音 *oo*; -(-*n*). *Take, took, taken*:
—forsake, shake.

(9) 母音 *i*; *i* 又ハ *i* (-*en*). *Bite, bit, bitten* 又ハ *bit*:—chide, hide, slide.

(10) 母音 *o*; *o* 又ハ *o* (-*en*). *Seethe,*† sod, sod, 又は sodden*:—get, tread.

(11) 母音 *o*; *o*. *Abide, abode, abode*;
awake, awoke, awoke; *shine, shone, shone*.

(12) 過去ト過去分詞ガ同形ノ者. *Hold, held, held*; *behold, beheld, beheld*;
sit, sat, sat; *spit, spat, spat*;
shoot, shot, shot; *stand, stood, stood*;
fight, fought, fought.

(13) 根ト過去ト同形ノ者. *Beat, beat, beaten*;
bid, bid, bidden or bid;
burst, burst, burst; *let, let, let*.

(14) 根ト過去分詞ト同形ノ者. *Bide, bade, bid or bidden*;
come, came, come;
run, ran, run.

(15) 根ニ *en* カ *n* ヲ加フル過去分詞.
Eat, ate, eaten; *fall, fell, fallen*;
give, gave, given; *hew, hewed, hewnt*;
lade, laded, laded†; *mow, mowed, mown*†;
rive, rived, riven;
see, saw, seen; *shave, shaved, shaven*†;
show, showed, shown†;
sow, sowed, sown†; *strew, strewed, strewn*†;
swell, swelled, swollen†.

(16) 次の諸語は上述の外である:—*do*, did, done; *fly*, flew, flown; *lie*, lay, lain.

39 擬似の不規則動詞 通俗に不規則動詞と見做されて實は規則動詞が變形して不規則と見える動詞がある、此等は不規則動詞とっておいてよい 次に名目のみを示し、變化は辭書に譲っておく。Italic體のは比較的 unnecessary ののである。

- (1) Flee, hear, shoe.
- (2) Sell, tell.
- (3) Lay, pay, say, stay.
- (4) *Clothe*, have, make.
- (5) Creep, keep, leap, sleep, sweep, weep, *dip*, stop, *strip*, *whip*.
- (6) *Cleave*, leave.
- (7) Bless, lose, pass, press.
- (8) Deal, dwell, feel, kneel, smell, *spell*, *spill*.
- (9) Burn, dream, lean, learn, mean.
- (10) Catch, teach.
- (11) Bring, buy, seek, think, *work*.
- (12) Bend, blend, lend, rend, send, spend.
- (13) Build, *gild*, *gird*.
- (14) Bleed, breed, feed, lead, *light*, meet, read, speed.

15 *Glde*, shed. 此他 *step* の過去を stepped とする代りに同發音の *stept* を用ひるの數も皆之に屬する。

(2) 直說法の時制

(A. 現在、過去、未來)

範例 34. (33ノ續キ). As he *was journeying*¹ on, he *met*² an ape, who *said*,³ “Kia! kia! kia!”^{2,3} Where *are*⁴ you off to?”⁴
 “I *am going*⁵ to the ogres’ island. They *afflict*⁵ and *eat*⁷ our brethren, you *know*,⁸ and *now* I *go*⁹ to the island to subdue them. To see⁹ what is right and not to do, it *is*¹⁰ want of courage,¹⁰ as Confucius *says*.¹¹”¹¹
 “Some aids *come*¹² after you, I *suppose*?¹³”^{12,13}
 “No, nobody *is coming*.¹⁴ I *am*¹⁵ alone.”^{14,15}
 “What *are* you *carrying*¹⁶ at your girdle?”¹⁶
 “It *is*¹⁷ the very best millet dumplings in all Japan.”¹⁷
 “If you *give*¹⁸ me on, I will go with you,”¹⁸ *said*¹⁹ the ape.¹⁹
 “All right. If you *go*²⁰ with me, *all my business*”²⁰

*will be finished*²¹ before the day *dawns*,²² and ^{21,22}
*we shall be feasting*²³ this time to-morrow.” ²³

So saying, he *gave*²⁴ one of his dumplings to the ²⁴
ape, who *received*²⁵ it and *followed*²⁵ him. ^{25,26}

(35 = 續ク)

【桃太郎はズンズン旅して行くと一匹の猿に逢った。猿は“キャー、キャー、キャー！どちらへ御越なさいますと言った。

“人食ひ鬼の島へ行く所だ。鬼共はいつも我々の同胞を苦めたり食ったりするのう、それで今之を平げるため島へ行くのだ。義を見て爲ざるは勇なきなりと孔子も言つて居られる。”

“あとより助けの者が参るのでせうねえ。”

“いや、誰も来ない。此方獨りだ。”

“御腰の物は何でございます。”

“日本一の黍團子(キビダンゴ)だ。”

“一つ下され御供申します”と猿が言った。

“善し、お前と一緒に来るなら夜の明けぬ内に事が片付き、明日今頃は祝をしてをるよ。”

かう言つて桃太郎は猿に團子を一つ與へると、猿は之を貰らつて供をした。】

40 現在 範例の *is*¹⁰ は“勇氣の缺乏である”と現在過去未來に通じた眞理と信すべき事を定めてをる。又 *is*¹⁷ も此團子は日本一の物で“ある”と不斷換らない事を定言してゐる。そこで

現在時(直説法不定形)は時と所を擇ばず一般に通ずる眞理を示す。

故に格言や科學上の法則等を述べる場合の動詞には此時制が適する:—

Labor *brings* happiness. 勤勞は幸福を生む。

41 次に範例の *afflict*,⁶ *eat*,⁷ *know*⁸ は平素“苦め”“食ひ”又は“知つてゐる”意で、今のみの事でない:—

現在時は平素の行爲、習慣、性質等を示す:—

The Chinese *are* arrogant and cunning, so they *look* down on foreigners, and often *deceive* them. 支那人は尊大で狡猾で、外國人を見下して屢ば之を欺く。

42 次に *are*,⁴ *go*,⁹ *am*¹⁵ は現今のみの事を話す:—
現在時は或場合に現今のみの事を指す:—

He *lives* in Tokyo *at present*.

Go to bed. It *is* late.

此類には *now*, *at present* 等が伴ふとか又は前後の文意等で現今の事と知るに過ぎない。

43 又 *come*¹² は“来る筈”との意で豫定を示してゐる。そこで

行く、来る等の動詞の現在時は豫定を示すとき未

來時の代用となる。Come, go leave, start, depart 等は多く斯く用ひられる:—

I *go* to Yokohama to-morrow.

He *departs* next month for England.

That steamer *sails* this evening.

44 次に又 give,¹⁸ go,²⁰ dawn²² の如く *if, before,* を持つ従屬文の現在動詞は未來の事を説く:—

If, before, till, when, while, unless, though 等に次ぐ従屬文中に在る現在動詞は未來時の代用となる:—

Please write to me *when* you *get* there. 彼地

へ着いたらどうか手紙を寄越して下さい。

45 最後に says¹¹ は孔子の言で, *said* である筈なれど、今も其言の生命が残つてゐるといふ意であるから、現在動詞で差がない:—

Say, tell, hear, 其他類似の動詞の現在時は、或場合に過去又は現在完成の代用となる:—

He *tells* me that he shall go to Kobe soon.

I *hear* that she has a head-ache now.

46 現在持續形 範例の *am going,*⁵ *are carrying*¹⁶ は *go, carry* なる働きが今續いてゐる意である:—

現在持續形は今暫く持續する動作を示す:—

They *are increasing* the army largely in

Germany. 獨逸では盛んに陸軍を増してゐる最中である。

47 又 *is coming*⁴ は“來る筈”の意で、43 節の *comes* と同じく豫定を示してゐる:—

Come, go, leave start, set out 等の現在持續形は、豫定を示すとき未來時の代用となる。

Know, see, hear, have, be, like, 其他類似の動詞は持續形に用ひられない。

48 *Is going to do it* = { (1) 之ヲシカケテキ
ルトコロダ。
(2) 之ヲスルツモリ
デアル。

例 { *I am going to take* supper.
The house is going to fall.

49 過去 範例の *met,*² *said,*^{3,19} *gave*²⁴ 等は皆過去にあって今はもう無い働き、又 *was journeying*¹ は過去の時に旅行が續いてをったのである:—

過去時は過去の時の働きを示し、過去持續形は過去に於て若干時の間持續した動作を示す。

50 未來 範例の *will be finished*²¹ は成就といふ働きが未來にあると豫測し、又 *shall be feasting*²³ は祝宴の働きが未來に續くと豫言してゐる:—

未來時は未來の動作を豫言し、未來持續形は未來に動作の持續することを豫言する:—

He *will be waiting* for me at the station about this time to-morrow. 明日の今頃彼は停車場で私を待つてをる。

I *shall be going* to Osaka soon = I *am going* to Osaka soon.

(B. 完成)

範例 35. (34ノ續キ). Before they *had gone*¹ far, a pheasant was heard to call :—

“Ken! ken! ken! where are you off to? and what are you carrying at your girdle?”

Momotaro answered as before. And the pheasant said :—

“I *have lived*² long in this land, so I *have* often² *heard*³ of your heroism. There is no doubt that you *will have achieved*¹ your deed before many⁴ hours *have passed*.²⁵”

He also begged a dumpling; so Momotaro gave him one and took him into his service. A little while after this, they met a dog, who cried, “Bow! wow! wow! whither away? and what have you at your girdle?”

Momotaro repeated the same answers as before;

and the dog too, having obtained a dumpling, entered his service and followed.

With these aids he *had* never *expected*⁶ before, Momotaro went on his way, thinking, “These followers must be the gifts that Heaven *has given*⁷ me as a reward for my goodness.” (36 ニツヅク)

【まだ遠く行かない内に雉の呼聲が聞こえ、“ケン、ケン、ケン! どちらへに御越なさいます、して御腰の物は何でございます”と言ふ。

桃太郎は前の通り答へると、雉の言ふには、“私は久く此國に住みまするので、度々御勇氣の由を承はつてをります。屹度程なく御手柄を御立てなさいます”と。

雉も亦團子の御裾分けを頼んだので、桃太郎は一つ與へて手下に入れた。暫くすると犬に逢つたが、犬は“ワン、ワン、ワン! どちらへ、して御腰の物は如何な品で”と言つた。

桃太郎は前同斷の答をしたが、犬も亦團子を貰受け、配下に入って御供をした。

桃太郎は思ひもよらない三人の助を得て進んだが、道すがら思ふよう、“此配下の者共は自分の善行の褒美に天の下された賜物だ”と】

51. 現在完成 範例の *has given*⁶ は天の與へた賜が今も尙手に残る意を含み、“與ふ”なる働きは既

に完結して與へた結果が其儘に存する意。そこで
現在完成は動作の完結を知らずと同時に、其動作
 の結果が今も其儘に残ることを示す：—

He *has come* = he *came* and *is here now*.

I *have bought* a watch = I *bought* a watch,
 and *have it now*.

若し過去を用ひて he *came*, I *bought* a watch と
 すれば、來つて後去つたかも知れず、買つて後失ひ或
 は人に與へて今は我手に無いかも知れない。

故に現在完成は現在と親密で過去とは縁が遠
 い。そこで次の規則がある：—

現在完成は今又は今迄の意ある語句又は回数を示
 す語句と共に用ひられるが、過去の意ある語句と
 併用するを許さない。

然らば *now, just to-day, this evening,
 this month, this year, this century* 等、
 及び *once, twice, often, sometimes,
 seldom, before, ever, never, by this
 time* 等との併用を許すが、*yesterday, last
 week, then, at that time* 等と併用できない：—

(誤) He *has come* last night.

(正) He *came* last night.

(誤) I *have said* so some days ago.

(正) I *said* so some days ago.

(正) I *said* so some days ago.

52 次に範例の *have lived*² は以前から久く住ん
 で今も尚ほ住んでゐる意で、矢張結果の存続である。
 故に

現在完成は又曾て始まつた動作が今迄引續いたこ
 とを示す：—

He *has studied* English these five years =
 he *began to study* it five years ago, and
is now studying it still.

故に範例の如きは I *have been living* でもよい。
 53 又範例の *have heard*³ は“聞いたことがある”
 の意で、聞いたのは以前だが聞いたのを今尚ほ覚え
 てゐる、即ち聞いた結果が今以て残存してゐるとい
 ふ意である。故に

現在完成は又以前の經驗の結果を示す：—

I *have heard* his voice = I *heard* his voice,
 so I *know* it.

He *has been* young = he *was once* young, but
 he *is now* old. 若いことも昔あつた。

54 又範例の *have passed*⁵ は未來に於て多くの時
 間が経過してしまふ意で、本來は未來時である筈
 だ。併し

現在完成は *before, after, till, when, while,*

if, unless, though 等に次ぐ従屬文に在れば未來完成の代りをなす:—

When he has finished his work, he may go home. 仕事が済んだら歸るだらう。

Please return me the book *as soon as you have read it.*

55 *Have been* の慣用例:—

He *has been here.* 彼は爰へ来てをった。

He *has been here* twice. 彼は此所へ二度来たことがある。

He *has been here* these three years. 彼は今迄もう三年此所に居る。

He *has been there* two hours. 彼は此で二時間あそこに居る。

He *has been in Japan* for the last three years. 彼はこれで三年間日本に居る。

He *has been in London.* 彼は倫敦に居ったことがある。

He *has been at Nikko.* 彼は日光へ行ったことがある。

He *has been to Kobe.* 神戸へ行ってきた。

He *has been to visit* a friend. 彼は友人を訪問しに行ってきた。

He *has been studying* English long. 彼はもう此で久しく英語を稽古をしてをる。

56 過去完成 範例の *had gone*¹ は雉が啼いた時に最早遠く行ってしまった意、又 *had expected* は三人の助けが出来る迄に豫期といふ動作が完結したことを示してゐる。そこで

過去完成は過去の一定時迄に完結した動作又は其時迄持續した動作を示し、或は又其時以前の經驗の結果を示す:—

故に此時制は獨立することなく、必ず標準となる過去の時を指す語句を伴はなければならない:—

I *had seen* him before (*that time*). 其時より前に彼を見た事があつた。

We *had been speaking* of you before you *came.* 君の来る前に噂をしてをった。

57 未來完成 範例の *will have achieved*¹ は今より數時間後迄に最早勳功を建て、しまふ意。故に未來完成は未來の一定時迄に完結し又は其時迄持續する動作を示す:—

I hope it *will have become* fine before we *get there.* 向うへ着く迄に天氣にしたいものだ。

We *shall have been studying* geometry two years *to-morrow.* 明日でもう二年間幾何學を學んでゐます。

(3) 接續法の時制

範例 36. (35ノ續キ) He said to his comrades, "If everything *go*¹ well, we shall be back by this time ¹ to-morrow. Heaven *reward*² us with success!" ²

"Yes," answered the ape, "and I feel *as if* we ³ *had gained*³ our end already."

The dog observed, "Our master is, *as it were*,⁴ ⁴ the Hercules of Japan. Nothing is difficult with him."

Momotaro interrupted, "But we *had best be*⁵ on ⁵ our guard. The enemy exceeds us in number."

"*Even though* the enemy *were*⁶ ever so many ⁶ and strong," remarked the pheasant, "anything could be no match of a noble cause."

"It may be," said Momotaro, "and *if it had not been for*⁷ my dumplings, "I could scarcely ⁷ have got your valuable aid." (37 = 續ク)

【桃太郎は仲間と言ふ、「萬事障りなく行けば、明日の今頃にはもう歸つてをるだらう。どうか天が成功させて下さるよう」と。

猿は答へた、「左様でございます。して私はもう目的を達した氣が致します」と。

犬は言つた、「主君は言はゞ日本のハーキュリーズと申すべき勇力の人だ。此御方に出来ない事は一つも無い。」

と言ふを桃太郎は遮つて、「イヤ、用心するに如くはない、敵は我等より多勢だから」と言ふ。

併し雉は、「敵が幾ら澤山で強いにしる、何物も正義に勝つことは出来ませぬ」と言つた。

桃太郎曰く、「そうかも知れぬ、して若し團子が無かつたならば、殆んど君達の助力を得られなかつたのだが」と。

58 現在 範例の *go*¹ は萬事首尾が善いか悪いか不明なれど、取敢へず善いと假定したのである：—

接續法現在は現今又は未來の不明な事を假定する、故に此假定の當否は疑である：—

"Is he a Japanese?" "I don't know; *if* he *be* a Japanese, his hair must be black."

"Will he go?" "I don't know; *if* he *go*, I shall have to go with him."

"Will it rain to-morrow?" "It is doubtful; *unless* it *rain*, I will go."

"Is he old?" "I don't know; *though* he *be* old, I will employ him."

{ *If* it (*should*) *rain* to-morrow, he will not go.

{ *Should* it *rain* to-morrow, he will not go.

Should を挿むときは疑を強くする。又 if を省く代りに此 should を文主の前に置いてよい。

59 又範例の reward² は“報ひんことを”と祈願又は希望する意で、特に之を希求法 (*the optative mood*) と名づける人もある:—

Long *live* the Emperor! 皇帝萬歳!

The traitor *perish*! くたばれ逆賊め!

60 過去 範例の were⁶ は敵が際限なく多数で強力でないけれど一時左様だと假定する意:—

接續法過去は現今又は時として未來の事實に反對した事を假定する; 但し未來の事實に反對する假定には *were to do* の形を可とする:—

He has no child. *If he had* one, he would be happy (or *had* he one, he would be happy).

She is rich. *If she were* poor (or *were* she poor), she could not be so happy.

He made up his mind not to go. *If he were to go* (or *were* he to go, or *if* he went), his father would be very angry.

61 *As if, as though* (.....*デアルカノ様ニ*; 恰モ):—

He behaves himself to me *as if* he were a stranger. 彼は私に他人の様な振舞をする。

As it were (言ハバ; 恰モ). (範例 4 に在る)
62 過去完成 範例 *had not been*⁷ は既に團子の効果が有ったのだけれども、効果がなかったならばと假定してゐる:—

接續法過去完成は既往の事實に反對した事を假定する:—

He was not at home. *If I had seen* him (or *had I seen* him), I would have given him your message. 彼は不在だった。若し逢ったら君の傳言をしてあげたのに。

If he had stayed (or *had he stayed*) till now, he could see you. 彼が今迄爰に止まっていたら君に逢へるのだに。

As if, as though (61 節を見よ、例は範例 3)
63 *Had better, best, etc.* (.....*方がヨイ*,*ニ如カズ*, 等)。 範例 *had best be*⁸ が其一例である。 又

You *had best hold* your tongue. 君は口を噤んでをるに如くはないが。

We *had better die* than submit. 屈服するよりも死ぬ方が増したが。

He *had better have died* then. 彼はあの時死んだ方が善かったのに。

此外 *had rather do, had as well do* 等も皆

似た使方ができる。序乍ら此 had は would の轉訛だと言ふ説もある。

64 所要の接續詞 接續法は範例で見ると如く (2) や (5) の様に主文に現はれもするが、大概は次の如き接續詞に次ぐ従屬文中に用ひられる:—

If, unless, though, although, whether, if (=wether), before, till, however (幾らにもせよ), *wherever* (何處にもせよ), *no matter* (に拘はらず), *that, etc.*—*Suppose that* (とせば; としても), *except that* (に非ずんば), *provided that* (ならば; といふ條件附で), *on condition that* (といふ條件附で), etc; 此諸の *that* は屢々略される。

One wishes that の次にも現はれる。

此外尙ほ諸の場合あれど迎も此小冊子に盡くせないから、主要の例のみを下に示す。

Whether there be a fire or an earthquake, we are safe here. 火事が有らうと地震があらうと爰に居れば安全なものだ。

I cannot say whether he be honest or not.

You must be ready before he arrive.

We shall wait here till he come.

However ill he be, he must go to his office.

No matter what one's position be, one should

not be imperious. 身分が如何あらうと人は横柄にするものでない。

O that my father were alive! 嗚呼我父が存命して下されたらう!

Suppose (that) he were angry with you, what excuse would you make to him? 萬一彼が君に立腹したら君は何と言譯する。

He was engaged on condition that he work ten hours a day. 毎日十時間働く條件で雇はれた。

I wish (that) I were a bird. 私は鳥だったら善いに。

He wishes (that) he had withdrawn from the company sooner. 彼はもっと早く會社を引いたら善かったのにと悔んでゐる。

65 接續法の代用物 接續法の代りに直説法を用ひることは珍らしくない、其他場合に由り *should, may* 等も代用になる:—

If it goes (or go, should go) well, I shall make a large sum of money. 甘く行ったら大儲けする。

Though he were (or was) rich, he would not help you. たとひ彼は金持にしても君を助れないよ。

I will start *before* he *comes* (or *come, should come*). 彼の来ない内に出立しよう。

Wherever one *lives* (or *live, may live*), one must be modest. 人といふものは何處に住んでも謙遜でなくてはならない。

66 命令法も時として代用になる、64節の *suppose, except* も亦是れだが、此他尙次例の如きもある：—

Work hard, and you will be rewarded (= *if you work hard, you will be rewarded*).

Go where you will (= *wherever you go*), I will follow you. 何所へ御越でも御供申します。

Do what one way (= *whatever one do*) for you, you are not content. 君は人がどんなにしてくれても十分と思はない。

(4) 命令法

範例 37. (36ノ續キ) At last they got to the island, when Momotaro ordered to the pheasant, “*Fly*¹ over the castle gate.” Then saying to the ape, “*Climb*² over the wall,” and leading the dog, he forced in the gate, got into the castle, and gave battle to the ogres. They were all alarmed, and

their king was taken prisoner. So all the ogres did homage to Momotaro, and brought out the treasures which they had laid up.

So Momotaro went home laden with riches, and after dividing an ample part of the spoils to three faithful followers, maintained his parents in peace and plenty. (終り)

【遂に彼等は島へ着いたが、桃太郎は“城門の上へ飛上がれ”と雉に命じ、猿には“城壁を攀ち登れ”と命じ、自分は犬を連れて門に押入り、城へ入って鬼を攻撃した。鬼共は皆びっくりする、其王は生捕りになる、そこで鬼等は桃太郎に服従し、此迄蓄へた寶を持出して差出した。

是に於て桃太郎は寶を持って故郷に歸り、三人の忠義な手下に分捕品をタツプリ分配した後、安穩に豊かに父母を養った。】

67 範例の *fly*⁶ と *climb*² は本人に直接に發する命令で、此が眞の命令法である。

命令法の動詞は通例文主を持たない：—

普通ノ肯定體 { *Go* to my room, and *bring* me my watch.
Be true to your friends.

重キ言方 *Do go* home at once.

普通ノ否定體 { *Do not go* out this evening.
Do not be false to your promises.

稽古キ { *Go not* to such a place.
否定體 { *Be not* so foolish.

68 併し時として文主を持つことがある。其場合には肯定の時も否定の時も *do* を文主の前に置けど、*do* なくして文主を次に置くことがある、又時には文主を始めに置く：—

Do you go home to your parents.

Don't you deceive me.

Go you (or *you go*) to your country.

69 *Let me, him, &c.* :—

Let me go. 私に行かして下さい。

Let us go. 参りませうぢやないか。

Let him (or *them*) *go.* あれに行かすがよい。

{ *Let us not say* any more. } もう何も言ふまい
{ *Let us say no* more. } ぢやないか。

Let him not be idle. 怠らせないがよい。

(*Do not let him be* idle. 彼を怠らせておいてはいけません)

(5) 可成法

此は次に述べんとする *can, may, must, need not* を用ふる様式を指すのであるから、態々爰に説く必要はなからう。

(6) 助動詞

(a) { 現在形 *Shall. Will.*
過去形 *Should. Would.*

範例 38. A bee offered some honey to Jupiter. The god, being delighted with the present, said, "*I will give*¹ you whatever *you shall ask*."² So the^{1,2} bee entreated him, saying, "*I shall be*³ grateful to³ you, if *you will give*⁴ me a sting. *Human beings*⁴ *will come*⁵ to take my honey. If *any* of them⁵ *shall approach*,"⁶ *I will kill*⁷ him with the sting."^{6,7} Jupiter, though much displeased, could not refuse; so he answered, "*You shall have*⁸ your request if⁸ *you will have*⁹ it. But *it will be*¹⁰ at your own^{9,10} peril. For if you use your sting, *it will remain*¹¹ in the wound you make, and *you will die*¹² from¹² its loss."

*Evil wishes will bring*¹³ their own reward. . 13

【蜜蜂がヂュピター（羅馬の主神）へ蜜を献上した所が、神は此献上物が氣に入つて、“汝の願は何でも叶へて遣はす”と言つた。で蜜蜂は御願した、“どうか螫（ハリ）を一本御恵み下さらば忝くございます。人間が始終蜜を取りに参りますから、若し近く來ましたら其螫で刺殺してやりますから”と。

神は御機嫌甚だ斜めであつたけれど拒む譯に行かない、そこで箇様に答へた、“願の筋聞届けてほしくば聞届けて遣はす。が夫れは汝自身の危険になる。何故ならば蝨を使ふと刺した傷の中に夫れが残り、蝨を無くした爲め汝は死ぬる”と。

悪き願は悪き果報を招く。】

70 *Shall*. 範例の *I shall be*³ は未來に忝く思ふといふ意で、詳細は 50 節と 57 にある:—

Shall は第一人稱に於て單に未來を示す。

71 又範例の *you shall have*³ は“汝に持たせてあげる”と約束する意、若し *he shall have* ならば“彼に持たせてやる”と矢張約束になる。又強制や命令の意にもなる:—

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--|
| 約 | 束 | 強 | 制 | 命 | 令 | <i>You shall have</i> an answer to-morrow. 明日返事が御手に入る様に致します。 |
| | | | | | | <i>The article shall be</i> ready for you soon. 品物が直ぐに御間に合ふ様に致します。 |
| | | | | | | <i>You shall be punished</i> if you do not obey. 従はねばお前を罰してくれる。 |
| | | | | | | <i>That brutal fellow shall perish.</i> あの畜生め屹度死なせてくれる。 |
| | | | | | | <i>You shall make</i> the table of this shape. お前此恰好にテーブルを造れ。 |
| | | | | | | <i>The servant shall come</i> after me. 予のあとから下僕を來させろ。 |

✓ *Shall* は第二及び第三人稱に於ては談話者が命令、強迫、又は約束を文主に與ふることを示す。

72 次に又範例の *shall ask*² 及び *shall approach*⁶ は *you* や *he* が“若しひよつと乞ひ又は近づくことがあらば”といふ意である:—

Shall は或種の從屬文に於て第二人稱又は第三人稱の文主を持てば、發生せないにも限らざる偶發事件を示す。

73 *Will*. 範例の *it will be*,¹⁰ *it will remain*,¹¹ *you will die*¹² が未來なることは 50, 57 二節で知れる:—

✓ *Will* は第二及び第三人稱では單に未來を示す。

74 又範例の *I will give*¹ は“呉れてやろう”と約束する意、*I will kill*⁷ は“殺してやる”と決心する意、*you will have*⁹ は“持ちたい”と希望する意である。そこで

✓ *Will* は總ての人稱に於て文主の意思、目的、希望、約束、決心等を示す:—

I will take you there some day (= *it is my will* to take you there some day).

He says *he will not speak* to you again (= he says *it is his will* not to speak to you again).

75 併し範例の *you will give*⁴ は“御惠み下さる”の意で聊か前述より横路に外づれ、*you* の好意を示

してゐる。次の例は屢ば用ひる體で、人に物事を頼むに使ふ：—

Will you (kindly) give him a message for me? 何卒あの方に傳言して下さいませんか。

此 will を *would* とすれば一層敬意を表する。
76 又範例の *will come* は“始終来る”“又しても来る”“兎角来る”の意である。

次に *will bring*¹³ は“常に惡果を招くものだ”と惡き願の常性を示し、恰も 40 節に示した現在時と同様の意を持ってゐる。そこで

第三人稱の *will* は文主の常習又は常性を示すことがある：—

A burnt child will avoid the fire. やけどした小兒は火をよけるものだ。

Exercise will give us a relish for our food.
運動は吾人に食物を嗜ませるものだ。

77 *Would, Should.* 前述の諸事(即ち未來の豫言、約束、命令、強制、希圖、決心、常習、偶發の疑等)が過去にあつたことを示すには、勿論 *will, shall* を過去として *would, should* を用ひる。此は從屬文(殊に間接説話)に多い：—

(未來) *I said that he would die soon.*

(未來) *He doubted that I should succeed.*

(強迫) *I threatened him that he should be killed.*

3 5 10 10

3

(約束) *I promised him that I would pay him.*

(偶發) *You feared that, if there should be a fire, you should lose the property.*

(目的) *He informed me that he would promote me in a few days.*

(意思) *I answered that I would show my photograph, if he would show me his.*

(常習) *The boy was sickly, and would not eat much.*

78 *Should* の特用

(a) 義務、至當 文主の本務又は本分を示す：—

If you really owe the money, you should repay it. 實際金を借りてゐるなら君は返すべき筈だ。

One should obey one's parents. 人は父母に孝順にすべきものである。

The laws of the country should not be violated.
國の法律は破つてはならないものだ。

(此 *should* は略ぼ *ought to* の意)

79 (b) 意外の事實 直説法で示すべき事實に、*should* を用ふれば驚き、憾み、怪み等の感動を深くする：—

promise
promise

It is *strange that* a man of his large estate *should be* so miserly. あの男の様に大財産ある人があんなに吝嗇だとは奇態だ。

I *wonder that* he *should believe* such things.

It is *a pity that* he *should not take* my advice.

80 (c) 接続法の代用:—

I will see him *lest* there (*should*) *be* any mistake. 間違のない様、彼に逢ひませう。

It is *necessary that* he (*should*) *be* summoned. 彼を召喚するのは必要だ。

It is *proper that* these measures (*should*) *be* taken. 此方針を取るが適當だ。

We *proposed that* the law (*should*) *be* amended. 我等は此法律の修正を發議しました。

此他類似の場合はまだ澤山あるが、何れも直説法の動詞を用ひるは宜しくない。

81 *Should like to do* (シタイモノダ). 單に *like to do* と言ふより婉曲な話方で“詮なき事ながら……したいものだ” “叶ふ事なら……したいが”の意である:—

I should like to know your opinion.

He said that *he should like to see* you tomorrow.

I should like to have called on you. どうか御宅へ伺ひたいものでございましたのに。

(b) { 現在形 Can. May.
過去形 Could. Might.

範例 39. “There is a knock at the door; come in. O, Wm.! *can* it *be*¹ you? What makes you¹ look so uneasy?”—“O, I ought to look so. *Can* (or *may*) I *ask*² you about Mr. Smith?”—“Yes,² you *can* (or *may*).³”—“Isn’t he a man of estate?”—³ “Well, he *may not be*⁴ very wealthy, but he *cannot be*⁵ poor, I understand.”—“So do I. But⁵ he *cannot pay*⁶ the money I lent him last year.⁶ *Can* he *have been*⁷ dissipating?”—“That *cannot be*,⁸ for he is rather frugal. Perhaps he *may have*⁹ all his money invested in some undertaking.”—“*Could* you kindly *prevail*¹⁰ on him to pay my¹⁰ loans?”—“All right, I will try what I *can do*¹¹ for you, but I *cannot tell*¹² whether I shall succeed¹² or not.

【“戸を叩く音がする。おはいりなさい。オー、ウキリヤム、君なのかい。どうして君は心配顔してゐる”】

るの。”—“ウン、心配相に見える譯だ。スミス君の事に就いて君に御尋ねしてもよいか。”—“ウン、してもよい。”—“ありや財産のある男でないのかえ。”—“さうさ、大した金持でないかも知れないが、貧乏の氣遣はないそうだ。”—“僕もそう聞いてゐる。然るに去年貸した金が返へせないのよ。散々金を遣つてをったのであるまいか。”—“そんな事が有る筈がない、どちらかと言へばツマシイ方だから。大方何かの事業に有り切の金を卸してゐるのかも知れない。”—“君恐縮乍ら僕に金を返へす様に説いてくれ給ふまいか。”—“宜しい、成るべく骨を折つて上げよう、併し甘く行くか行かぬか請合へないよ。”】

82 *Can, could.* 範例の *cannot pay,*⁶ *cannot tell*¹² は拂ひ又は話す能力なき意で、*can do*¹¹ は爲す能力を具へる意である。*Could* は其過去である。

He *can do*=he *is able to do.* 彼は爲せる；
爲す能力がある。

He *could do*=he *was able to do.* 彼は爲せた；爲す能力があつた。

Can は文主が現在或る能力を具ふる意を示し、
could は過去に具へし意を示す：—

I *can speak* English Well.

When he was five years old, he *could speak*
English and French.

(96 節参照)

83 又 *can I ask?* は“予の問ひを許すか”の意で、*you can?* は“汝に問ふを許す”の意である：—

He *can do*=he *is permitted to do.* 彼は爲してもよい。

He *could do*=he *was permitted to do.* 彼は爲してもよろしかった。

Can は又文主が現在或動作を許可せられる意を示し、
could は過去に於て許可せられし意を示す：—

You *cannot conduct* yourself badly. 汝は行儀悪くしてはいけない。

We *could rest* an hour a day. 毎日一時間づゝ休めた。

Can } *you do?* (云々シテ下サイマセンカ)
Could }

之は丁度範例の *could you prevail?*¹⁰ に當り、人に物事を頼む文體であるが、*could* は *can* より多く敬意を含む。

84 又範例の *cannot be*^{5,3} は“有り得べからず”の意で一種の推測である。此意は概ね否定文で、*not, no* 等を伴ひ、左なくば *can it be you?*¹ の如く疑問文になる。此意に於ては次に *be* の來る場合が多い：—

He *cannot be honest*=*it is impossible that he is honest.* 彼は正直な筈がない。

Can he be honest? = I wonder if he can be honest; perhaps he cannot be honest. 彼が正直だってね; そうであるまい。

He could not be honest = it was impossible that he was honest.

Can not do 又は can do? は或動作を爲す道理なしと現在推測する意を示し、could not do は過去に於て斯く推測すべかりし意を示す:—

You have never learned English, so you cannot understand this sentence. 君は英語を學んだことがないから此文の意味が解せる筈がない。

He was absent, so he could not know the event. 不在だったから此事を知る道理がなかった。

Can not but do (セザルヲ得ナイ):—

I cannot but think that you tell a lie. 君が虚言を言つてをるとしか思はれぬ。

85 Can not have done (シタ筈ガナイ). 範例の can he have been? は此式の疑問體で“多分そうで無かつたかと思ふがどうだらう”と問ふのである:—

He cannot have done = it is impossible that he did (or he has done).

Can he have done? = is it possible that he did (or he has done)? (ソウデアルマイの意)

Can not have done 又は can have done? は既往に或動作をした道理なしと現在推測する:—

He was here just now, so he cannot have been killed. 彼は今し方爰へ来て居つたのだから殺された筈がない。

I thought that she could not have killed her own child. 彼女が自分の實子を殺した筈がないと予は考へた。

86 May, Might. 範例の you may³ 即ち you may ask は“汝の問ひを許す”の意、又 may I ask? は“予の問ひを許すか”の意。共に 83 節の can に等しい:—

You may go = you are permitted to go. 汝は行つてもよい。

You might go = you were permitted to go. 汝は行つてもよかつた。

May は文主が現在或動作を許可せられる意、might は過去に於て許可せられし意である:—

You may use the book for a week.

He might save money, but he did not. 彼は金を貯へられたのだけに貯へなかつた。

(96 節参照)

May } *I do?* (云々サセテ下サイマセンカ)
Might }

之は 83 節の can you do? could you do? の如く、人に物事を頼む丁寧な文體で、might は may より敬意が多い:—

May I ask whether you are Mr. Sano? 失禮ながら君は佐野様で入らっしゃいますか。

Might I call on you with my son to-morrow?

明日息子と伺っても宜しうございますか。

87 範例の may not be⁴ は“非ざるかも知れぬ”の意で、may have⁵ は“持つてゐないとも言へぬ”の意:—

He *may be* rich=*it is possible that* he is (or will become) rich. あの男は富者(になる)かも知れない。

He *might be* rich=*it was possible that* he was (or would become) rich. 富者(になる)かも知れなかった。

May は現在の可能を示し、*might* は過去の可能を示す:—

He *may be* mad. あれは狂人かも知れぬ。

He *may come*, but I cannot say for certain.

来るかも知れぬが確とは言へない。

He wrote that he *might come* back soon.

彼は程なく歸るかも知れぬと申越した。

88 *May have done* (シタカモ知レナイ):—

Somebody *may have come* in my absence.

不在中誰か来たかも知れない。

I thought that his house *might have been*

burnt in the conflagration. 例の大火で彼は

家を焼かれたかも知れぬと予は思った。

(c) 現在 } *Must.* 現在 *Need.*
 過去 }

範例 40. “I *must need go*¹ to see Mr. Ono¹ to-morrow. He has gone bankrupt, it seems, and if it be really the case, he *must be*² in want.”—² “*Need you not go*³ to your office?”—“Never³ mind; we *need not take*⁴ any trouble about it.⁴ The President is a great friend of his, and *must have seen*⁵ him to do something for him. At any rate, I *must not stand*⁶ aloof, and I positively⁶ will go to his place.”

【“明日は是非小野君に逢ひに行かなきやならぬ、破産したといふが若し實際の事なら嘆ぞ困って居るだらう。”—“君は社へ行かんでもよいのか。”—“ナニ構はん、其事は更に心配に及ばない。社長は小野の大の友人だから、何とかする積りでもう逢つたに違